

Ⅱ 学術活動および院内諸活動

1. 著 書

診療科名：呼吸器内科

著者名	著書名	出版社	出版年月
濱田哲 月野光博	Swyer-James-Macleod症候群 「一目瞭然！目で診る症例」問題編・解答編	日本内科学会雑誌	2019. 8. 1
濱田哲 月野光博	髄外造血 「一目瞭然！目で診る症例」問題編・解答編	日本内科学会雑誌	2020. 1. 1

診療科名：栄養科・栄養治療室

著者名	著書名	出版社	出版年月
大橋佐智子	よりおいしく安全・安心な地産地消の病院食	自治体研究者	2019. 7. 1

2. 論文

診療科名：糖尿病代謝内科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
田邊正喜 茂山翔太 西村好博 櫻井太紀 黒江彰 菱澤方洋 矢野秀樹	GAD抗体測定法の違いによる緩徐進行1型糖尿病の診断の差異	医学検査	VOL. 68 NO. 2 2019 一般社団法人 日本臨床衛生 検査技師会 : P347-P352	2019年

診療科名：循環器内科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Sato Y, Uzui H, Mukai M, Shiomi Y, Hasegawa K, Ikeda H, Tama N, Fukuoka Y, Morishita T, Ishida K, Kaseno K, Miyazaki S, Nakano A, Tada H.	Efficacy and Safety of Tolvaptan in Patients More Than 90 Years Old With Acute Heart Failure	J Cardiovasc Pharmacol Ther.	Jan;25(1):47-56.	2020 Jan

診療科名：呼吸器内科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Okamoto N, Hayashi E, Tsukino M.	Pleural Mucosa-associated Lymphoid Tissue Lymphoma with Trisomy 18.	Internal medicine.	58(6);891-892.	2019年

診療科名：整形外科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
光石直史	Modified anterolateral approachを用いて治療した脛骨高原骨折の2例	中部日本整形 外科災害外科 学会雑誌	P905-P906 Vol. 62 No. 5	2019年
光石直史	小児後頭骨環椎脱臼の1例	中部日本整形 外科災害外科 学会雑誌	P931-P932 Vol. 62 No. 5	2019年

診療科名：脳神経外科（2019.1月～2019.12月）

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Nishida S, Aso T, Takaya S, Takahashi Y, Kikuchi T, Funaki T, Yoshida K, Okada T, Kunieda T, Togashi K, Fukuyama H, Miyamoto S.	Resting-state Functional Magnetic Resonance Imaging Identifies Cerebrovascular Reactivity Impairment in Patients With Arterial Occlusive Diseases: A Pilot Study.	Neurosurgery	2019 Nov 1;85(5):680-688. doi: 10.1093/neuros/ s/nyy434.	2019.11月

診療科名：歯科口腔外科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Takako Sato. Takeya yamada Morio Tonogi	The Effects of Maxillomandibular Advancement and Genioglossus Advancement on SleepQuality	Oral and Maxillofacial Surgery-Practices and Updates. 2019		2019年

診療科名：診療局(研修医)

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
井上拓也 大場秀樹 平野正仁 武原格 一杉正仁	(原著論文)脳卒中患者における早期の自動車運転再開の実態と背景について Early Resumption of Motor Vehicle Driving after Stroke	日本職業・災害 医学会会誌 67(6)	P521~P525	2019. 11月

診療科名：臨床検査科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
田邊正喜 茂山翔太 西村好博 櫻井太紀 黒江彰 菱沢方洋 矢野秀樹	GAD抗体測定法の違いによる緩徐進行1型糖尿病の診断の差異	医学検査. Vol68.No. 2	P347-P352	2019. 4月
Yusuke Y, Yutaka I, Katsuhiro S, Toshiaki K, Kenji O, Satoru F, Naoki H, Atsuyuki K, Takeshi H, Keiichi U, Akira W, Akio N.	Moxifloxacin resistance and genotyping of Mycobacterium avium and Mycobacterium intracellulare isolates in Japan	Journal of Infection and Chemotherapy	Vol. 25 (12) P995-P1, 000	2019. 12月
大輪田晴香 木下愛 馬場康次 塚口扶美枝 清水馨 池本敏行 池川貴子 九嶋亮治	Mycoplasma hominisによる骨盤内膿瘍の1症例	滋賀医学検査	Vol. 10 No. 1 通巻10号	2020. 3. 1

3. 学会発表

診療科名：糖尿病代謝内科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
黒江彰	座長と評議委員会参加	日本糖尿病学会年次 学術集会	仙台国際センター	2019. 5. 23 ~25
黒江彰	座長 糖尿病療養指導(その他 2)	日本糖尿病学会年次 学術集会	仙台市民会館	2019. 5. 25
黒江彰	座長 二次性糖尿病1	日本糖尿病学会近畿 地方会	大阪国際会議場	2019. 11. 9
黒江彰	座長と評議委員会参加 一般演題21 0121-0126	日本病態栄養学会年 次学術集会	京都国際会館	2020. 1. 24

診療科名：循環器内科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
下司徹 中野顯 辻俊比古 高橋宏輔 梶本晃 宮澤豪 綿貫正人 日村好宏	ガイドワイヤーの選択が問題となった 右冠動脈慢性完全閉塞の一例	第29回SCIC	びわ湖大津プリンス ホテル	2019. 6. 8
井上拓也 辻俊比古 中野顯 梶本晃 池田智之 宮澤豪 下司徹 綿貫正人 日村好宏	腹部大動脈瘤治療後に血痰を認めた一例	第127回日本循環器 学会近畿地方会	京都府民総合交流 プラザ(京都テルサ)	2019. 6. 22
井上拓也	学生・初期研修医セッション 優秀演題	第127回日本循環器 学会近畿地方会	京都府民総合交流 プ ラザ(京都テルサ)	2019. 6. 22
辻俊比古	Platypnea-orthodeoxia syndromeの1例	第127回日本循環器 学会近畿地方会	京都府民総合交流 プ ラザ(京都テルサ)	2019. 6. 22
梶本晃 綿貫正人 辻俊比古 高橋宏輔 宮澤豪 下司徹 中野顯	当院におけるCatheter Ablation(CA)の 検討	第226回日本内科学会 近畿地方会	大阪国際交流 センター	2019. 8. 3

診療科名：循環器内科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
Toru Geshi, Akira Nakano, Toshihiko Tsuji, Kosuke Takahashi, Akira Sugimoto, Tsuyoshi Miyazawa, Masato Watanuki	A case of Kawasaki disease treated with a covered stent for thrombotic total occlusion with a giant coronary aneurysm	第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	名古屋国際会議場	2019. 9. 20
下司徹	左前下行枝対角枝分岐部病変に対しReverse wire techniqueを試みた2例	滋賀二刀流Conference	クサツエストピアホテル	2019. 9. 25
中野顯	応用とピットフォール	日本心臓核医学会地域別教育研修会	京都市	2019. 10. 5
中野顯	LADの長区域のlotus-root-like lesionをイメージングガイドで治療した症例	第33回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪市	2019. 10. 12
梶本晃 綿貫正人 辻俊比古 高橋宏輔 宮澤豪 下司徹 中野顯	逆行性側副伝導路の確認に工夫を要した2症例	第128回日本循環器学会近畿地方会	大阪国際会議場	2019. 11. 30
下司徹	治療方針の決定に苦慮した強皮症に合併する肺高血圧症の一例	第13回京滋肺高血圧症懇話会	ザ・サウザンドホテル京都	2019. 12. 6
河野匡暁 下司徹 辻俊比古 梶本晃 高橋宏輔 宮澤豪 中野顯	前立腺癌の関与を疑った低ナトリウム血症の一例	第226回内科学会近畿地方会	大阪国際交流センター	2019. 12. 21
辻俊比古 下司徹 宮澤豪 梶本晃 高橋宏輔 中野顯	DES留置直後に見られた多量のin-stent protrusionに対するRyuseiの効果をOCTで観察した1例	第34回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大阪市	2020. 2. 15

診療科名：呼吸器内科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
岡本菜摘 渡邊勇夫	当院で経験した Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis 菌血症に関する臨床的検討	第93回日本感染症学会総会・学術講演会	名古屋	2019. 4. 6
濱尾信叔 伊藤功朗 小西聡史 田辺直也 大井一成 月野光博 安友佳朗 門脇誠三 平井豊博	肺炎加療におけるβラクタム系抗菌薬による抗菌薬関連下痢症についての検討	第59回日本呼吸器学科学術講演会	東京	2019. 4. 14
岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 林栄一 月野光博	乳房転移を合併した肺内に原発巣のないALK陽性非小細胞癌の症例	第93回日本呼吸器学会近畿地方会	京都	2019. 7. 6
井上拓也 月野光博 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 林栄一	肺MAC症に合併した肺ノカルジア症の一例	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	大阪国際交流センター	2019. 11. 23

診療科名：小児科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
神田健志 中辻恵理 安部大輔 西島節子 石上毅	乳児期に発症した急性散在性脳脊髄炎の1例	第82回日本小児科学会滋賀地方会	滋賀医科大学	2019. 10. 5

診療科名：呼吸器外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
林栄一	胸腺カルチノイドとの鑑別が困難であった胸腺paragangliomaの一例	第36回日本呼吸器外科学会総会	大阪国際会議場	2019. 5. 17
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	胸膜下の空洞形成を伴う難治性肺癭に対してEWS充填が奏効した一例	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	東京ドームホテル	2019. 7. 4
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	右中間気管支幹が左主気管支から分岐した気管支分岐異常を合併した肺癌の一例	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	東京ドームホテル	2019. 7. 5

診療科名：呼吸器外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
林栄一	Tuberculoma and tuberculosis infection	第72回日本胸部外科学会定期学術集会	京都国際会館	2019. 10. 31
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	咳嗽を主訴とし、二次的な陰影を指摘された気管支原発の扁平上皮癌の2例	第60回日本肺癌学会学術集会	大阪国際会議場	2019. 12. 8

診療科名：消化器外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
安田誠一 岡村見 神頭聡 崎久保守人 龍見謙太郎 川部篤	多発重症外傷に対しダメージコントロール手術を行い救命しえた1例	第115回滋賀外科医会	ピアザ淡海	2019. 6. 8
安田誠一 神頭聡 崎久保守人 龍見謙太郎 川部篤	横行結腸癌術後に発症し、特徴的な画像所見を呈した内ヘルニアの1例	第81回日本臨床外科学会総会	高知ちばさんセンター	2019. 11. 14
崎久保守人	当院における直腸脱手術の現状	第116回滋賀県外科医会	ピアザ淡海	2019. 11. 30
川部篤	成人回腸重複腸管の翻転により腸重積を来した1例	第32回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019. 12. 5 ～7

診療科名：整形外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
光石直史	Modified anterolateral approachを用いて治療した脛骨高原骨折の2例	第132回中部日本整形外科災害外科学会	三重県津市	2019. 4. 5～6
光石直史	小児後頭骨環椎脱臼の1例	第132回中部日本整形外科災害外科学会	三重県津市	2019. 4. 5～6
N. MITSUISHI	4 cases of the distal humerus coronal shear fracture	AO TRAUMA Asia Pacific Scientific Congress	Taipei Taiwan	2019. 5. 24 ～25
光石直史	Temporal Fixationが有用であった脛骨高原骨折の1例	第5回岐阜整形外科運動器外傷懇話会	都ホテル(岐阜)	2019. 6. 8

診療科名：泌尿器科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
佐野太一 城文泰 長谷行洋	当院における経尿道的前立腺核出術(TUEB)の初期経験	第33回日本泌尿器内視鏡学会総会	国立京都国際会館	2019. 11. 23

診療科名：脳神経外科(2019. 1月～2019. 12月)

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
中久木卓也	VPシャント後 Isolated Lateral Ventricleの治療に難渋した一成人例	第23回関西ニューロエンドスコープ研究会	大阪	2019. 2. 16

診療科名：脳神経外科(2019.1月～2019.12月)

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
池堂太一	Horizontal Stentで治療した未破裂脳底動脈瘤の一例	第44回京滋脳血管内治療懇話会	京都	2019.9.20
西田誠	破裂前交通動脈瘤クリッピング後に仮性動脈瘤を認めた一例	第76回滋賀脳神経外科症例検討会	滋賀	2019.11.16
西田誠	吸収性局所止血剤(フロシール®)相当の安価な局所止血剤の作成方法とその効果について	第24回関西脳神経外科手術研究会学術集会	大阪	2019.12.21

診療科：形成外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
伊藤文人	何見て決める？ドレッシング材の使い方	第21回日本褥瘡学会	京都国際会館	2019.8.23

診療科名：緩和ケア内科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
黒丸尊治	ホリスティックコミュニケーションの実際	第2回日本心身医学関連学会	大阪市中央公会堂	2019.11.16

診療科名：歯科口腔外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
佐藤貴子 山田剛也 西久保周一 外木守雄ほか	上下顎前方移動術・オトガイ舌筋前方移動術が上気道形態および睡眠におよぼす影響	第29回日本顎変形症学会総会学術集会	学術総合センター	2019.6.8～9
佐藤貴子 山田剛也 西久保周一 外木守雄ほか	顎矯正手術の上顎移動量・移動方向が上気道におよぼす影響について	第18回日本睡眠歯科学会総会学術集会	朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター	2019.11.23～24
前田康弘	P-24 5歳男児の下顎骨に発生した中心性巨細胞肉芽腫の1例	第31回日本小児口腔外科学会総会学術集会	金沢文化ホール	2019.11.22～23

診療科名：診療局(研修医)

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
井上拓也 辻俊比古 中野顯 梶本晃 池田智之 宮澤豪 下司徹 綿貫正人 日村好宏	腹部大動脈瘤治療後に血痰を認めた一例	第127回日本循環器学会近畿地方会	京都府民総合交流プラザ(京都テルサ)	2019.6.22
井上拓也 奥野隆司 岩下洋平 岩瀬耕二 福井亜希子 一杉正仁	高次脳機能障害患者の運転時視線変化の解析	日本医学写真学会第55回総会・第60回定例会	栃木県立がんセンター	2019.7.6～7

診療科名：診療局(研修医)

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
井上拓也 月野光博 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 林栄一	肺MAC症に合併した 肺ノカルジア症の1例	第94回日本呼吸器学会近畿地方会・第124回日本結核病学会近畿地方会	大阪国際交流センター	2019. 11. 23

診療科名：リハビリテーション科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
西澤一馬	脳卒中後遺症患者における下肢装具の使用及び施設間連携における滋賀県内での意識調査	第34回滋賀県理学療法学会	ニプロ iMEP (アイメップ)	2019. 6. 30

診療科名：在宅診療科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
一岡慶紀	急性期病院における在宅医療への取り組み	第69回日本病院学会	札幌市	2019. 8. 1
一岡慶紀	急性期病院における在宅医療への取り組み	第50回滋賀県公衆衛生学会	大津市	2020. 2. 22

診療科名：臨床検査科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
田邊正喜	血液検査に特化したRCPC：RCPCとは？RCPCの回答者になったら	日臨技近畿支部医学検査学会	ピアザ淡海等	2019. 10. 26
豊川美文	自己クリオプレシピテートの院内実施に向けた取り組み	日臨技近畿支部医学検査学会	ピアザ淡海等	2019. 10. 26
櫻井太紀	アルブミン製剤使用削減を目標とした当院での取り組み	日臨技近畿支部医学検査学会	ピアザ淡海等	2019. 10. 26
田邊正喜 西村好博 櫻井太紀 豊川美文 西村美幸 樋口武史	深夜に低血糖を起こした一症例	日臨技近畿支部医学検査学会	ピアザ淡海等	2019. 10. 27
大澤稜 中山章文 樋口武史 伏脇猛司 田所真 赤羽貴行	ストロンチウムアパタイト (SrHAP) を用いたDNA精製法とSrHAP-PCR法の基礎的検討	第31回日本臨床微生物学会	金沢市	2020. 1. 31 ～2. 2

診療科名：臨床工学科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
青野多聞	『CEの時間外業務体制を再考する』～待機の限界と当直の可能性～	第17回滋賀県臨床工学会	草津総合病院9F あおばなホール	2019. 4. 28

4. 講演

診療科名：消化器内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
野口明人	症例提示 直腸扁桃	第88回琵琶湖消化器カンファレンス	クサツエストピアホテル	2019. 6. 6
大井雅之	異所性腺を伴う腸管重複症の一例	滋賀消化器研究会 第83回学術講演会	ピアザ淡海	2019. 7. 20
仲原民夫	TKIを3種類使用できたHCCの2例	HCC-YG Symposium in 京都	リーガロイヤルホテル京都	2019. 7. 26
仲原民夫	当院におけるDAA治療成績	淡海C型肝炎フォーラム	ホテルニューオウミ	2019. 9. 6
野口明人	症例提示 GMAにより寛解導入できた潰瘍性大腸炎の一例	第2回滋賀IBDアフェレンシス学術講演会	ホテルボストンプラザ草津	2019. 9. 17
仲原民夫	C型肝炎の病態と最新の治療	甲賀湖南薬剤師会研修会	水口センチュリーホテル	2019. 9. 28
糸井啓之	アダリムマブで寛解導入されたある潰瘍性大腸炎の経過	炎症性腸疾患の治療戦略を考える会	彦根キャッスルリゾート&スパ	2019. 10. 10
竹治智	がん薬物療法の現状と腫瘍内科医の役割	彦根医師会学術講演会	くすのきセンター	2019. 11. 16
森田幸弘	腺癌の早期発見に向けて	彦根医師会学術講演会	くすのきセンター	2020. 2. 15

診療科名：糖尿病代謝内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
黒江彰	糖尿病における早期治療の意義	これからの糖尿病治療を考える	クサツエストピアホテル	2019. 6. 1
黒江彰	糖尿病治療薬 UP TO DATE	2019彦根合同薬業連携研修会	くすのきセンター	2019. 9. 12
矢野秀樹	キックオフミーティング 糖尿病性腎症とは？	滋賀県湖東医療圏 糖尿病性腎症重症化予防プログラム推進協議会	くすのきセンター	2019. 9. 12
黒江彰	最先端の糖尿病診療 ～湖東地域の診療をふまえて～	第4回市民講演会	長浜市湖北町山本「学び舎」	2019. 9. 21
黒江彰	GLP-1製剤の有用性	和歌山糖尿病学術講演会	ダイワロイネットホテル和歌山	2019. 10. 5
矢野秀樹	糖尿病性腎臓病を進展させないために	第11回和歌山糖尿病地域連携研究会	ルミエール華月殿(和歌山)	2019. 10. 26
黒江彰	大規模StudyからみるSGLT2阻害薬の位置づけ	Diabetes Meeting 2019	北ビワコホテル グラツィエ	2019. 10. 31
黒江彰	『糖尿病治療薬のあり方』 -配合錠の意義も含めて-	滋賀県糖尿病WEB講演会	彦根ビューホテル	2019. 11. 6
黒江彰	透析予防指導のために	透析予防指導会議	彦根市立病院内科外来	2019. 11. 7
黒江彰	糖尿病治療における病診連携の役割	糖尿病地域医療戦略を考える会	北ビワコホテル グラツィエ	2019. 11. 21
黒江彰	糖尿病に関する保健指導のコツ	令和元年度 保健指導実務者スキルアップ研修会	くすのきセンター	2019. 11. 28
黒江彰	糖尿病患者に対する早期治療、教育の意義	糖尿病治療学術講演会	クサツエストピアホテル	2019. 12. 5
矢野秀樹	今後の展開について提案	滋賀県湖東医療圏 糖尿病性腎症重症化予防プログラム推進協議会	くすのきセンター	2019. 12. 26
矢野秀樹	糖尿病から腎臓を守るために	彦根市立病院勉強会シリーズ第8弾	彦根市立病院	2019. 12. 26
黒江彰	腎機能を考慮した糖尿病治療	糖尿病 TVセミナー ネット講演	第一三共株式会社 滋賀営業所	2020. 1. 16
矢野秀樹	ミニレクチャー：糖尿病薬のUp To Date	第28回CDE滋賀フォローアップセミナーin 彦根	ビバシティ彦根	2020. 2. 1

診療科名：糖尿病代謝内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
黒川楓 黒江彰 菱澤方洋 矢野秀樹	急激に口渇、嘔声が生じた糖尿病患者の一例	第14回糖尿病臨床フォーラム	大阪国際会議場	2020. 2. 15
黒江彰	古くて新しいメトホルミン ～適正使用を中心に～	メトホルミンセミナー in 滋賀	びわ湖大津 プリンスホテル	2020. 2. 22
黒江彰	「糖尿病診療における最近の流れ」 ～配合錠の使用意義も含めて～	Takeda DPP-4i Family Web Seminar ～滋賀県糖尿病web講演会～ (m3.com) ネット講演	彦根キャッスル リゾート&スパ	2020. 3. 25

診療科名：循環器内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
中野顯	静脈血栓塞栓症におけるDOACの有用性と残された課題	抗血栓エキスパートセミナーin 湖北	長浜市	2019. 4. 18
下司徹	心房細動における血压管理の重要性	草津ハートカンファレンス	草津ハート センター	2019. 5. 9
下司徹	心房細動における血压管理の重要性 ～JSH2019をふまえて～	循環器フォーラム in 彦根	彦根キャッスル リゾート&スパ	2019. 5. 25
中野顯	PCIにおける出血合併症対策	Webセミナー	彦根市	2019. 7. 22
下司徹	糖尿病患者の高血压治療 ～JSH2019を踏まえて～	糖尿病&循環器疾患診療 Network Meeting	彦根キャッスル リゾート&スパ	2019. 7. 27
辻俊比古	CTO-PCIにおける心筋血流イメージングの役割	第24回関西心臓核医学セミナー	大阪市	2019. 10. 19
中野顯	高血压ガイドライン2019をふまえた N型Caチャンネル阻害薬の使い方	京都N型カルシウムチャンネル 研究会	京都市	2019. 11. 2
中野顯	脳塞栓症をおこさないために	脳卒中Bridge Forum	彦根市	2019. 11. 16
中野顯	新しい利尿薬がもたらす心不全治療 のパラダイムシフト	Webセミナー	彦根市	2019. 11. 18
下司徹	元気で長生きするための狭心症・ 心筋梗塞の治療	第28回彦根市立病院市民公開講座	医療情報センター	2019. 11. 30
中野顯	PCI関連の出血合併症をいかに 減らすか	Webセミナー	彦根市	2020. 1. 20
中野顯	LADの長区域におよぶlotus-root- like lesionの1例	第61回京滋奈良IVC研究会	京都市	2020. 2. 1

診療科名：呼吸器内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
月野光博	当院におけるIV期非小細胞肺癌の 現況	肺癌治療について考える ～EGFR-TKIを中心に～	北ビワコホテル グラツィエ	2019. 5. 30
奥野雄大	酸素療法の再確認 ～一般病棟における適切な酸素装置 の使用とその後の評価、ICU入室の 目安まで～	RRS院内講演会	彦根市立病院講堂	2019. 6. 12
月野光博	肺癌の概要、IV期非小細胞肺癌の 治療について	第8回北琵琶湖メディカルスタッフ カンファレンス (KBMSC)	ホテルサンルート 彦根	2019. 6. 25
月野光博	COPDと喘息合併例症例における診断 と治療	彦根医師会学術講演会	くすのきセンター	2019. 9. 28
奥野雄大	ファセンラが著効した難治性喘息の1 例	湖北喘息連携の会	エクシブ琵琶湖	2019. 11. 14
月野光博	COPDの診断 (解剖生理、COPDの画像含む)	第15回滋賀COPD管理講習会	済生会滋賀病院 なでしこホール	2019. 11. 24
奥野雄大	肺癌の早期発見と早期治療を 目指して	彦根市立病院勉強会シリーズ第9弾	彦根市立病院講堂	2020. 1. 23

診療科名：小児科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
石上毅	インフルエンザ～小児における けいれんなどの関連疾患～	令和元年度第2回小児救急医療地域 医師研修会	彦根市保健・医療 複合施設	2019. 7. 26
西島節子	インフルエンザ～小児における けいれんなどの関連疾患～	小児救急地域医師研修会	琵琶湖ホテル	2019. 10. 26

診療科名：消化器外科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
崎久保守人	当院における膵癌治療について	第223回彦根消化器談話会	くすのきセンター	2019. 6. 11

診療科名：整形外科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
光石直史	ワークショップ1 足関節周囲骨折について	第21回岐阜整形外科卒後夏季 セミナー	岐阜グランド ホテル	2019. 7. 6

診療科名：緩和ケア内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
黒丸尊治	コミュニケーション医学	ホリスティック医学協会関西支部	PLP会館(大阪)	2019. 4. 21
黒丸尊治	「心の治癒力」とは	ホリスティックコミュニケーション 研究所	アスニー山科	2019. 5. 5
黒丸尊治	アロマセラピストに必要なホリス ティックコミュニケーション	ホリスティックケア プロフェッショナルスクール	ホリスティックケ アプロフェッショ ナルスクール東京 校	2019. 5. 25
黒丸尊治	アロマセラピストに必要なホリス ティックコミュニケーション	ホリスティックケア プロフェッショナルスクール	ホリスティックケ アプロフェッショ ナルスクール神戸 本校	2019. 6. 8
黒丸尊治	「つながり」から見たケアを考える	Anicca	名古屋国際 センター	2019. 6. 15
黒丸尊治	ホリスティック医学の考え方	日本保険医学会関西支部	大同生命保険株式 会社大阪本社	2019. 9. 7
黒丸尊治	アロマセラピストに必要なホリス ティックコミュニケーション	ホリスティックケア プロフェッショナルスクール	NBNビル(名古屋)	2019. 9. 21
黒丸尊治	心の治癒力～人生を健やかに生きる ために	田附町自治会	田附町公民館	2019. 10. 19
黒丸尊治	ホリスティックコミュニケーション ビジネス応用編	ウィンクル	ITビジネスプラザ 武蔵(金沢)	2019. 11. 9
黒丸尊治	ユーモアのスズメ	高宮学区老人会	高宮公民館	2019. 11. 19
黒丸尊治	アロマセラピストに必要なホリス ティックコミュニケーション	ホリスティックケア プロフェッショナルスクール	エイムアテイン 貸会議室(福岡)	2020. 2. 22
黒丸尊治	新型コロナウイルスと認知バイアス	NPO法人日本ホリスティック 医学協会関西支部	PLP会館(大阪)	2020. 3. 1

診療科名：歯科口腔外科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
横田裕一	口腔ケア研修会口腔ケアの実際	彦根歯科医師会4月月例会	くすのきセンター	2019. 4. 27
斎藤忠仁	日本における薬剤耐性(AMR)対策 歯科医院からできること	彦根歯科臨床研修会	くすのきセンター	2019. 7. 12
山田剛也 金子隆昭ほか	BLS講習会	彦根歯科医師会医療安全講習会	彦根市立病院講堂	2019. 9. 15

診療科名：歯科口腔外科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
山田剛也 横田祐一 金子隆昭ほか	DCLS研修会	第11回彦根DCLS研修会	彦根市立病院講堂	2019. 11. 3
前田康弘	抗血栓療法患者の抜歯について	彦根歯科臨床研修会	くすのきセンター	2019. 11. 8
前田康弘	周術期等口腔機能管理における病診連携の推進	彦根歯科医師会11月定例会	くすのきセンター	2019. 11. 30
渡邊真央	彦根市立病院における摂食嚥下リハビリテーション	彦根地域医歯薬連携推進事業	中国料理 招禄	2020. 2. 8
山田剛也	彦根市立病院口腔外科の歴史と展望	病院歯科口腔外科連絡協議会	中国料理 招禄	2020. 2. 27
西島秋子 荒尾紀子 西村美由紀 斎藤忠仁 横田裕一 山田剛也 外木守雄	口腔がん患者へ口腔衛生管理を行い治療の遂行に貢献できた3例	第29回日本有病者歯科医療学会総会	紙面開催	2020. 3. 1

診療科名：放射線科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
高瀬伸二	心臓カテーテル治療における臨床工学技士と診療放射線技師の関わり	第7回地域医療従事者交流研修会	彦根市立病院講堂	2019. 6. 14
上村三四郎	知っているようで知らない放射線	医療安全セミナー	彦根市立病院講堂	2019. 7. 22
吉村通央	放射線治療における支持療法	がん医療者研修会	彦根市立病院講堂	2020. 1. 16
上村三四郎	放射線治療部門対象教育訓練	放射線治療勉強会	放射線科技師室	2020. 3. 27
上村三四郎	放射線治療部門対象教育訓練	放射線治療勉強会	放射線科技師室	2020. 3. 31

診療科名：病理診断科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
野口明人 太田諒	症例検討(直腸扁桃の1例)	第88回琵琶湖消化器カンファレンス	クサツエストピアホテル	2019. 6. 6
太田諒	病理医過疎地での経験	第5回忍びの道病理セミナー	奈良県立医科大学	2020. 1. 11

診療科名：在宅診療科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
一岡慶紀	彦根市立病院における在宅診療科の取り組み	地域医療連携セミナー	東近江総合医療センター	2020. 2. 18

診療科名：臨床検査科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
山田真以	尿検査の基礎～虎の巻～	滋賀県臨床検査技師会 第1回臨床一般部門研修会	草津市立まちづくりセンター	2019. 5. 25
樋口武史	教育講演 抗酸菌感染症診断の現在と未来 細菌学的検査を中心に	第94回日本結核・非結核性抗酸菌症学会	大分市	2019. 6. 7～8
馬場康次	「最新の検査法導入による Diagnostic Stewardshipと Antimicrobial Stewardship への関わり方」	令和元年度 感染管理・感染防止対策研修会	コラボしが21	2019. 8. 10
馬場康次	バイテックMSを用いた血液培養迅速報告	第2回感染症対策・未来創造 ミーティング関西地区	グランフロント 大阪北館タワーC	2019. 8. 24

診療科名：臨床検査科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
樋口武史	ランチョンセミナー ISO15189は誰のために必要か？	第59回日臨技近畿支部医学検査学会	大津市	2019.10.26～27
西村好博	当院におけるオーソビジョン導入の効果	日臨技近畿支部医学検査学会	ピアザ淡海	2019.10.27
田邊正喜	Plasma cell myeloma (症例提示の解説)	日臨技近畿支部血液研修会	奈良	2019.12.15
樋口武史	2020年 新春セミナー ISO15189は誰のために必要か？	兵庫県臨床検査技師会	神戸市	2020.1.11
西村好博	輸血検査自動機器 よもやま話ざっくばらん ～オーソビジョン編～	滋賀県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門研修会	ウイングプラザ 栗東	2020.1.18
樋口武史	シンポジウム 今、求められている微生物検査の 精度保証とは 微生物検査の精度保証を考える 検査の常識は世間の常識か？	第31回日本臨床微生物学会	金沢市	2020.1.31～ 2.2
樋口武史	シンポジウム 非結核性抗酸菌 非結核性抗酸菌の塗抹と培養検査	第31回日本臨床微生物学会	金沢市	2020.1.31～ 2.2

診療科名：栄養科・栄養治療室

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
小野由美	事例でみる栄養指導の留意点と実際	令和元年度 滋賀県栄養士会 生涯学習研修会	守山駅前コミュニ ティホール 第1ホール	2019.8.3
大橋佐智子	小児の糖尿病を中心とした栄養指導 の留意点と実際	令和元年度 滋賀県栄養士会 学校健康教育栄養士部会研修会	守山駅前コミュニ ティホール 第1ホール	2019.9.5
大橋佐智子	病院食における地産地消給食の実践	令和元年度地産地消コーディネ ーター育成研修会	岡山コンベンショ ンセンター4階405 会議室	2019.12.18
大橋佐智子	がんと診断されてからの暮らし 食生活について	第11回滋賀県がん医療フォーラム	滋賀県立男女共同 参画センター	2020.2.8

診療科名：薬剤部

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
三露久生	平成31年度薬薬連携の方向 ～30年度を振り返って～	平成31年度第1回薬薬連携研修会	くすのきセンター	2019.4.25
大野勝則	平成30年の院外薬局における調剤 過誤について	平成31年度第1回薬薬連携研修会	くすのきセンター	2019.4.25
米谷領太	調剤薬局でできる感染対策	平成31年度第1回薬薬連携研修会	くすのきセンター	2019.4.25
石田柚果	吸入薬について	令和1年度医療安全週間	彦根市立病院講堂	2019.7.24
三露久生	地域医療連携における薬薬連携	令和元年度第2回薬薬連携研修会	くすのきセンター	2019.8.22
大野勝則	新たな薬剤部の業務 ～入退院支援センターでの 業務開始～	令和元年度第2回薬薬連携研修会	くすのきセンター	2019.8.22

5. 院内研究発表

診療科名：循環器内科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
下司徹	NEWSの経時的スコアリングはICU緊急入室の予測に有用か？	彦根市立病院講堂	2019. 7. 22
下司徹	心電図講義	5階カンファレンスルーム	2019. 9. 3
下司徹	知っておきたい静脈血栓塞栓症の基礎知識	彦根市立病院講堂	2019. 12. 11

診療科名：呼吸器内科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
野村得成 月野光博	肺炎、敗血症で死亡したと思われる低体温症の一剖検例	第45回彦根市立病院CPC	2020. 3. 17
力武里菜 月野光博	インフルエンザに細菌性肺炎を合併して死亡したと思われる一剖検例	第45回彦根市立病院CPC	2020. 3. 17

診療科名：歯科口腔外科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
荒尾紀子	在宅療養を支える専門的口腔ケア ー地域歯科医科連携の視点からー	医療情報センター	2019. 12. 13
足利赤十字 病院 リハビリ テーション 科 歯科医師 尾崎研一郎 先生	医科歯科連携の実際 ～病院歯科、リハビリテーションの視点から～ 回復期、慢性期病棟編 上記講演会の講師招致を山田剛也が行っている	くすのきセンターことうチームケア研究会	2020. 1. 16
足利赤十字 病院 リハビリ テーション 科 歯科医師 尾崎研一郎 先生	医科歯科連携の実際 ～病院歯科、リハビリテーションの視点から～ 上記講演会の講師招致を山田剛也が行っている	彦根市立病院講堂	2020. 1. 17
足利赤十字 病院院長 小松本悟 先生	「今後求められる医科歯科連携に向けて」 ～急性期病院における医科歯科連携 ー地域医療にいかに関与するかー～ 上記講演会主催を山田剛也が行っている。	くすのきセンター	2020. 2. 13

診療科名：リハビリテーション科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
西澤一馬	在宅でのリハビリテーション	訪問看護ステーション	2019. 10. 29

診療科名：臨床検査科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
田邊正喜	症例報告	臨床検査科カンファレンス室	2019. 4. 16
福田峻	当院のAST活動	臨床検査科カンファレンス室	2019. 5. 23
松本俊一	脳死下臓器提供までの検査科の関わり	臨床検査科カンファレンス室	2019. 6. 19
増田智子	術中モニタリング	臨床検査科カンファレンス室	2019. 9. 26
富田圭一	よりよい検査室を目指すには	臨床検査科カンファレンス室	2019. 10. 29
豊川美文	検査あるある 時間外輸血検査編	臨床検査科カンファレンス室	2019. 11. 19
櫻井太紀	アルブミン製剤使用量削減を目標とした当院での取り組み	臨床検査科カンファレンス室	2019. 11. 19
福田峻	知ってほしい血液培養検査	彦根市立病院講堂	2019. 12. 9
山田真以	尿の外観をチェックしよう！ ～これであなたも尿の目利きのプロに～	臨床検査科カンファレンス室	2019. 12. 17

診療科名：臨床検査科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
豊川純史	特性要因図の作成	臨床検査科カンファレンス室	2020.1.15
田邊正喜	ALP、LDの測定方法の変更について	臨床検査科カンファレンス室	2020.2.18
豊川純史	化学物質と医療廃棄物	臨床検査科カンファレンス室	2020.2.18

診療科名：栄養科・栄養治療室

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
福永あゆ	日本糖尿病療養指導士 試験対策勉強会 糖尿病食事療法について	6A病棟勉強会	2019.11.5

6. 投 稿

診療科名：小児科

投稿者名	投稿内容	掲載場所	掲載年月日
西島節子	インフルエンザ ～小児におけるけいれんなどの関連疾患～	大津市医師会誌	2019. 12. 1
西島節子	子ども虐待	滋賀県医師会報	2020. 3. 1

診療科名：臨床検査科

投稿者名	投稿内容	掲載場所	掲載年月日
樋口武史	抗酸菌検査の精度保証について	THE MEDICAL & TEST JOURNAL	2019. 6. 1

7. その他学術活動

診療科名：消化器内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
來住優輝	座長 第88回琵琶湖消化器カンファレンス	クサツエストピアホテル	2019. 6. 6
來住優輝	座長 湖東・湖北エリア消化器フォーラム	彦根キャッスル リゾート&スパ	2019. 7. 5
來住優輝	座長 彦根プライマリケア講演会（漢方編）	くすのきセンター	2019. 7. 11
來住優輝	座長 滋賀消化器研究会 第83回学術講演会セッション1	ピアザ淡海	2019. 7. 20
仲原民夫	座長 知っておきたい肝疾患 UPDATE	Hotel & Resorts NAGAHAMA	2019. 10. 10
來住優輝	座長 炎症性腸疾患の治療戦略を考える会	彦根キャッスル リゾート&スパ	2019. 10. 10
來住優輝	座長 東近江・彦根IBDカンファレンス	グランドデュークホテル	2019. 12. 5
仲原民夫	座長 彦根医師会 学術講演会	くすのきセンター	2019. 12. 7
仲原民夫	座長 滋賀消化器研究会 第84回学術講演会 セッション2	びわ湖大津 プリンスホテル	2020. 2. 15

診療科名：糖尿病代謝内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
矢野秀樹	新臨床研修医勉強会、抄読会	彦根市立病院図書室	2019. 4. 30、 5. 30、7. 4、 8. 29、9. 26、 10. 31、11. 28、 12. 19、 2020. 1. 30、 2. 27、3. 26
矢野秀樹	京都大学医学部5回生学生実習		2019. 5. 7～17
黒江彰	日本プライマリ・ケア連合学会にてランチョンセミナー Latest clinical findings for the treatment of Diabetes 「糖尿病診療における最新の知見」 ～including efficacy of antidiabetic fixed-dose combination products～ ～配合錠の使用意義も含めて～	国立京都国際会館	2019. 5. 18
矢野秀樹 黒江彰	彦根みずうみの会 春の小旅行	京都	2019. 6. 8
黒江彰	前期糖尿病教室	彦根市立病院講堂	2019. 6. 28
矢野秀樹	令和元年度滋賀医科大学付属病院臨床研修管理委員会	滋賀医科大学	2019. 7. 1
矢野秀樹	京都大学臨床教授の会	京都大学芝蘭会館	2019. 8. 9
矢野秀樹	令和元年度京都大学医学部付属病院臨床研修管理委員会	京都大学医学部	2019. 9. 5
黒江彰	滋賀県病院協会主催臨床研修指導医講習会 講師として参加	ニプロiMEP	2019. 9. 7～8
糖尿病スタッフ チーム	CDE滋賀 コーチングセミナー	ホテルライズヴィル 都賀山（守山）	2019. 10. 19
黒江彰 糖尿病スタッフ チーム	第5回滋賀県糖尿病ウォークラリー	長浜 豊公園	2019. 11. 4
矢野秀樹	世界糖尿病デー 彦根城ライトアップ	彦根城	2019. 11. 14
矢野秀樹	聖泉大学看護学部 講義	聖泉大学	2019. 11. 14、 21、28

診療科名：糖尿病代謝内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
糖尿病スタッフ チーム	糖尿病連続講座	くすのきセンター	2019. 11. 14、 12. 5
黒江彰	後期糖尿病教室	彦根市立病院講堂	2019. 12. 6
黒江彰	CDE滋賀講習会 スタッフとして参加	コラボ滋賀(大津)	2019. 12. 8
糖尿病スタッフ チーム	CDE滋賀講習会	コラボ滋賀(大津)	2019. 12. 8
黒江彰	第14回滋賀内分泌クリニカルカンファレンス	ロイヤルオークホテル	2020. 1. 25
糖尿病スタッフ チーム	CDE滋賀フォローアップセミナー in彦根 ～やっぱり大事！糖尿病患者の食事・運動～	勤労福祉会館(彦根)	2020. 2. 1
黒江彰	彦根みずうみの会 料理教室	くすのきセンター	2020. 3. 16

診療科名：循環器内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
中野顯	IVUSコメンテーター CTO Live	京都市	2019. 4. 11
中野顯	コメンテーター Physiology KCJL 2019	京都市	2019. 4. 12
下司徹	近畿心血管ジョイントライブ(KCJL 2019)コメンテーター	ナレッジキャピタル コングレコンベンション センター	2019. 4. 13
中野顯	座長 ファブリー病セミナーin彦根	彦根市	2019. 4. 25
中野顯	コメンテーター 36th Picasso ライブデモンストレーション	名古屋市	2019. 5. 11
中野顯	学生講義	福井大学医学部	2019. 5. 24
中野顯	座長 循環器フォーラムin彦根	彦根市	2019. 5. 25
下司徹	滋賀PCIライブ研究会コメンテーター	大津赤十字病院	2019. 6. 20
中野顯	座長 糖尿病&循環器診療Network Meeting	彦根市	2019. 7. 27
中野顯	座長 越前若狭Vascular Club Live 2019	越前市	2019. 8. 2
中野顯	IVUSコメンテーター CLICKライブデモンストレーション	京都市	2019. 8. 24
中野顯	座長 ランジオロールのEBMを考える会	草津市	2019. 9. 27
中野顯	座長 草津ハートカンファレンス	草津市	2019. 10. 3
下司徹	滋賀PCIライブ研究会術者	草津ハートセンター	2019. 10. 3
中野顯	座長 第33回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会	大阪市	2019. 10. 12
中野顯	コメンテーター Chinese Perspective on Live Case Transmission 4	神戸市	2019. 10. 25
中野顯	コメンテーター PCU Live Case Transmission 4	神戸市	2019. 10. 26
中野顯	座長 抗血栓シンポジウム CATを考える	彦根市	2019. 10. 31
中野顯	学生講義	滋賀県立大学看護学科	2019. 11. 7
中野顯	カテーテル治療	公立小浜病院	2019. 11. 12
中野顯	学生講義	滋賀県立大学看護学科	2019. 11. 14
中野顯	座長 湖北心不全連携を考える会	彦根市	2019. 11. 14
下司徹	座長 湖北肺高血圧症フォーラム	XIV琵琶湖	2019. 11. 21
下司徹	座長 草津ハートカンファレンス	草津ハートセンター	2019. 12. 5
中野顯	座長 K-HEART	小野市	2019. 12. 6
中野顯	コメンテーター SPIRIT Live Demonstration	大阪市	2020. 1. 25
中野顯	座長 第34回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会	大阪市	2020. 2. 15

診療科名：小児科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
石上毅	講義 疾病・障害論 I (小児科学)	聖泉大学看護学部	2019. 7. 2、9、16

診療科名：呼吸器外科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
林栄一	座長 第105回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会	AP大阪梅田茶屋町	2019. 8. 3
林栄一	挨拶 2019年滋賀県世界ホスピス緩和ケアデー記念県民公開講座	ひこね市文化プラザ	2019. 9. 22

診療科名：整形外科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
光石直史	令和元年度 岐阜大学 医学部 運動器コース 下肢外傷 1.2	岐阜大学医学部	2019. 6. 6

診療科名：歯科口腔外科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
山田剛也	滋賀県委託事業 歯科医師等派遣事業 事業業務検討委員	友仁山崎病院 彦根歯科医師会	検討部会： 2019年3月から 5月まで 事業：2019年6 月から第1、第 3木曜日午後か ら
山田剛也	病院歯科と歯科医師会との病診連携推進協議会	滋賀県歯科医師会	2019. 11. 30
山田剛也	在宅歯科医療のための他職種連携事業	くすのきセンター	2020. 1. 16

診療科名：病理診断科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2019. 11. 28
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2019. 12. 19
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2020. 1. 16
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2020. 1. 23
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2020. 1. 30
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2020. 2. 6
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2020. 2. 13

診療科名：臨床検査科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
黒川陽子	2019年度滋賀県臨床検査精度管理報告会(生理部会)	草津市立まちづくりセンター	2019. 12. 6
山田真以	2019年度滋賀県臨床検査精度管理報告(一般部会)	大津市民病院	2019. 12. 7
福田峻	2019年度滋賀県臨床検査精度管理報告(細菌)	守山市民ホール	2019. 12. 21
山田真以	2019年度滋賀県臨床検査精度管理報告(一般部会)	大津赤十字病院 →開催中止となり、発表内容は滋賀県臨床検査技師会HPに掲載	2020. 2. 29

診療科名：栄養科・栄養治療室

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
小野由美 大橋佐智子	滋賀県糖尿協会 事務局	彦根市立病院 栄養治療室	2016. 2月～
振角英子	糖尿病患者会 彦根みずうみの会 事務局	彦根市立病院 栄養治療室	2016. 2月～
小野由美	滋賀県栄養士会理事会 第1回～5回	セルバ守山他	2019. 6. 30～ 2020. 2. 2
大橋佐智子	都市農山漁村交流活性化機構 コーディネーター育成・派遣事業 企画委員会	一般財団法人 都市農山 漁村交流活性化機構 (東京・神田)	2016. 6～
小野由美 福永あゆ	第5回滋賀県糖尿病ウォークラリー 第1回～3回 実行委員会	アクティ近江八幡	2019. 6. 12 10. 9、12. 4
振角英子 木村章子	彦根みずうみの会 春の小旅行	京都(吉本祇園花月 他)	2019. 6. 8
大橋佐智子 木村章子	CDE滋賀認定委員会 理事・役員会	ライズヴィル都賀山	2019. 6. 20
大橋佐智子	第5回CDE滋賀認定委員会 「講習会委員会」	ライズヴィル都賀山	2019. 6. 20
福永あゆ	京都・滋賀つぼみの会サマーキャンプ スタッフ会議	京都府立医科大学 南臨床講義室(京都)	2019. 6. 23
福永あゆ	第37回京都・滋賀つぼみの会サマーキャンプ 栄養士キャンプスタッフ	希望ヶ丘文化公園 青年の城(蒲生)	2019. 8. 4
小野由美 振角英子 福永あゆ	第5回滋賀県糖尿病ウォークラリー	長浜豊公園	2019. 11. 4
大橋佐智子	第6回CDE滋賀認定委員会 「講習会委員会」	コラボ滋賀21 中会議室 (大津)	2019. 11. 19
小野由美 大橋佐智子	健康講座(参加者：40名)	彦根市中老人福祉 センター	2019. 11. 20
小野由美 振角英子 福永あゆ	第6回CDE滋賀認定委員会 理事・役員会 CDE滋賀認定委員会 ファシリテーター	コラボ滋賀21 中会議室 (大津)	2019. 12. 8
小野由美 大橋佐智子	令和元年度 滋賀県糖尿病協会理事会	コラボ滋賀21 中会議室 (大津)	2019. 12. 8
小野由美 大橋佐智子	健康講座(参加者：10名)	彦根市河瀬地区公民館	2019. 12. 26
木村章子	第23回CDE滋賀フォローアップセミナーin彦根 アドバイザー	彦根勤労福祉会館 たちばな中ホール	2020. 2. 1

診療科名：臨床工学科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
藤野具之	座長 第25回滋賀県急性血液浄化セミナー	草津市立市民交流プラザ 中会議室	2019. 7. 28
青野多聞	第25回血液浄化セミナー 「CRRT・アフェレシス業務における現状と課題」	草津市立市民交流プラザ 小会議室1	2019. 11. 30

診療科名：薬剤部

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
三露久生	座長 2019彦根合同薬薬連携研修会	くすのきセンター	2019. 9. 12
三露久生 茶谷孝治 林 進	「尋常性疣贅におけるヨクイニンの年齢別による有効率の検討」 「尋常性疣贅診療ガイドライン2019（第1版）」（日本皮膚科学会），免疫学的治療法「CQ18:ヨクイニンエキス内服は有効か？」	—	2019. 5. 20

8. 倫理委員会審査委員会 審議案件

受付 No.	案件名	所属名	申請者名
彦研倫 2019-01	入院後期高齢糖尿病患者と後期高齢非糖尿病患者のフレイル、栄養状態および認知機能の比較検討	栄養科	福永 あゆ
彦研倫 2019-02	急性期病院における嚥下障害患者の予後予測、退院転帰別での食事変化の検討	歯科口腔外科	渡邊 真央
彦研倫 2019-03	糖尿病をはじめとする生活習慣病合併高齢者における海馬萎縮・軽度認知機能障害の実態と臨床像に関する多施設共同研究	糖尿病代謝内科	黒江 彰
彦研倫 2019-04	糖尿病患者の電子カルテ上の既存データ収集と解析研究	糖尿病代謝内科	矢野 秀樹
彦研倫 2019-05	抗菌薬使用量などの医療情報と緑膿菌の耐性率の変化に関する研究	呼吸器内科	月野 光博
彦研倫 2019-06	外来通院する働く世代のがん患者への支援に関する研究	看護科	秋宗 美紀
彦研倫 2019-07	日本整形外科学会症例レジストリー (JOANR) 構築に関する研究	整形外科	堀 裕彦
彦研倫 2019-08	骨粗鬆症症例におけるラグスクリューの固定性に関する調査	整形外科	堀 裕彦
彦研倫 2019-09 (29-3 変更)	非弁膜症性心房細動を有する後期高齢患者を対象とした前向き観察研究【29-3 変更】	循環器内科	中野 顯
彦研倫 2019-10 (2019-02 変更)	急性期病院における嚥下障害患者の予後予測、退院転帰別での食事変化の検討【2019-02 変更】	歯科口腔外科	渡邊 真央

9. 治験実施報告

治験（第Ⅲ相臨床試験） 1件

製造販売後調査（市販後調査）

内科	0	件
消化器内科	1	件
血液内科	1	件
循環器内科	1	件
呼吸器内科	0	件
呼吸器外科	0	件
神経内科	0	件
小児科	0	件
消化器外科	0	件
整形外科	0	件
産婦人科	0	件
泌尿器科	0	件
脳神経外科	0	件
皮膚科	1	件
麻酔科	0	件
歯科口腔外科	0	件

10. 臨床病理検討会

彦根市立病院 第44回CPC

日時：2020年1月21日（火）（18:00-19:00）

場所：彦根市立病院 3F 講堂

症例1：「直腸ポリープの一例」

臨床：力武里菜、肥後麻衣

病理：太田諒

症例2：「膵癌、胃癌、間質性肺炎の合併が疑われた一部検例」

臨床：井上拓也、野口明人

病理：鉄田汐莉、太田諒

彦根市立病院 第45回CPC

日時：2020年3月17日（火）（17:30-18:30）

場所：病理検査室

症例1：「肺炎、敗血症で死亡したと思われる低体温症の一部検例」

臨床：野村得成、月野光博

病理：太田諒

症例2：「インフルエンザに細菌性肺炎を合併して死亡したと思われる一部検例」

臨床：力武里菜、月野光博

病理：竹治みゆき

11. 糖尿病教室

2019 年度糖尿病教室(前期) 22 名

2019 年 6 月 28 日 (金) 13:30~16:00

- 1 安全な薬物治療について
- 2 糖尿病に多い排尿の悩み 原因別対処法を徹底解説
- 3 おいしく食べて血糖管理～夏に食べたい食事のポイント～
- 4 こつこつ溜めよう筋肉！コツコツ防ごう骨粗しょう症

薬剤師
排泄ケア認定看護師
管理栄養士
理学療法士

2019 年度糖尿病教室(後期) 20 名

2019 年 12 月 6 日 (金) 13:30~16:00

- 1 糖尿病と臨床検査
- 2 糖尿病と足について
- 3 どっちの料理を選びまショー～冬の食べ物の選び方～
- 4 何がいいの？どうやるの？基本を知って始める運動療法

臨床検査技師
循環器内科医師
管理栄養士
理学療法士

第 9 回糖尿病連続講座 31 名 (2 回延べ人数)

2019 年 11 月 14 日 (木) 糖尿病の内服治療～最近の話題～

2019 年 12 月 5 日 (木) 糖尿病性腎症と食事療法

糖尿病性腎症と運動療法

糖尿病代謝内科医師
管理栄養士
理学療法士

12. 緩和ケア病棟活動

ボランティア活動

内 容	活 動 日	人 数	回 数	使用者数
マッサージ	週1回	1	36	129
アロマセラピー①	月2回	1	21	111
アロマセラピー②	月1回	2	18	89
アロマセラピー③	月1回	1	9	15
アロマセラピー④	不定期	3	6	57
リフレクソロジー	月2回	1	24	98
アートセラピー	月1回	1	11	14
音楽療法	月1回	2	10	30
ハーモニカ アニマルセラピー	月1回	4	7	21
傾聴	月1回	1	11	11
ティーサービス①	不定期	2	29	288
ティーサービス②	不定期	1	24	312
県大未来看護塾 (ティーサービス)	不定期	2	4	44
計		22	210	1,219
月平均			16.15	93.77

レクリエーション活動

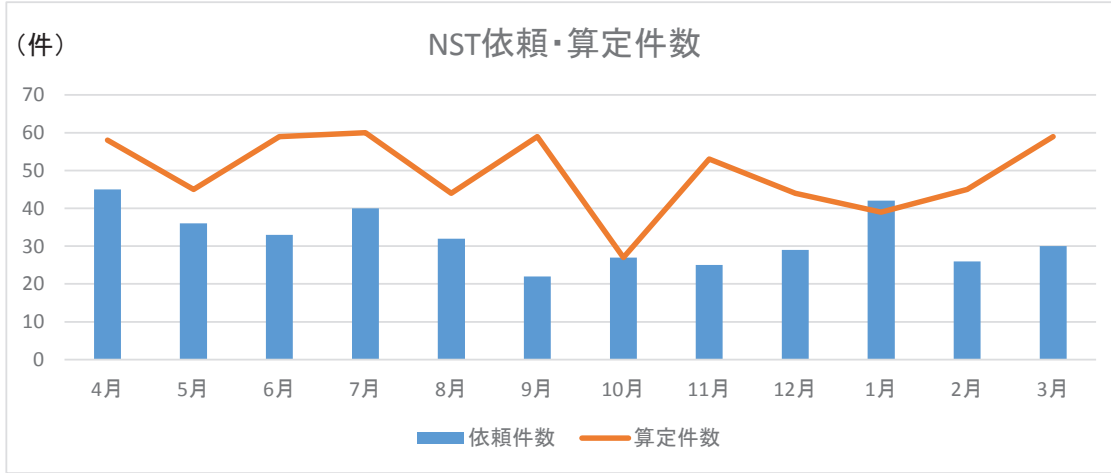
月	行 事	内 容	参加人数
4月	お花見会	音楽療法ボランティアの方の演奏と歌 栄養科による桜ムース	8
6月	紫陽花まつり	紫陽花に囲まれながら、どじょうすくい、南京玉簾を楽しむ 栄養科による紫陽花ゼリー	11
8月	夏祭り	金魚釣り、スーパーボールすくい 江州音頭を踊る 栄養科によるお好み焼き、スムージー、すいか	9
10月	収穫祭	スタッフからメッセージカード配布 栄養科によるババロア	23
12月	クリスマス会	ひこにゃんとの交流、写真撮影 ゴスペルボランティアとクリスマスソングを歌う サンタからクリスマスカードの配布 学生による歌の披露 栄養科によるクリスマスツリーケーキ	21
1月	書初め	書初め大会と展示 栄養科によるお汁粉、甘酒	14
2月	節分	豆まき 栄養科による恵方ロールケーキ	8

13.NST（栄養サポートチーム）実績表

NST回診・カンファレンス実績回数 44回

NST依頼・算定件数

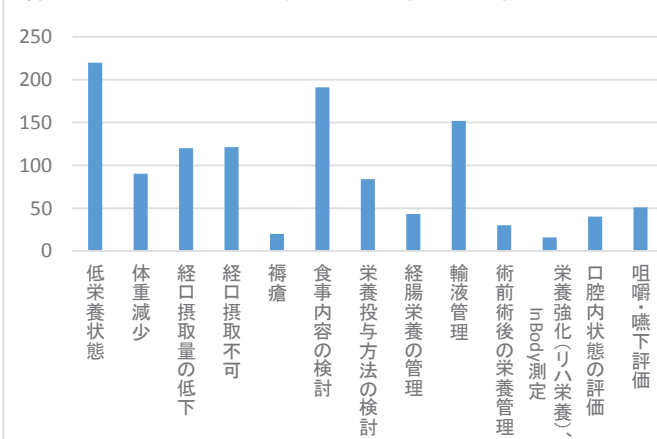
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼件数	45	36	33	40	32	22	27	25	29	42	26	30	387
算定件数	58	45	59	60	44	59	27	53	44	39	45	59	592



●介入依頼理由

低栄養状態	220
体重減少	90
経口摂取量の低下	120
経口摂取不可	121
褥瘡	20
食事内容の検討	191
栄養投与方法の検討	84
経腸栄養の管理	43
輸液管理	152
術前術後の栄養管理	30
栄養強化（リハ栄養）、InBody測定	16
口腔内状態の評価	40
咀嚼・嚥下評価	51
合計	1,178

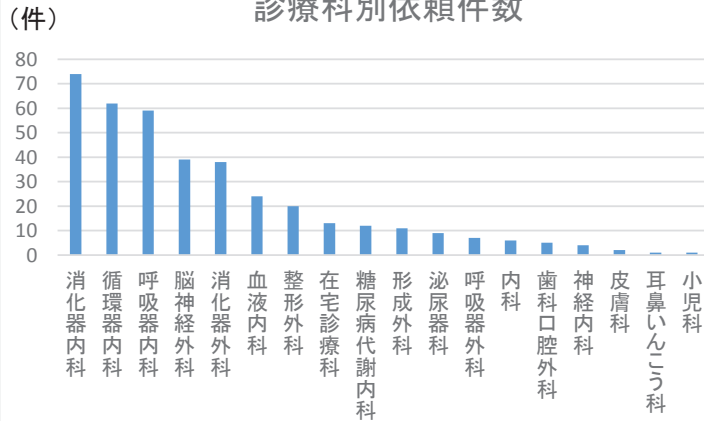
介入依頼理由（複数選択あり）



●診療科別依頼件数

消化器内科	74
循環器内科	62
呼吸器内科	59
脳神経外科	39
消化器外科	38
血液内科	24
整形外科	20
在宅診療科	13
糖尿病代謝内科	12
形成外科	11
泌尿器科	9
呼吸器外科	7
内科	6
歯科口腔外科	5
神経内科	4
皮膚科	2
耳鼻いんこう科	1
小児科	1
合計	387

診療科別依頼件数



14. 人権研修実績

研 修 名	実 施 日
推進委員会研修	令和元年6月27日
職員集合研修 1	令和元年9月26日、9月27日、10月1日 ※各日とも2回ずつ実施
職員集合研修 2	令和2年1月29日、1月30日、1月31日 ※各日とも2回ずつ実施
新規採用職員採用前研修	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
人権を考える日研修	令和元年5月～令和2年3月
人権のまちづくり懇談会	各町毎の設定日時

15-1. DMAT 隊員情報

	氏名	職種	所属
1	藤川 真人	看護師	6B 病棟
2	福田 成代	看護師	5B 病棟
3	岡田 恵理	看護師	外来 4 ブロック
4	安田 誠一	医師	消化器外科
5	伊藤 文人	医師	形成外科
6	飛田 貴史	看護師	7A 病棟
7	佐伯 公亮	看護師	医療安全推進室
8	田邊 正喜	業務調整員	臨床検査科
9	馬場 敏行	業務調整員	臨床工学科
10	杉本 保之	医師	麻酔科
11	吉川 浩平	医師	救急センター
12	北野 貴司	看護師	救急センター
13	秋宗 美紀	看護師	8B 病棟
14	北川 岳史	業務調整員	リハビリテーション科
15	神田 健志	医師	小児科
16	奥野 雄大	医師	呼吸器内科
17	柴崎 志保	看護師	6A 病棟
18	豊田 円香	看護師	ICU
19	二階堂 邦夫	業務調整員	手術センター
20	窪田 智子	業務調整員	放射線科

15-2. DMAT 活動

	年月日	内容	場所	出席者
1	5.9(木)	2019年度第1回DMAT部会企画プロジェクトチーム会議	滋賀県危機管理センター	佐伯
2	6.5(水) 6.6(木)	令和元年度第1回DMAT登録者技能維持研修・ロジスティック研修	大阪医療センター	杉本
3	7.18(木)	令和元年度彦根市防災訓練参加機関会議	アルプラザ彦根	山本
4	8.24(土)	令和元年度彦根市防災訓練	彦根市立西中学校	伊藤、秋宗、北川、山本
5	9.1(日)	令和元年度滋賀県総合防災訓練	高島浄化センターおよび滋賀県危機管理センター	奥野、柴崎、豊田、二階堂、窪田、佐伯
6	9.7(土)	令和元年度大規模震災時医療活動訓練	関東圏各地 ※ブラインド訓練	安田、北野、福田、二階堂
7	9.26(木)	令和元年度第2回近畿地方DMATブロック訓練企画部会	滋賀県危機管理センター	佐伯
8	10.4(金) 10.5(金)	令和元年度近畿地方DMATブロック訓練・ロジスティック研修	滋賀県危機管理センター	窪田
9	11.30(土) 12.1(日)	令和元年度近畿地方DMATブロック訓練	滋賀県内各地 ※ブラインド訓練	吉川、豊田、二階堂、窪田
10	2.9(日)	令和元年度滋賀県災害医療コーディネーター研修	滋賀県危機管理センター	安田、吉川、神田

15-3. 彦根市立病院大規模災害訓練について

彦根市立病院 DMAT 安田誠一

令和元年度の院内大規模災害訓練は11月9日に行われました。設定自体は例年通りの大規模自然災害発生時における傷病者の搬入、搬出訓練でしたが、今回の訓練では、当院で策定された Business continuity plan (BCP) の職員への周知および検証が主な目的でした。BCP とは企業が災害など予期せぬ緊急事態に遭遇した時に、損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法や手段などを取り決めておく計画のことです。災害時においては薬剤など医療資源の枯渇、ライフラインの損害による診療機能の低下、職員の被災によるマンパワーの低下、入院患者さんの安全面の不安や食料、飲料水の枯渇などさまざまなトラブルが起こることが予測されます。このような非常事態がおきたときに、どの業務を優先して行うか、そして発生したトラブルを早期に解決するために行うべきことをあらかじめ取り決めておくことで、最低限の医療活動を継続しつつ早期に本来の診療機能を回復することが BCP の基本的な考え方となります。そのためには平時からの取り組みに加えて、定期的な訓練を通して検証、改訂していくことが極めて重要となってきます。

当院では平成30年3月にBCPを策定し今回の訓練で初めての検証となったわけですが、行うべきことがあまりにも膨大である一方で、病棟の損害状況の確認、水道水や重油の確保、地域の透析患者の受け入れ調整などごく一部の検証にとどまったというのが正直なところですが、まだまだ課題は大きいことは事実ですが、次回の訓練に向けてある程度検証すべきことが見えてきたとも感じています。新型コロナウイルスへの影響で来年度の訓練についてはまだ不透明な状況ですが、少しずつ当院に現状に見合ったBCPの策定を進めていきたいと考えています。

また今回の訓練でも保健所の方々にも参加していただき、湖東地域の地方本部として活動していただきました。今後は保健所の訓練にも当院DMATが参加させていただくことになっています。より一層連携を強化し、この地域の災害対策の改善につなげていきたいと考えています。

16. 彦根市立病院健康講座

第 28 回彦根市立病院健康講座

「知ればホッとする！心臓の病気とのお付き合い」

2019 年 11 月 30 日(土) 12:00～15:00(医療情報センター多目的室にて)

- 栄養科監修 健康弁当「減塩と血液さらさら W でおいしい健康弁当」
栄養科・栄養治療室 小野 由美 大橋 佐智子
- いきいきコンサート Re: (アール・イー)
田中 寛子 さん 善利さかえ さん
- 元気で長生きするための狭心症・心筋梗塞の治療について
彦根市立病院 循環器内科 部長 下司 徹
- 命を落とすことにつながる「心不全」とはどんな病気？-その治療法とは-
彦根市立病院 循環器内科 副部長 高橋 宏輔

参加者 87 名

第 29 回彦根市立病院健康講座

(新型コロナウイルスの感染状況を鑑み中止)

17-1. 看護部の活動

①院外研修

No.	月日	所属	氏名	出張先	セミナー名	主催名
1	5. 25, 26	看護部	藤井裕子	国立京都国際会館	第20回日本認知症ケア学会	日本認知症ケア学会
2	6. 6～ 6. 8	看護部	藤井裕子	仙台国際センター	日本老年看護学会第24回学術集会	日本老年看護学会
3	5. 25, 26	2A	馬場由香子	なら100年会館	第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	-
4	6. 15	看護部・地連	北川智美	ベルサール田町	地域医療構想下「病床利用率」低下の今、集患のバイタルサインとは？	グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
5	6. 30	2A	小菅智子	琵琶湖コンファレンスセンター	重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会
			福田成代			
		8A	北村月見			
		4B	宮本広子			
6	5. 23～ 5. 25	6A	岩崎裕美	仙台国際センター	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	日本糖尿病学会
7	6. 21, 22	8B	高柳福美	パシフィコ横浜	第24回日本緩和医療学会学術集会	日本緩和医療学会
8	6. 22	7B	西村和代	松阪市民病院	第4回「落穂拾い作戦」はやわかり講座	松阪市民病院
9	5. 24, 25	血浄	多湖ゆかり	あわぎんホール	第8回日本感染管理ネットワーク学会学術集会	日本感染管理ネットワーク
10	5. 16	外来	森亜希子	滋賀医科大学医学部附属病院	糖尿病看護資質向上推進事業運営懇談会	-
11	6. 4～ 7. 18	8A	渡辺奈々	滋賀県看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	滋賀県看護協会
		6B	田中淳子			
12	6. 29	手術センター	渡邊美咲	奈良春日野国際フォーラム豊	日本手術看護学会近畿地区大会総会「未来につなぐ周術期看護」～知・技・心の伝承と発展～	日本手術看護学会近畿地区
		手術センター	伊谷知佳			
13	7. 11～ 7. 13	看護部・地連	永山夕水	京王プラザホテル	第27回日本乳癌学会学術総会	株式会社コングレ
14	6. 20～ 6. 22	がん相談	森口朋子	パシフィコ横浜	第27回日本緩和医療学会教育セミナー 第24回日本緩和医療学会学術大会	日本緩和医療学会
15	6. 8, 9	がん相談	森口朋子	大阪市中央公会堂	日本看護倫理学会第12回年次大会	日本看護倫理学会
16	7. 13, 14	6A	柴崎志保	大阪府立国際会議場	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	-
17	7. 19, 20	7B	西村和代	名古屋国際会議場	第21回日本医療マネジメント学会学術総会	-
18	6. 6～ 6. 8	7B	木俣美津子	仙台国際センター	日本老年看護学会第24回学術集会	日本老年看護学会
19	6. 13, 14	医安	佐伯公亮	国立病院機構大阪医療センター	第2回DMAT養成研修	厚生労働省DMAT事務局
20	7. 6, 7	7A	磯崎繭子	名古屋国際会議場	第25回日本看護診断学会学術大会	名古屋大学大学院
21	8. 3	外来	大山浩子	大阪国際交流センター	クリニカルパス教育セミナー	日本クリニカルパス学会
		7A	山崎美優			
		手術センター	伊野頼子			
		7A	磯崎繭子			
22	6. 7	6A	堤弓子	滋賀県看護協会	プリセプター（実地指導者）研修	滋賀県看護協会
		4B	呂樂京佳			
		5A	古川安純			
23	8. 7, 9	7A	磯崎繭子	東京 砂防会館別館	第1回看護管理研修会	全国自治体病院協議会

No.	月日	所属	氏名	出張先	セミナー名	主催名
24	6. 28, 29	血浄	鈴木綾子	パシフィコ横浜	第64回日本透析医学会学術集会・総会	-
	6. 28～ 6. 30	血浄	高橋奈苗			
25	6. 14	血浄	高橋奈苗	滋賀県看護協会	2019年度認定看護管理者研修 教育課程ファーストレベル公開講座	滋賀県看護協会
26	7. 18～ 7. 20	2A	大塚祐子	広島国際会議場	2019年度ICU・CCU看護教育セミナー	日本集中治療 医学会
27	7. 6, 7	5A	中村千恵子	名古屋国際会議場	第25回日本看護診断学会学術大会	日本看護診断学会
28	7. 3	6A	岩崎裕美	滋賀医科大学附属 病院	糖尿病資質向上研修	-
29	6. 17	6A	堤彩衣	滋賀県看護研修 センター	プリセプター（実地指導者）研修	滋賀県看護協会
		5A	川島琢巳			
		6B	中村奈津美			
30	6. 18	4B	齋藤春佳	滋賀県看護研修 センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
		5B	山本英実			
		7A	高橋璃菜			
31	6. 19	4B	西堀汐乃	滋賀県看護研修 センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
		6A	薫森みの里			
		8A	山口晶平			
32	6. 21	5A	和田のぞみ	滋賀県看護研修 センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
		6A	北川好南			
		8A	稲垣和樹			
33	6. 26	5A	山本果奈	滋賀県看護研修 センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
34	6. 27	5B	塚本真浩	滋賀県看護研修 センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
	6. 27, 28	6B	山田睦			
35	6. 28	7B	疋田栞	滋賀県看護研修 センター	「初めての看護研究 ～研究計画書を書いてみよう～」 研修会	滋賀県看護協会
		6B	鳴海綾乃			
		6A	豊田円香			
		7A	西澤由理香			
36	7. 13, 14	8B	秋宗美紀	東京ビックサイト 会議棟	特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会 2019年度年次大会	日本ホスピス 緩和ケア協会
37	6. 24	血浄	高橋奈苗	滋賀県看護協会	2019年度認定看護管理者研修 教育課程ファーストレベル公開講座	滋賀県看護協会
38	7. 10	7A	坂東恵美子	滋賀県看護研修 センター	ファシリテーションスキルを 学ぼう！	滋賀県看護協会
		看護部	松宮千代美			
		看護部	上村千馨子			
		5B	松田斉			
39	7. 26～ 10. 1	6A	赤井律子	滋賀県看護協会	2019年度認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	滋賀県看護協会
		外来	藤田晶子			
		7B	西村和代			
40	8. 2～ 8. 4	外来	高橋歩	8/2、3タワーホール 船堀5階大ホール 8/4パラマウント ベッド本社ショールーム	第11回下部尿路症状の排尿ケア 講習会	日本創傷・ オストミー・ 失禁管理学会 日本老年泌尿器科 学会 日本排尿機能学会
41	7. 30	外来	小川多恵子	滋賀県看護協会	ラダー研修 組織的役割遂行能力 「今、求められるジェネラリストの 看護」研修会	滋賀県看護協会
42	8. 23, 24	2A	馬場由香子	国立京都国際会館	第21回日本褥瘡学会学術集会	日本褥瘡学会
43	8. 30～ 9. 1	2A	馬場由香子	京都橘大学	関西ストーマケア講習会	-

No.	月日	所属	氏名	出張先	セミナー名	主催名
44	7.12	血浄	高橋奈苗	滋賀県看護協会	2019年度認定看護管理者研修 教育課程ファーストレベル公開講座	滋賀県看護協会
45	8.28～ 8.31	2A	上田和弘	ヒューリック ホール	ICU・CCU看護教育セミナー 初級コース(3日間)	日本集中治療 医学会
46	9.18～ 9.20	5A	中村千恵子 児玉好重	ホクト文化ホール	第50回(2019年度)日本看護学会	公益社団法人 日本看護協会
	9.19, 20	4B	清水佑南			
		4B	宮尾茜直			
47	8.28～ 8.31	2A	馬場祐乃	ヒューリック ホール	ICU・CCU看護教育セミナー 初級コース(3日間)	日本集中治療 医学会
48	8.7～ 8.9	血浄	多湖ゆかり	東京 砂防会館	2019年度看護管理研修会(第11回)	公益社団法人 全国自治体病院 協議会
49	7.26	手術 センター	飛田裕子	滋賀県看護研修 センター	教えることは学ぶこと ～共に成長する看護職を育成する～ 研修会	滋賀県看護協会
50	7.30, 31	看護部	古川三千代	滋賀県看護研修 センター	災害支援ナース育成研修 基礎編 災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基礎的知識～	滋賀県看護協会
		7B	阪江舞			
51	6.26～ 8.1	6A	柴崎志保	滋賀県立大学 滋賀県看護協会 研修センター(8/1)	看護研究サポートリーダー育成研修	-
52	7.19, 20	7A	坂東恵美子	名古屋国際会議場	第21回日本医療マネジメント学会 学術総会	-
53	9.27, 28	手術 センター	水長真由美	東京ドームホテル	第41回日本手術医学会総会	-
54	8.1～ 9.27 9.10	看護部	上村千馨子	公益社団法人 日本看護協会 神戸研修センター 岐阜大学医学部 付属病院	2019年度認定看護管理者教育課程 サードレベル 統合演習Ⅲ 施設実習	日本看護協会
55	7.6	7B	伊部恵美子	滋賀県看護協会	新たな認定看護師制度および特定 行為研修制度について	滋賀県看護協会
56	7.26	2A	馬場由香子	滋賀県看護協会	教えることは学ぶこと ～共に成長する看護職を育成する～	滋賀県看護協会
57	8.1	2A	森野紗矢香	滋賀県看護研修 センター	看護過程をもう一度学ぼう！	滋賀県看護協会
		手術 センター	伊野頼子			
		6A	高橋鮎子			
58	8.22～ 8.24	医安	西村紀子	朱鷺メッセ	第23回日本看護管理学会学術集会	日本看護管理学会
59	8.22	地連	北川智美	国立京都国際会館 1Fメインホール	一般社団法人 日本褥瘡学会 2019年度社員総会	日本褥瘡学会
60	8.23, 24	地連	北川智美	国立京都国際会館	第21回日本褥瘡学会学術集会	日本褥瘡学会
61	11.20	地連	北川智美	都市センター ホテル「コスモス ホール」	自治体病院全国大会 2019「地域医療再生フォーラム」	全国自治体病院 協議会
62	7.3～ 12.11	6A	吉田成美	滋賀医科大学附属 病院 近江八幡市総合 医療センター	2019年度糖尿病資質向上研修	-
63	8.19	8B	坂本裕子	滋賀県看護協会	実習指導研修 実習指導のいろは ～学生と共に成長し、やりがいを感じられる実習指導～研修会	滋賀県看護協会
		5A	前田璃子			
		手術 センター	二階堂邦夫			
		7B	前岡明子			
		2A	松田絵美子			

No.	月日	所属	氏名	出張先	セミナー名	主催名
64	8.30～ 9.1	6B	立石彩乃	京都橘大学	第41回関西ストーマケア講習会	関西ストーマケア講習会実行委員会
65	8.23	6A	川瀬恵巳	滋賀県看護研修センター	看護倫理～意思決定支援時における倫理的問題を解決するために～	滋賀県看護協会
		4B	川越敦子			
66	8.28	4B	高田晃子	滋賀県看護研修センター	子ども虐待防止に関わる三職能の活動 ～三職能の活動・連携で子ども虐待防止を図る～	滋賀県看護協会
67	10.1	7A	磯崎繭子	滋賀県看護研修センター	10/1 新人看護職員研修体制について 10/10 新人看護職員研修にかかわる看護職員のメンタルサポート 10/23 部署における新人看護職員研修の立案と評価 10/25 実地指導者の育成・支援	滋賀県看護協会
68	10.4～ 10.6	6A	川瀬恵巳	広島国際会議場	第23回日本心不全学会学術集会	-
69	7.31～ 3.10	外来	梶田恵子	静岡県医療健康産業研究開発センター内 静岡県立静岡がんセンター認定 看護師教育課程	静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程 がん化学療法看護分野	-
70	8.27	2A	大塚祐子	滋賀県看護研修センター	コミュニケーションスキルを習得しよう！ ～相手の思いを引き出し、大切な自分の思いを伝えるために～	滋賀県看護協会
71	8.30	7B	阪江舞	滋賀県看護研修センター	災害支援ナース育成研修 災害看護（実務編）	滋賀県看護協会
		看護部	古川三千代			
72	10.1, 4, 21, 23, 31	看護部	松宮千代美	滋賀県看護研修センター	2019年度新人看護職員研修会 責任者研修	滋賀県看護協会
73	8.30～ 9.1	7B	菅原さとみ	京都橘大学	第41回関西ストーマケア講習会 （京滋ブロック）	関西ストーマケア講習会実行委員会
74	9.6	2A	阪東佑香里	滋賀県看護研修センター	看護研究をやってみよう！相談会	滋賀県看護協会
		7A	浦野瑞己			
75	9.26～ 9.28	8A	北村月見	東京ドームホテル	第41回日本手術医学会総会	-
76	10.3	6B	藤川真人	幕張メッセ国際会議場	第21回日本救急看護学会学術集会	-
77	10.5	6B	藤川真人	8/2、3タワーホール 船堀5階大ホール 8/4パラマウント ベッド本社ショールーム	第21回日本救急看護学会学術集会	-
78	9.9	2A	上林晃徳	滋賀県看護研修センター	安全にケアするために取り組む リスクマネジメント	滋賀県看護協会
		5A	小寺彩菜			
79	9.12	5B	伊野智貴	滋賀県看護協会	中心的立場で活躍するための リーダーシップ	滋賀県看護協会
80	9.17	7A	荻森恵美	滋賀県看護協会 研修センター	ラダー別研修 臨床瞑想法	滋賀県看護協会
81	9.12～ 9.14	4B	宮本広子	滋賀県看護協会	令和元年度看護職員認知症対応力 向上研修会	滋賀県看護協会
		5B	松田斉			
82	9.19	看護部	橋本宏美	滋賀県看護研修センター	「副看護部長としてのセルフ マネジメントと対人調整能力」	滋賀県看護協会
83	9.26	8A	岡田美穂	滋賀県看護研修センター	看護理論 ～日々の看護場面における倫理的 ジレンマについて考えてみよう～	滋賀県看護協会
		5A	金子萌			

No.	月日	所属	氏名	出張先	セミナー名	主催名
84	10. 11	6A	川瀬恵巳	滋賀県看護研修センター	慢性心不全患者の生活調整に向けた看護	滋賀県看護協会
		6A	上林小夜			
85	10. 16	5A	中村千恵子	滋賀県看護研修センター	看護実践が見える看護記録～臨床の記載事例を通して看護記録の質向上を目指す～	滋賀県看護協会
		手術センター	伊野頼子			
		7B	阪江舞			
86	10. 19	4B	高田晃子	滋賀県看護研修センター	多職種間連携で力を発揮するためのリーダーシップ	滋賀県看護協会
87	10. 25	8B	西村真美	滋賀県看護研修センター	口腔機能を学ぼう～安全に食べられる口づくり～	滋賀県看護協会
88	10. 26, 27	8B	秋宗美紀	国立がん研究センター中央病院新研究棟セミナールーム	医療スタッフのためのがん患者の外見ケアに関する教育研修アピアランスケア研修会2019 応用編	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センター
89	10. 28	5A	関口愛理	滋賀県看護研修センター	「地域包括ケア時代の継続看護Ⅰ～在宅療養を見据えた退院支援～」研修会	滋賀県看護協会
90	7. 8～10. 30	患者家族支援	中居由美子	滋賀県看護研修センター	2019年度入退院支援看護師養成研修	滋賀県看護協会
		7B	横瀬由理			
91	11. 1	7A	坂東恵美子	滋賀県看護研修センター	地域包括ケア時代の継続看護Ⅱ～在宅療養を見据えた連携と協働～	滋賀県看護協会
92	11. 2～11. 4	外来	梶田恵子	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センター	医療従事者向けがん患者の外見ケアに関する教育研修アピアランス研修会 基礎編 2019年	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センター
93	11. 6	外来	藤田晶子	ニプロホール	令和元年度退院支援機能強化事業全体研修会	一般社団法人滋賀県病院協会
94	11. 8	7A	村田志保	滋賀県看護協会	がん患者のアピアランスケア	滋賀県看護協会
95	11. 12	5A	栗田萌	滋賀県看護教育センター	3年目看護職員交流会プログラム	滋賀県看護協会
		5B	川崎結夏			
		6A	森本翔子			
		7A	立木佑美			
		7B	大谷鈴音			
		8A	谷口莉緒			
		手術センター	渡邊美咲			
血浄	各務優美					
96	11. 14	地連	古川沙織	滋賀県看護研修センター	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修会	滋賀県看護協会
		5B	川野むつみ			
		6A	北林柚葉			
		在宅支援	清水寿佳			
97	11. 22	5A	森本美恵	滋賀県看護研修センター	3年目看護職員交流会	滋賀県看護協会
		5B	鴨崎あすか			
		6B	池田由樹			
		7B	疋田葉			
		8A	平塚歌帆			
		手術センター	籠重真梨子			
98	11. 15	入退院支援室	小倉立子	ウイंक愛知	TOCOM第31回DPC勉強会	
99	11. 23	手術センター	飛田裕子	滋賀県看護協会	「病院看護管理者のマネジメントラダー～日本看護協会版の理解とJNAラダーを活用した施設内教育～」	滋賀県看護協会
		看護部	橋本宏美			

No.	月日	所属	氏名	出張先	セミナー名	主催名
100	11. 28	手術センター	渡邊美咲	滋賀県看護協会	リーダー別研修 看護実践力「ニーズを捉える力」 I・II 「明日から活かせるフィジカルアセスメント」研修会	滋賀県看護協会
101	6. 20、 7. 2 7. 31、 9. 12 9. 24、 11. 28	5A	中野昌美	滋賀県看護研修センター	訪問看護研修ステップI	滋賀県看護協会
102	11. 29, 30	看護部 医安	上村千馨子 佐伯公亮	国立京都国際会館	第14回医療の質・安全学会学術集会	-
103	12. 3	感染対策室	谷久弥	コラボしが21 3階大会議場	令和元年度院内感染防止対策研修会	一般社団法人 滋賀県病院協会
104	12. 4, 5	手術センター	水長真由美	京都経済センター	普通一圧取扱作業主任者技能講習会	一般社団法人 日本ボイラ協会
105	12. 6	血浄	前川真紀	エル・おおさか	看護補助者研修 業務拡大への動機づけ	有限会社 ビジネスブレン
106	12. 12	手術センター	佐々木和輝	滋賀県看護協会	急変を見逃さないフィジカルアセスメント	滋賀県看護協会
107	10. 28	7B	米谷佑衣	レインボウ はたしろう 訪問看護 ステーション	訪問看護ステーション同行・見学	-
108	11. 26	8A	渡辺奈々	訪問介護ステーション ふれんず	令和元年度退院支援機能強化事業 訪問介護ステーション同行・見学	-
109	12. 3	8A	荻原江里	友仁訪問看護 ステーション すずらん	退院支援機能強化事業	滋賀県病院協会
110	12. 5	7B	立澤真紀	友仁訪問看護 ステーション すずらん高宮	令和元年度退院支援機能強化事業 訪問看護ステーション同行・見学	滋賀県病院協会
111	12. 4	5B 5B 6A 6B 6B 7A 7B	安居綾香 鈴木彩加 上村文乃 山出瑠望 大澤朋代 西村明奈 中橋優心	滋賀県看護研修センター	3年目看護職員交流会	滋賀県看護協会
112	12. 17	救急センター	菱田継子	滋賀県看護研修センター	看護倫理 ～倫理的感性の高い職場風土を構築するために～	滋賀県看護協会
113	10. 3～ 1. 10	6B 5A 6A	黄地麻衣子 前田璃子 木村友哉	滋賀県看護研修センター	実習指導者講習会	滋賀県看護協会
114	1. 17	6B 血浄	田中里美 多湖ゆかり	滋賀県看護研修センター	看護補助者活用推進のための看護 管理者研修会	滋賀県看護協会
115	1. 24	看護部	松宮千代美	滋賀県看護研修センター	新人看護職員研修責任者 教育担当者フォローアップ研修	滋賀県看護協会
116	1. 20	6A	柴崎志保	滋賀県看護研修センター	災害看護研修レベルII～IV 「災害時の看護を考える」研修会	滋賀県看護協会
117	1. 24	8A	岡田美穂	滋賀県看護協会	意思決定プロセス支援とアドバンス ケアプランニングの重要性	滋賀県看護協会
118	2. 5	4B	宮本広子	滋賀県看護研修センター	令和元年度滋賀県看護職員認知症 対応力向上研修会 フォローアップ研修	滋賀県看護協会

No.	月日	所属	氏名	出張先	セミナー名	主催名
119	2.13～ 2.15	血浄	多湖ゆかり	パシフィコ横浜	第35回日本環境感染学会総会・ 学術集会	福島県立医科大学 感染制御学講座
		感染 対策室	谷久弥			
120	2.12	4B	須戸瑠美	滋賀県看護協会	実習指導者講習会フォローアップ 研修	滋賀県看護協会
		5B	津田悠介			
121	2.21	7B	立澤真紀	大津合同庁舎 7-B会議室	令和元年度退院支援機能強化事業 訪問看護ステーション同行・見学 参加者の研修後情報交換会	滋賀県病院協会
122	10.24～ 10.26	外来	木下千恵美	福岡国際会議場他	第57回癌治療学会学術集会	日本癌治療学会
123	11.10～ 1.26	8A	渡辺奈々	TKP ガーデンシ ティPREMIUM 名古屋新幹線口	2020年度診療報酬改定をみすえた 看護必要度ステップアップ研修	-
124	10.21	看護部	谷口孝二	日本看護協会ビル JNAホール	全国公私病院連盟 第31回看護管理セミナー	一般社団法人 全国公私病院連盟
125	11.23	外来	大山浩子	大阪国際会議場 グランキューブ	第83回日本消化器内視鏡技師学会	一般社団法人 日本消化器内視鏡 技師学会
		外来	深尾直子			
126	1.22～ 1.25	手術 センター	二階堂邦夫	兵庫県災害医療 センター	令和元年度DMAT隊員養成研修 (第9回)	厚生労働省 DMAT事務局
128	1.15, 16	感染 対策室	谷久弥	TKP ガーデン シティー大阪 リバーサイド ホテル(4A～4D)	令和元年院内感染対策 ②地域の指導的立場の病院向け 講習会	厚生労働省
129	2.15	手術 センター	里西友	京都テルサ	日本医療マネジメント学会 第17回京滋支部学術集会	-
130		医療安全 推進室	佐伯公亮			

②受賞

令和元年	看護功労者知事表彰	今村 恵子
令和元年	滋賀県看護協会長賞	山路久美子
令和元年	滋賀県看護協会長賞	多湖ゆかり

17-2. 院内研修

研修種別	開催日	研修名	研修講師	参加人数
新採用者 オリエン テーション	4. 1	辞令交付、オリエンテーション、 看護部・各部門の紹介他	職員課	13
	4. 2	認定看護師の紹介、各部署の紹介他	レベル I 担当	13
臨床 ラダー レベル I	4. 3	感染管理、看護記録、新人の心構え	多湖科長・感染管理認定看護師 西村科長 松宮科長他	13
	4. 4	電子カルテ、医療安全・SBAR	渡辺科長補佐 佐伯補佐他	13
	4. 5	採血、感染管理(針の取り扱い)、 クリニカルパス、看護必要度	前川科長補佐 堤看護師・感染管理認定看護師 香川科長 大矢科長補佐他	13
	4. 8	皮膚排泄ケア、洗浄・消毒・滅菌、 皮下・筋肉注射	西村科長補佐・皮膚・排泄ケア 認定看護師 北村科長補佐・手術看護認定看護師 吉田科長 山路科長補佐他	13
	4. 18	心電図、輸液ポンプ、静脈注射	青野科長 高田科長補佐 菅原科長補佐他	13
	4. 25	BLS研修、夜勤の心構え、 導尿・膀胱留置カテーテル・ 薬の基礎知識	北野看護師 田邊検査技師 高田科長補佐 近藤科長補佐 米谷薬剤師他	13
	5. 13	フィジカルアセスメント I、 酸素療法、吸引	中村科長補佐・集中ケア認定看護師 藤川科長補佐・救急看護認定看護師 高田科長補佐 豊田科長補佐他	13
	6. 3	ポジショニング、輸血、認知症看護	西村科長補佐・皮膚・排泄ケア 認定看護師 荻森科長補佐 藤井補佐・認知症看護認定看護師 老年看護専門看護師他	13
	6. 22	フィジカルアセスメント II、 3ヶ月フォローアップ研修	中村科長補佐・集中ケア認定看護師 レベル I 担当者	13
	7. 31 ~8. 23	ローテーション研修 (手術センター、救急センター、 2A病棟)	レベル I 担当	12
	7. 11	人工呼吸器	青野科長	12
	8. 30	人工呼吸器	飛田看護師 西川看護師 青野科長	12
	10. 4	フィジカルアセスメント III	藤川科長補佐・救急看護認定看護師 中村科長補佐・集中ケア認定看護師	12
		受け持ち看護師の役割 6ヶ月フォローアップ	児玉科長補佐 レベル I 担当	
	11. 27	終末期看護	森口科長・緩和ケア認定看護師 秋宗科長・緩和ケア認定看護師	12
	12. 7	フィジカルアセスメント IV	藤川科長補佐・救急看護認定看護師 中村科長補佐・集中ケア認定看護師	12
		9ヶ月フォローアップ研修	レベル I 担当	
2. 7	災害看護	北野看護師	12	
	11ヶ月フォローアップ	レベル I 担当		

研修種別	開催日	研修名	研修講師	参加人数
臨床 ラダー レベルⅡ	5.30	退院調整	中居科長補佐	30
	6.20	リーダーシップ	田中科長	29
	7.3	感染経路別予防策	多湖科長・感染管理認定看護師 谷感染管理認定看護師 堤感染管理認定看護師	15
	7.19	ケーススタディのまとめ方	中村科長補佐	14
	8.22	災害看護	北野看護師 秋宗科長 飛田看護師 岡田看護師	12
	8.23	災害看護	北野看護師 秋宗科長 飛田看護師 岡田看護師	15
	9.2	フィジカルアセスメント (呼吸・循環)	中村科長補佐・集中ケア認定看護師 藤川科長補佐・救急看護認定看護師	15
	9.19	フィジカルアセスメント (呼吸・循環)	中村科長補佐・集中ケア認定看護師 藤川科長補佐・救急看護認定看護師	13
	10.24	医療安全	佐伯科長補佐	14
	11.14	フィジカルアセスメント (統合)	中村科長補佐・集中ケア認定看護師 藤川科長補佐・救急看護認定看護師	12
	11.15	フィジカルアセスメント (統合)	中村科長補佐・集中ケア認定看護師 藤川科長補佐・救急看護認定看護師	12
	11.28	看護倫理	藤井科長補佐・認知症看護認定 看護師・老人看護専門看護師	26
	1.21	ケーススタディ発表会	レベルⅡ担当	15
臨床 ラダー レベルⅢ	6.25	マネジメント	坂東科長	8
	6.28			13
	7.8	看護研究	堤看護師	11
	7.30			12
	8.19	看護倫理	藤井科長補佐・認知症看護認定 看護師・老人看護専門看護師	16
	8.29			16
	9.13	看護理論	馬場副部長	17
	9.24			12
	10.29	医療安全	佐伯科長補佐	19
	10.31			8
	11.18	継続看護	今村科長 北川副部長	17
	11.21			13
	12.4	災害看護	飛田看護師 北野看護師	8
12.16	8			
臨床 ラダー レベルⅣ	5.29	ポートフォリオ、医療経済	田中科長、総務課	3
	6.17	ナラティブ	レベルⅣ担当	28
	6.26	ナラティブ	レベルⅣ担当	13

臨床ラダーレベルⅢ (選択領域)

研修種別	開催日	研修名・内容	研修講師	参加人数
実践に 活かせる 認知症の 基礎知識	6.26	認知症の基礎知識	藤井科長補佐・認知症看護認定看護師 ・老人看護専門看護師	4
	7.19	せん妄の定義	藤井科長補佐・認知症看護認定看護師 ・老人看護専門看護師	4
	9.25	場面別事例検討 (グループワーク)	藤井科長補佐・認知症看護認定 看護師・老人看護専門看護師 小川科長補佐、佐伯補佐、 認知症ケアチームメンバー	3
	10.25	ロールプレイ、事例検討 (グループワーク)	藤井科長補佐・認知症看護認定 看護師・老人看護専門看護師 小川科長補佐、佐伯補佐、 認知症ケアチームメンバー	3

役割・委員会

研修種別	開催日	研修名	研修講師	参加人数
管理者研修	4. 19	新科長研修	谷口部長 上村副部長 橋本副部長	1
	4. 24	新科長補佐研修	谷口部長 上村副部長 橋本副部長	2
	7. 13	管理者研修	管理者研修担当	51
	3. 7	管理者研修	管理者研修担当	中止
教育担当者研修	2. 14	教育担当者研修	高田科長補佐 松宮科長	7
プリセプター研修	3. 19	次年度プリセプター研修	児玉科長補佐 松宮科長	10
臨床指導者研修	6. 27	伝達講習	佐々木看護師 細川看護師	15
看護補助者研修	5. 15、 16、 22、 23	チーム医療の推進と守秘義務・ 個人情報保護について	上村副部長	42
	6. 6、 12、 7. 4、 18	医療安全	佐伯科長補佐	36
	9. 11、 12、 18、 19	技術研修『シーツ交換』	看護補助者研修担当	46
	10. 1	感染対策のいろは	感染管理認定看護師	5
	11. 13、 20、 21、 27	技術研修『食事について』	看護補助者研修担当	43
	1. 15、 16、 22、 23	看護倫理研修『認知症患者の看護』	藤井科長補佐・認知症看護 認定看護師・老人看護専門看護師	45
MH・ クラーク 研修	5. 15、 16、 22、 23	チーム医療の推進と守秘義務・ 個人情報保護について	上村副部長	23
	6. 6、 12、 7. 4、 18	医療安全	佐伯科長補佐	25
	9. 5、 12	コミュニケーションのスキルアップ 研修	クラーク研修担当	21
		感染のいろは	感染管理認定看護師	4
	1. 15、 16、 22、 23	看護倫理研修 『認知症患者の看護』	藤井科長補佐・認知症看護 認定看護師・老人看護専門看護師	23

全体研修

研修種別	開催日	研修名・内容	研修講師	参加人数
中心静脈ポート		中心静脈ポートの基礎知識、 DVD視聴、演習、口頭試問	木下科長補佐・がん化学療法 認定看護師他	

部署	テーマ
8A	臨床看護師が抱く身体抑制、行動制限解除の葛藤 ～日勤帯で解除し、夜勤に申し送る時～
6A	心不全患者のクリニカルシナリオ分類と退院時指導の効果の関連 ～入院時評価表を用いた効果的な患者指導の欲求～
6B	外科術後患者にNEWSスコアを用いた急変予測の有効性
5A	人工骨頭後の高齢者患者における身体拘束に対するジレンマ
5B	実技指導を通して看護職員の意識を変える取り組み ～バスタオルを使用した体位変換の廃止に向けて～
4B	エムラクリームでの疼痛緩和処置に影響を与える促進要因と阻害要因 ～看護師へのアンケート調査より～
血浄C	当院の血液浄化センターにおけるNational Early Warning Score使用の有用性
2A	ICU入室後48時間以内に経腸栄養を開始することが皮膚統合性障害を減少させる ことに関係するか検討する
救急C	小学校低学年の子供をもつ看護職のワークライフバランス支援 ～「小1の壁」を乗り越えて仕事と育児の両立を目指して～

17-3. 看護部業務委員会活動

I. 各委員会評価

1) 記録推進

【全体評価】

クリニカルパス

クリニカルパスを多く使用している部署で、汎用されているパスを1事例挙げ見直した。どの部署のパスもアウトカムが毎日組み込まれておらず、離床目標であったり退院支援や退院指導、栄養指導など看護視点でのアウトカムが不十分であった。そのため、退院まで毎日アウトカムを組み込みアウトカム志向のパスに修正した。問題点が明確化したことで、修正内容を明文化した修正リストを作成した。

看護診断

看護上の問題点を明確にし、継続的に介入するためには看護記録の質向上を目指す必要がある。今年度は、監査表に質を評価できる項目を追加した。個別性のある看護計画が掲示板に記載されていることに着目し、監査表に「掲示板の内容が看護計画に反映されているか」の項目を設け、周知活動を行ってきた。結果、“できている”の評価は全体の30%であった。「OP/TP/EPの追加修正ができている」の項目も「できている」が40%の評価であり、昨年度の33%からほぼ横ばいである。電子カルテの形式上の問題もあるが、看護診断のあるべき姿を求めて引き続き活動が必要である。

マニュアル

各科各病棟で使用する略語の洗い出しを行った。その中で、今年度新調した略語集の中で重複している略語は除外し、院内略語集に掲載する略語を決定し、新しくマニュアルを改訂した。院内略語の認識についても検討し、新たな見解の序文を掲載した。今回、新しい略語集を導入できたが、略語は新しい治療・看護処置・看護・介護のシステムなどが増えるのに比例して増加していくと考えられる。そのため、定期的な見直しが必要になるが、見直し方法の検討が今後の課題となる。

【残された課題】

クリニカルパス

より充実したアウトカム志向のパスとなるように他職種と連携したパスの修正に取り組む。来年度は頻繁に使用する全パスを修正することを目標に取り組む。これが達成できれば、現在は殆ど発生しないバリエーションが発生することが予想されるため、バリエーション評価に繋げていく。

看護診断

委員会で各病棟の看護記録を個々人が評価し、話し合う機会を設け、被評価病棟へフィードバックすることで質監査を少しずつ進めていく。また、記録チェックの中にも質的な項目を追加して毎月チェックできる方法を試行する。

マニュアル

定期的な略語集の見直し 看護記録マニュアルの修正。

2) 接遇

【全体評価】

① 職員の接遇実践力をあげ、医療接遇の質を高めることができる

- ・ 今年度は年4回のあいさつ運動と巡視の強化を図った。その都度、振り返りを部署に活かした結果、部署の接遇意識の向上を実感できた。
- ・ あいさつ運動の実践で委員の達成感は得られたが、組織全体の取り組みの枠を超えられず病院全体の取り組みには至らなかった。巡視は、各部署で身だしなみへの取り組みを実施していたため、結果的には高評価であった。しかし、課題のある職員が一定数見られることから、今後も日常的な働きかけが必要である。
- ・ 「CSだより」から「おもてなし便り」へ受け入れやすいネーミングに改訂し、定期的に発行した。活動結果を伝えるのみとなっており、改善が必要である。
- ・ あいさつ運動・巡視の結果から部署毎の取り組みの評価として、年末に他者評価を実施した。しかし、評価基準を2段階評価としたことで、評価基準の認識の差により、取り組みを反映した結果を得ることができなかった。
- ・ 部署毎に工夫を凝らした取り組みを実施し、3月に成果報告会を行った。
- ・ 全体的に見てゴール目標はほぼ達成できたと考える。

② 接遇に関する課題を明確にし、改善策を検討し実践することができる

- ・ 意見箱への投書に対し定期的に部署での話し合いをし、接遇に対する指導や取り組みに活かすことができた。しかし、業務中の話し合う時間の確保が困難であり、少人数での話し合いとなってしまったことから、取り組み方法を検討する必要があると考える。
- ・ 補佐主催の学習会でロールプレイを実施し、客観視することで自己の言動を振り返ることができた。まずは自分の言動を見つめ直すことが必要であるため、委員会の初期段階での実施を検討していく。

実際に経験した接遇にまつわる成功体験を職場内で共有した。

患者からの感謝の言葉は、当たり前の声かけや日常の些細な対応から発せられることが多いことがわかり、委員会で共有することができた。

【残された課題】

病院接遇教育委員会と看護部接遇委員会の活動がリンクしていない。

病院全体の接遇の取り組みが見えず、以下の事項のコラボが望まれる。

- ・ 病院全体での挨拶運動の実施(接遇教育委員会と合同で行う)
- ・ 標語は接遇教育委員会と同じものを検討してはどうか。
- ・ 職種によりマニュアルが異なると患者にはわからないため、他職種も含めたマニュアルのある程度の統一も必要ではないか(たとえばコメディカルの服装・身だしなみなど)
- ・ 接遇マニュアルの見直し。

3) NST

【全体評価】

- ① NST リンクナースとしての知識を習得し伝達することができる
 - ・ リハビリテーション栄養についてのミニ学習会 7 回/年実施。年度末テスト正解率 87%。目標の 90%を超えることは出来なかったが、興味を持てた、新しい知識を習得できたとの声もあり、知識の共有をはかることができた。
 - ・ NST ニュース発行 22 枚。リンクナース会メンバー全員が 1 回以上発行し伝達講習をすることができた。特に病棟リンクナースは病棟紹介が多く、各病棟の特徴や取り組みを発信することができた。
 - ・ NST マニュアルについて、今年度の活動で周知した内容を追加し、今後差し替え予定
- ② NST チームと連携し、各部署の栄養管理を適切に行い患者に還元することができる
 - ・ 栄養再評価率 90.9%、NST 介入依頼率 83.4%。栄養再評価率 90%以上の目標は達成、NST 介入依頼率も向上し、必要な患者の介入依頼が来ている。
 - ・ 週 1 回の病棟管理栄養士と協働した栄養カンファレンスが定着した。カンファレンス記録用紙を統一し、管理栄養士と協力して必要な情報を事前に記載しておくことで、内容の充実をはかり、病棟の栄養管理が必要な患者の情報共有が出来るようになった。
 - ・ NST 回診参加率 36.4%で、1 回/月の参加の目標は達成出来なかったが、回診対象病棟は 1 回以上は参加することができた。参加ナースからは学びになったとの声が聞けた。
 - ・ 評価率の向上だけでなく、口腔ケアや栄養カンファレンスの取り組みと連動して、栄養管理介入が必要な患者を把握し、NST チームとの連携をはかることが出来てきている。
- ③ 口腔ケア方法の標準化をはかり、適切なケアを実践することができる
 - ・ 6 月中旬より口腔ケア物品の統一化、口腔ケアアセスメントシートを導入し、口腔ケアへの意識を高めることができた。
 - ・ 洗口液は 1.5 倍、保湿剤は 10 倍に使用量が増加。舌ブラシの使用量も順調に増えてきており、必要な患者に口腔ケア物品が提供できるようになってきている。
口腔ケア介入依頼率 7.3 件→10.85%へ増加。院内全体で口腔ケアに取り組むことができている。

【残された課題】

- ・ リハ栄養について、伝達した知識を対象の患者に実践していく。
- ・ データ収集について、今年度はリンクナースの負担を少なくするため、リンクナース会を開催する週のデータのみとしたが、対象者が少なくなったために正確なデータが得られにくかった。効果的に評価していくため、データ収集方法の再検討をしていく。
- ・ NST 回診への参加率がなかなか伸びず。参加しやすい体制づくりが必要。
- ・ 口腔ケア手技を周知・統一化をはかり、ケアの確実性を高めていく。

4) がん看護

【全体評価】

- ① がん看護の質の向上と、成果が収益に結びつく活動ができる
 - ・ STAS-J 評価では 90%以上の記載ができ、介入オーダの件数が増加した。
 - ・ 自部署調査と振り返りをする中で、自部署の課題に気づき、各部署のスタッフの意識向上をはかることができた。
 - ・ STAS-J 評価と、がん患者指導管理料との相関を示すことができず、収益に結びついたという自覚を持ってもらうことができなかった。
- ② 安全・安心ながん治療環境を整える
 - ・ レジメン別の化学療法マニュアルを作成し、電子カルテに取り込むことができた。
 - ・ マニュアル使用の評価には至らなかった。
- ③ カンファレンスの指標となるフローチャートの作成
 - ・ 3 場面について作成し、1 病棟で試験運用したが、院内全体への周知には至らなかった。
 - ・ グループメンバー内でフローチャートの意義に疑問を感じ、試行錯誤しながら「今、看護の現場で使えるものを」という理由で、症状コントロールマニュアルの見直し・追加をする方向となった。
- ④ 自己と所属スタッフの知識やスキルの向上
 - ・ 年3回実施した、がん看護研修では運営の役割を担うと同時に、研修を受講することができた。所属スタッフへの声かけは各自できたが、出席人数が少ない部署もあり、関心や意識の差が伺えた。
 - ・ 院外研修の案内を随時おこなったが、参加には結びつかなかった。
- ⑤ 情報発信をおこなう
 - ・ ニュースレターの担当を決め、最新のトピックスや、医療者として知っておいてもらいたいことを発信することができた。担当月に発行できなかったメンバーがあり、時々進行具合を確認する必要があったと考える。

【残された課題】

- ・ リンクナースの活動が病院の収益に反映されていることを、数値を以て伝えることにより、リンクナースの価値を自ら感じ、経営参画の自覚が育成されると考える。また評価することが目的ではなく、患者や家族に提供する看護の質を改善、向上し、その苦痛を理解するという大きな目的があることを、リンクナースの使命として活動を続けてもらう。
- ・ 成果発表会の際、フローチャートがあればカンファレンスがより効果的なものになるのではないか、という肯定的な意見が複数あった。症状コントロールマニュアル改訂にシフトしたが、フローチャートの作成をどのように継続させていくかが問題である。
- ・ 化学療法レジメンは 1 年で 10~20 レジメンの新規登録となり、マニュアルの作成が追いつかないことが予測される。
- ・ 院外の研修を、いかに促していくか。強制はできないため、私的な所用で困難だと言われると、それ以上の案内ができない。
- ・ ニュースレターは時代の流れに合ったもの、どの職種も関心を持って読めるもの、読みやすいもの、目を引くものという項目をクリアして発行できるよう、作成途中での確認が必要である。

5) 倫理

【全体評価】

倫理的視点を交えたカンファレンスを行い、患者の立場にたった看護実践へと導くこと、ACP を院内に周知し、患者の意思決定支援を行うことができることを重点目標として1年間取り組んだ。

倫理的視点を交えたカンファレンスについては、学習会を実施し全部署の実践報告会ができた。他部署のカンファレンスの様子を知り、多様な倫理的問題に気づくことができた。カンファレンス実施件数(5月～2月)は、901件であり、倫理的視点割合は87.4%であった。部署の特殊性もあり、件数にはばらつきがあるが、昨年件数が伸び悩んだ部署が今年度は取り組むことができ評価できる。

ACPは、学習会の実施、管理者研修での研修開催、院外講師の講演開催を経て、一部の病棟からプレ実践をし、10月より全部署に導入した。リンクナースの取り組みにより、部署での学習会等を積極的に実施し、「私の希望」「ちょこっとACP」の件数が伸びた。

実際、ACPを行った症例報告では、“関りが難しい患者の本当の思いを聞くことができ、患者と深く関わり、家族と話し合ってもらったツールとなった”“地域へ患者の思いを発信できた”などの発表があった。リンクナースを中心としたACPの推進であり、全体の取り組みとしては弱い、看護管理者の協力もありACPの推進は図れたと評価する。

倫理研修の案内により参加した委員の伝達講習、ニューズレターの発行を積極的に行うことができた。

【残された課題】

倫理的視点を交えたカンファレンスの開催は部署間で相違がある。今後は、部署の特殊性も踏まえながら、看護管理者を巻き込んだ体制作りが必要である。カンファレンスの実践報告会の方法を検討し、より自部署のカンファレンスに活かせることを考慮していきたい。

ACPの導入は図れたが、委員の交替による継続性が課題となる。ACPを必要とする患者に導入ができる能力を育成できる取り組みが必要と考える。

6) 認知症ケア

【全体評価】

リンクナース自身が自部署の特性を捉え課題を見出すことを目標として活動を行ってきたが、方向性を見出せないというリンクナースの声も聞かれた。活動の進捗状況の把握やタイムリーで適切な助言の不足もあり、部署の特性を捉えた具体的な活動や実践につなげることが十分にできなかった。一方では、認知症患者や認知症ケアへの理解・関心を深め、現状と自身の課題をリンクさせ意欲的に取り組むことができたリンクナースもみられた。成果発表会でそれぞれの活動内容を共有することで、次年度の活動への刺激や実践の参考になったとの意見が聞かれ、改めてリフレクションの機会になった。計画していた学習会、事例検討、ロールプレイ、ケアチームラウンドへの参加、成果発表の実施については予定通り行うことができた。

また、認知症ケア加算の運用方法や入力状況を数値で示すことで、リンクナースからスタッフへの伝達、入力もれ防止策の実施につながり、入力もれ数の大幅な減少に至った。

【残された課題】

リンクナースが活動への満足感や達成感を自己満足で切るとともにリンクナースとしての役割りを意識し、責任をもって1年間取り組めるような目標設定や課題の提供方法、進捗状況の把握、結果

の可視化、評価方法について再検討する必要性を感じている。そのためには、委員会のコアメンバーがまず組織の特性や認知症ケア実践の現状、課題、スタッフのニーズ等を捉え、分析・評価を行っていくことが求められる。

リンクナースのラダーレベルや認知症の知識には差異があり、学習の機会が必要といえる。目の前の事象を根拠をもって判断・評価することに活用できる認知症の知識の獲得をめざし、学習時間の確保をしていきたい。さらに、参考図書・文献の紹介や院外研修への参加の呼びかけも引き続き行っていく。

認知症ケアチームと部署のリンクナースとして、運用方法の浸透については一定の成果が得られたが、それらの継続とともにタイムリーな介入やチームとの協働によるアセスメント力・対応力の向上につなげていく必要がある。

7) 医療安全

【全体評価】

- ① 各所属での RM としての発言、周知方法を学びより安全環境への変革につながるリーダーシップ習得。
- ② 医療安全に関する問題はもちろん組織における問題解決方法を学び自己の問題解決にも役立たせる事ができる。
- ③ リスク感性を磨き「これおかしい」などの気づき、問題提起ができる人材育成。
- ④ 医療安全に関する様々な情報を把握し報告、早期介入し改善策を提案できる人材育成。

彦根市立病院の RM 医療安全活動の協力者と部署内でのリスクに関するリーダーの養成。人材育成を目標に委員会を運営した。

①③各病棟の特性を活かしリスクの視点での自主的な活動は個人差があったが全ての部署が活動報告にて取り組みを発表し成果はあがっている。また、RM を中心に所属長、スタッフの協力を得て日々発生するインシデント・アクシデントに関する内容を④GRM 介入前に対応・対策が出来ており毎月提出頂く活動報告にも如実に表れている。

②に関しても問題解決技法の簡易 RCA を実施し各部署で実施。解決に繋がっていると考えるが、分析手法としての RCA の妥当性を考えていきたい。

【残された課題】

次年度より看護部 RM+RRS 担当となることから RM の負担増大が考えられるため RM、RRS 共に業務内容を見直し取り組んで行く必要がある。看護部 RM との役割分担、RRS 運営部会の協力を得て次年度の目標が達成出来るように取りくむ。

またこの合併を好機と捉え、院内急変患者の情報共有、ドクターコール検証会へは RM 同席も視野にスタッフレベルでのフィードバックができるように考えていく。

また RM の部分では病棟全体での検証会を積極的に誘導し実施することを目標とする。

やはりスタッフ全体の意見を聞くことは共通目標の共有には有効で有り組織運営、医療安全活動には有効と考える。

8) 感染対策

【全体評価】

平成 30 年度より、リンクナースの活動時間と学習会の時間を確保するために、会議時間を毎月 2 時間へ変更した。そのため、リンクナースのグループ活動・学習会の開催ともにはほぼ予定通りに進めることができた。

- ① 感染対策に必要な知識・技術の向上を図り、役割モデルとして感染対策が実践できる
 - ・ 院内感染対策セミナー及び、隔月の委員会で学習会を開催し、知識を習得する機会を設けた。しかし、リンクナースとしての経験年数がまちまちなものもあり、所属部署での有事の際に初期対応が可能なレベルにまで全員がなるということは困難であった。
- ② 所属部署の感染対策に対する課題を明確化し、改善策を考えることができる
 - ・ 所属部署の課題を抽出し、その改善策について計画書を作成し提出してもらった。その取り組みの成果については、3月のリンクナース会で活動報告会を行った。
- ③ サーベイランス活動に協力する
 - ・ サーベイランスデータの収集を行うのは、病棟と血浄・手術のリンクナースであるが、どの部署も滞りなくデータを提出することができた。毎月の会議で報告したサーベイランス結果については、リンクナースを通じて所属部署のスタッフへ伝達してもらった（特に耐性菌の検出状況や手指消毒剤の使用量について）。
- ④ グループ間の連絡を密にして、教育・啓発・広報活動を行う
 - ・ 3つのグループに分かれてもらい、そのメンバーで決めた取り組み内容について1年間を通して活動してもらった。グループごとの活動は予定通りに終えることができたが、グループ同士が連携するような形の取り組みにはもっていけなかった。
広報活動については、それぞれのリンクナースが所属部署のスタッフに向けてポスターを作成し、掲示することができていた。

【残された課題】

- ① リンクナースは毎年半数以上が新しいメンバーに入れ替わってしまう状況であるため、感染対策に関する知識を習得してもらう目的で次年度も引き続き学習会の時間を設ける必要がある。
- ② リンクナースの働きかけにより、徐々に手指消毒剤の使用量は増加傾向にあるが、約半数の部署が1ヶ月あたりの目標値（1,000患者/日あたり10L/月以上）をクリアできていない状況である。今後も引き続き手指消毒剤の使用量の増加を目指すのは勿論のこと、適切なタイミングでの手指衛生が実施できているかの評価も行っていく必要があると考える。
そのため次年度は、リンクナース全員が手指衛生の直接観察法を習得し、所属部署で実践できるように取り組んでいく必要がある。

9) スキンケア

【全体評価】

今年度スキンケアリンクナース会では、褥瘡予防・排泄ケア・フットケアの3つ活動を行った。

- ・褥瘡予防については、標準的な予防的スキンケアの徹底と、より丁寧なケアが必要な患者に対してはプラスαのケアを提供することにより、院内褥瘡発生5件以内を目標としていたが、結果としては、12件（5B病棟5件、6B病棟2件、7A病棟2件、8B病棟1件、6A病棟1件、手術センター1件）と平成23年以降ではもっとも多かった。

褥瘡発生要因としては、栄養状態・循環動態を始めとした全身状態が非常に悪いという患者の個別な要因もあるが、発赤等の初期の段階に気付かない、気付いていても局所処置のみを実施しマットレスの見直しを含むケア方法の見直しが出来ていないことが挙げられる。

一方で8B病棟においては、発赤が生じた時点でハイドロサイトを貼付することにより、褥瘡へと進展する症例はなく、終末期の全身状態不良な患者の褥瘡発生を効果的に予防することができた。

- ・排泄ケアについては、リンクナース会の時間を活用した知識の伝達、マニュアルの周知、排尿ケアチーム介入対象者の情報共有を行い、排尿ケアチームへの介入件数が昨年度の平均11件/月に比べて、今年度（4月から2月の実績より算出）は平均20件/月と増加した。
- ・フットケアについては、リンクナースに活動時間を利用して下肢専門外来の見学に行ってもらい、そこで得た知識を部署で伝達、実践してもらった。その結果、部署からフットケアに関して相談される件数が増加した。活動の結果を相談件数の増加だけで測ることはできないが、病棟看護師のフットケアに関する意識が向上したと考える。

今年度のリンクナース14人中10名が新規のリンクナースであり、前半はリンクナースとしての主体的な活動があまり見られなかったが、年度末にスキンケアマニュアルの作成もしくは修正という課題を出したところ、どの部署のリンクナースも自部署の特徴を活かしたマニュアルを作成することができた。

8A（坂口）「ハーティグローブを使った体位変換」

8B（高柳）「ハイドロサイト貼付による褥瘡予防」

7A（市田）「PICC フィルムドレッシング交換方法」

7B（西村）「トイレ誘導時のポイント」

6A（高橋）「爪切りをしよう」

6B（西川）「ドレーン固定バリアの使用法」

「腎瘻の管理」

5A（古川）「介達牽引中の褥瘡予防」

5B（山下）「大容量オムツを使ってみよう」

4B（松岡）「小児の持続点滴固定方法」

2A（林）「NPPV マスク装着時の褥瘡予防」

血液浄化センター（安井）「血流評価をしよう」

外来（高橋）「自己導尿の導入」

救急センター（鈴木）「弾性ストッキングの履かせ方」

手術センター（古川）「手術によるスキントラブルの原因」

【残された課題】

① 褥瘡予防に関して

- ・ 褥瘡予防に関する看護師の意識の向上
 - ◇ ワセリン使用量の調査
- ・ 褥瘡予防に関する看護師の知識と技術の向上
 - ◇ ハーティグローブを用いた体位変換（バスタオルを用いた体位変換の廃止）を2A・5B病棟の重点介入症例より開始
 - ◇ 各病棟で年間3例以上、効果的なポジショニングについて、ベッドサイドでPTやOTも交えた検討会を実施
 - ◇ ハイドロサイトによる褥瘡予防ケアについて、一般病棟への適応拡大を検討する
- ・ 褥瘡予防環境の整備
 - ◇ 年間を通じてふわふわ靴下が入手可能となる方法を検討
 - ◇ 体圧分散マットレスの追加購入、各部署の状況に応じた分配

② 排泄ケアに関して

- ・ 排泄管理に関する看護師の意識の向上
 - ◇ 排尿ケアチームへの介入依頼・相談件数を可視化（電子カルテもしくは院内の掲示板を用いた啓蒙活動）する
- ・ 排泄管理に関する看護師の知識と技術の向上
 - ◇ 勉強会や症例検討会の実施
 - ◇ マニュアルの整備
- ・ ケアの質を上げるための環境整備
 - ◇ 排尿ケアチーム内での役割分担
 - ◇ 実績に応じたポータブルトイレや残尿エコーの追加購入を要望

③ フットケアに関して

- ・ 看護師の意識の向上
- ・ 看護師の知識と技術の向上
- ・ フットケアに必要な用品の整備

II. 全体総評

今年度も昨年度に引き続き「看護の質向上につとめ、安全と信頼性の高い看護の提供」を合同業務委員会の理念とし5つの目標を掲げ、各委員会が活動を展開してきた。

地域包括ケアシステムの深化により、地域完結型医療へのシフトチェンジが加速している。

その中で、患者との信頼関係構築を基本とし、安全・安心を担保した看護の実践が必須である。

また、看護師には患者の意思決定支援に関与し、個々の患者のニーズに応じたケアの提供、質の向上も併せて求められ、看護師の役割が拡大している。更に、湖東医療圏唯一の急性期病院の役割から、患者の受け入れに努め、経営貢献に伴って、日常業務が繁雑化し質の担保が図れにくい状況にある。

これらの背景を受けて、各委員会ではリンクナースのリーダーシップに期待を置き、各目標達成に活動を展開してきた。特に、スクリーニングの強化を図り、ハイリスク患者の早期介入が以前より増加している。

しかし、リンクナースのキャリアの違い、継続性が要因となり、リンクナースの活動状況に差異があり、成果にも反映されている現状が散見される。

この解決には、委員会活動だけでは改善に結び付かず、看護師教育による人材育成との両輪で進めていかないと解決にはつながらないと考える。また、ケアの質には看護師の気づきと発信、ケアの継続性といった一連の流れで看護ケアを提供できる環境の調整が必要と考える。それには、個々の看護師への負荷を軽減し、相談できる体制作りを強化することが質向上につながると考え、今年度はペアリングやハドルミーティングの導入を行った。浸透にはまだまだ時間を要するが、今後、インシデント報告、業務量調査の結果等の指標を分析し評価につなげていきたい。

また、委員会の活動が診療報酬に直結し、組織の経営貢献につながっているものが多く、その分、業務量が増大している委員会も散見される。モチベーション維持のために、何らかの還元を検討すべきと考える。

【次年度にむけて】

次年度は、今年度から開始したペアリングの定着をはかり、看護提供方式の導入によって看護師の気づきの向上をはかり、ケアの継続性を担保し質の向上に結び付く仕組みを整えていくことを目標とする。そのために、看護提供方式の委員会組織を立ち上げ、具現化を目指していきたいと考える。さらに、教育との連携を図り、個々の実践能力の向上をめざしていく。

17-4. 教育活動

I. 研修について

1) クリニカルラダー教育の説明

令和元年度の教育計画の説明は、4月10日の科長会議で実施したが、特に問題なかった。

2) 研修内容の改善および研修環境について

クリニカルラダーレベルⅠ～Ⅳの研修内容に関しては、昨年とほぼ同様に問題なかった。研修環境に関して、研修物品には不足がないため予算請求しなかった。

II. 合同教育委員会について

1) 令和元年(2019)年度 教育評価

① クリニカルラダーレベルⅠ

フォローアップ研修の内容を変更しリフレクション研修を取り入れた。看護実践を振り返り、同期と語ることで看護の大切さに気付き、自己の看護観を深める研修となった。今年度も1年未満の退職者は0人。新人12人、既卒者1人がレベルⅠを認定された。新人看護師1名が認定できず保留となった。

② クリニカルラダーレベルⅡ

受講者が少なく、ケーススタディの発表を1日にしたが特に問題はなかった。次年度からは、受講生が減少しているため「災害看護」「フィジカルアセスメント」の開催は1回のみとする。

③ クリニカルラダーレベルⅢ

特にトラブルなく終了した。参加人数の少ない研修が中止となった。認定審査に5名提出があった。

④ クリニカルラダーレベルⅣ

「看護倫理」の研修を実施した。意見交換は貴重な場となった。

⑤ クリニカルラダーレベルⅢ選択領域

2研修を開催予定であったが、「現場を変えたい！看護の質向上のための3ステップ」は、受講希望者が少ないため中止となり、「認知症の基礎知識」研修のみ開催した。

⑥ 役割・委員会研修

3月に予定していた管理者研修が新型コロナウイルスの影響で中止となった。他は特に変更なく問題なかった。

⑦ プリセプター

プリセプターの評価を、評価表を用いて年2回行ってきたが、プリセプター自身の評価のみとなり、他者の評価を記入する欄がなかった。負担は増えるが、他者評価をすることでプリセプターの励みにもなるのではないかとと思われる。

2) 次年度に向けての教育計画の見直し

① クリニカルラダーレベルⅠ

新人看護師の「独り立ち基準」を新人研修ファイルの到達目標に追加することにした。どの部署でも一定の評価で独り立ちができるように、独り立ちの到達の目安を設けた。

② クリニカルラダーレベルⅡ

特に変更しなかった。

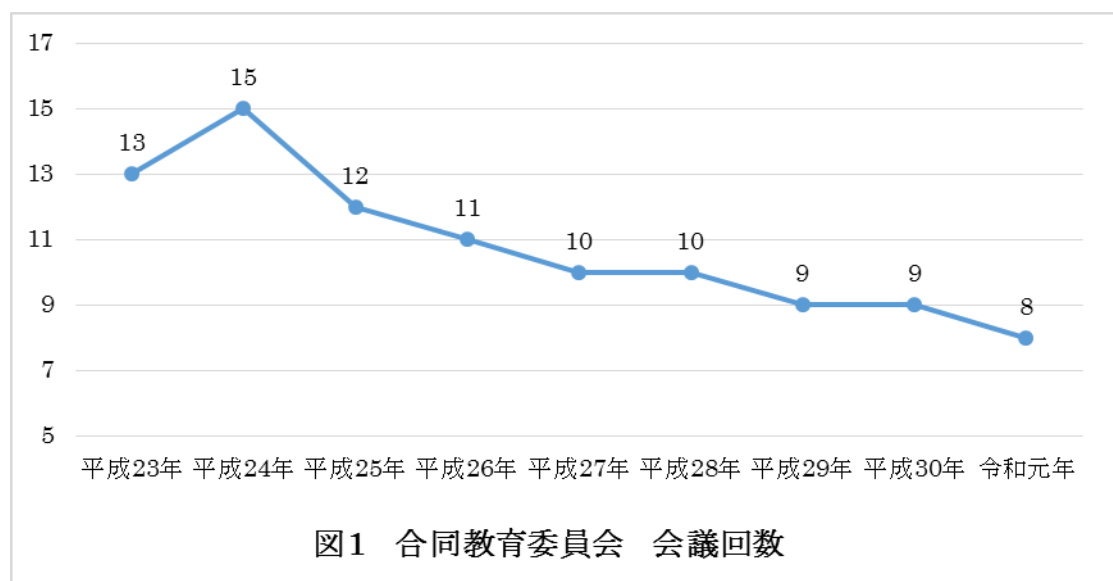
③ クリニカルラダーレベルⅢ

- ・受講生が259名と多く、申請をすればレベルⅣへアップできる者が16名いたが、今年度申請したのは5名のみであった。研修を何も受けない者が73名いた。管理職でレベルⅢの者が27名いる。このような現状からレベルⅢだけでなく、クリニカルラダーの見直しが必要と思われた。日本看護協会から平成28年に新たに開発された看護師のクリニカルラダーは、5段階に分かれており、看護実践能力に力を入れている。今年度後半よりクリニカルラダーの見直しに向けて計画中有る。

- ・申請の要件が、看護実践レポート3事例とあったが実際のレベルⅢの研修内容とそぐわず、申請を滞らせる要因ではないかと考えた。申請内容を見直し、実践レポートは1事例とし、「委員会活動や教育活動においてどのようにマネジメントを行い、組織貢献できたか」についてのレポート1例を追加した。
 - ・認定審査の対象者をレベルⅢの研修をすべて終了した希望者に加えて、看護協会が主催する認定看護管理者教育課程のファーストレベルを終了した希望者も申請できるとした。
 - ・育児休業明けに申請をする場合は、復帰後6か月を経過していることを条件に加えた。
- ④ クリニカルラダーを変更していくにあたり、「当院が求める看護師像」と「看護師にとって必要な能力」について協議し、掲げることにした。
 - ⑤ クリニカルラダー研修の選択方法・修了要件について、内容を一部変更した。主な変更内容は、下記のとおりである。
 - ・研修をすべて時間内とした
 - ・研修の参加人数が5名以下の場合には中止する
 - ・ファーストレベルや大学院等で専門的な研修を終了している者は研修免除の申請ができる

3) 会議回数の削減、時間短縮、参加メンバーについて

会議回数については、1回の開催を削減し8回としたが問題なかった(図1)。前期は、研修の報告が主な議題であり、有意義な会議とは言えなかった。次年度は検討議題がなければ前半の会議を縮小していきたい。後半は次年度の研修の打ち合わせ調整があるが、合同教育委員会の会議の持ち方について検討する必要があると感じた。



4) 『教育委員会便り』発行

『教育委員会便り』を1回発行した。内容は、レベルⅠ～レベルⅣ、管理者研修を掲載した。

5) HPについて

昨年と同様、研修内容の様子については、『教育委員会便り』を掲載した。

6) 保健所立ち入り調査 (11月27日)

各研修ファイルと会議録を整理し、特に問題はなかった。

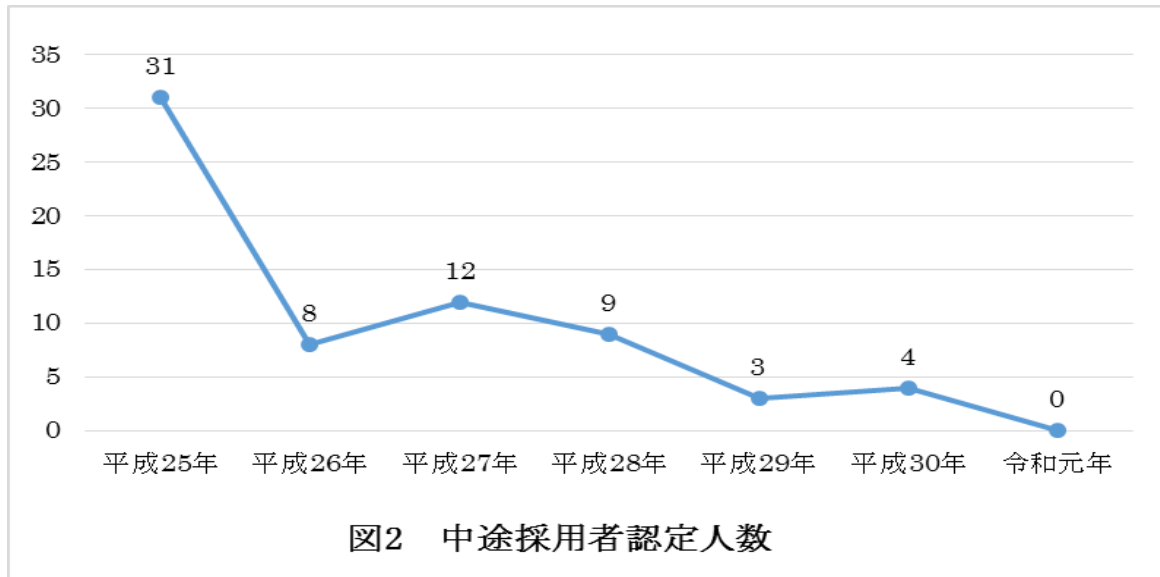
Ⅲ. クリニカルラダー認定審査会について

1) レベル毎のデータ整理

昨年と同様に、データベースの作成を実施した。入力に時間を要するが、特に問題はなかった。

2) 中途採用者ラダーレベル認定

今年度の中途採用者はなかった（図2）。

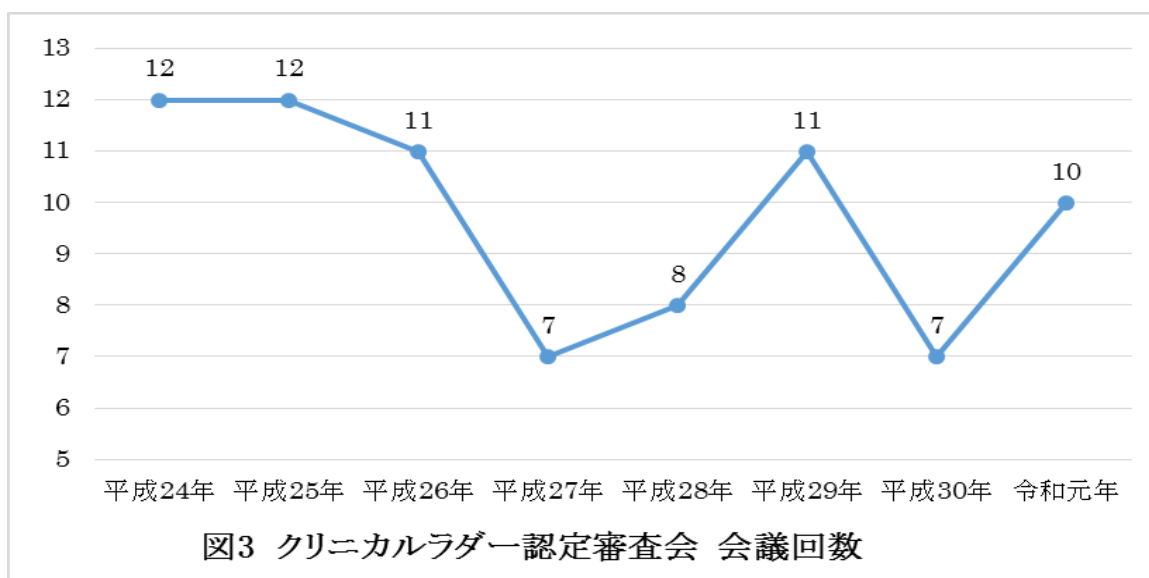


3) クリニカルラダーの見直し

日本看護協会の開発しているクリニカルラダーを活用し、4段階から5段階のクリニカルラダー制度に次年度1年間で変更をしていく計画を立てた。今年度中は、各レベルの行動目標の見直しを行い、次年度から具体的な計画の見直しをしていく。（レベルⅢの教育計画の見直しの項目参照）

4) 会議の回数、削減

今年度は、10回の開催を行った。次年度に向けてクリニカルラダーの見直しのための会議を行ったため開催回数は昨年度より増加した。次年度も毎月会議を行い、クリニカルラダーの見直しを進めていきたい（図3）。



IV. 滋賀県看護協会 生涯学習研修

1) 受講状況

令和元年度の延べ研修参加者は、117名（44研修）であり、参加者は、昨年程度より上昇した。

（図4）当院で滋賀県看護協会に入会している看護師数は232名いる。そのうち、42%の97名が研修に参加できた。一人2回研修へ参加する者もいた。部署別にみると、病棟からの参加者は多いが、外来、血浄など特殊な部署の参加が少ない傾向にある。看護協会に入会している人数が少ない部署とほぼ比例している。（図5）

研修の申し込み時に提出する受講動機の記入内容を、現状の分析、自己の課題などを織り込んで文章にして提出するように少しハードルを上げたが、参加者が平成29年度並に回復したことは良かった。しかし、看護協会を脱会する者もあり、会員数は減少傾向であるが（平成30年は245名）、新たに入会した者が新人看護師以外で13名いた。新入会への地道な声掛けは必要であると感じた。

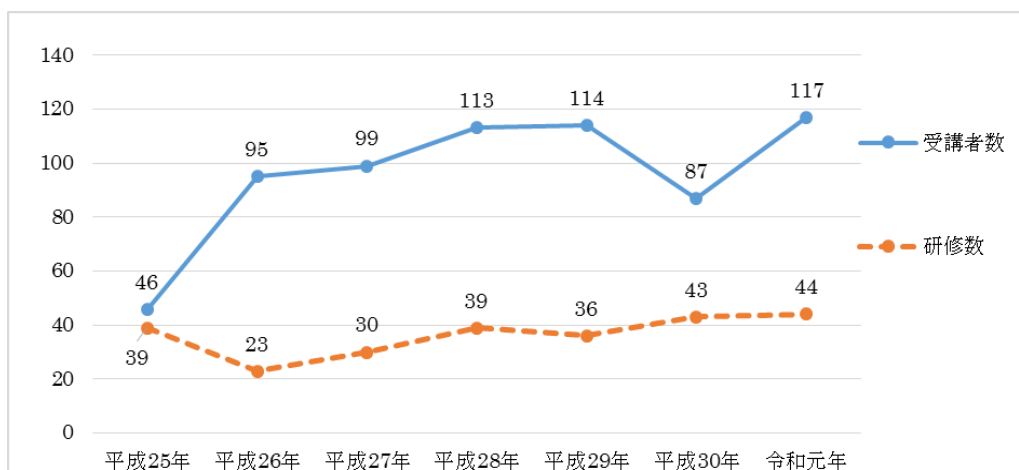


図4 滋賀県看護協会生涯学習研修 参加状況

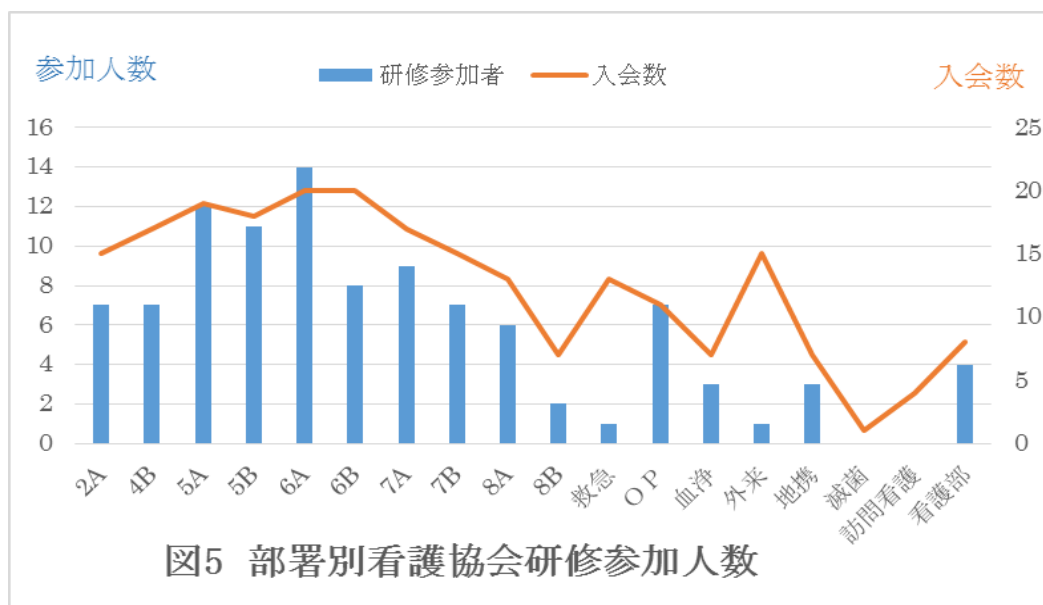


図5 部署別看護協会研修参加人数

V. 今後の課題

1) 研修について

レベルⅠ

ローテーション研修を7月～8月に実施していたが、新人の成長が未熟な時期であり、貴重な日勤であるため、次年度より10月頃に変更することにした。新人が苦手とする多重業務についての研修も追加したため、次年度はその評価を行っていききたい。

レベルⅡ

受講生の減少に伴い研修回数を少なくしていく。病棟の負担、研修の内容等問題がないか検討をしていきたい。

レベルⅢ

すべての研修を時間内研修としたため評価を行う。また、受講票の運用方法も変更する予定をしているので合わせて評価をしていく。

選択領域について

選択領域の参加をレベルⅢとしていたが、受講生が少ないこと、各リンクナースにも参加してほしい意向があり、選択領域をレベルⅡ～Ⅲとし、リンクナースも参加ができるようにしたので評価したい。

2) 合同教育委員会について

会議では、研修の出欠や遅刻者のみの報告に終わっている。研修内容に関する評価を検討できるような場としたい。開催回数も必要最低限にしていきたい。

3) クリニカルラダー認定審査会

次年度は看護協会が開発している、クリニカルラダーに変更するための準備期間としていきたい。令和3年度より新クリニカルラダーでの運用ができるよう会議を進めていきたい。

4) 滋賀県看護協会 生涯学習研修

看護協会の会員数増を目指したい。多くの会員が研修に参加できるように促していきたい。

17-5. 実習受け入れ状況

糖尿病資質向上研修（滋賀県健康福祉部医務薬務課）

実習科目	職種	人数	実習期間	実習病棟
臨床実習	看護師	3	R1. 8.13 ~ 8.20	外来、6A、7B病棟
		2	R1. 10.1 ~ 10.9	

滋賀県立大学人間看護学部

実習科目	学年	学生数	実習期間	実習病棟
基礎看護学実習Ⅰ	1	35	R1. 8.20 ~ 8.22	5A、5B、6A、7B、7A、8A病棟
基礎看護学実習Ⅱ	2	37	R1. 8.27 ~ 9.5	5A、5B、6A、7B、7A、8A病棟
成人クリティカルケア実習	3	8	R1. 9.24 ~ 10.4	5A、6B、2A病棟、手術センター
		8	R1. 10.7 ~ 10.18	5A、6B、2A病棟、手術センター
		8	R1. 10.21 ~ 11.1	5A、6B、2A病棟、手術センター
		8	R2. 2.10 ~ 2.21	5A、6B、2A病棟、手術センター
成人クロニックケア実習	3	12	R1. 9.24 ~ 10.2	6A、7A病棟
		17	R2. 1.6 ~ 1.15	5B、6A、7A病棟
		11	R2. 1.20 ~ 1.29	6A、7A病棟
エンドオブライフケア実習	3	6	R1. 10.7 ~ 10.17	8B病棟
		6	R1. 11.25 ~ 12.4	8B病棟
		6	R2. 2.3 ~ 2.13	8B病棟
		5	R2. 2.17 ~ 2.26	8B病棟
統合実習	4	21	R1. 7.9 ~ 7.18	5A、5B、6A、6B、7B、8A病棟
		2	R2. 7.9 ~ 7.24	6A病棟（留年生）

聖泉大学看護学部看護学科

実習科目	学年	学生数	実習期間	実習病棟
基礎看護学実習Ⅰ	1	20	R1. 9.10 ~ 9.12	5B、6A、6B、8A病棟
		19	R1. 9.17 ~ 9.19	5B、6A、6B、8A病棟
基礎看護学実習Ⅱ	2	18	R2. 2.17 ~ 2.27	5B、6A、7B病棟
成人看護学実習（急性期）	3	6	R1. 11.6 ~ 11.20	5A、2A病棟、手術センター
		11	R1. 12.3 ~ 12.17	5A、6B、2A病棟、手術センター
		11	R2. 1.7 ~ 1.22	5A、6B、2A病棟、手術センター
成人看護学実習（慢性期）	3	21	R1. 10.8 ~ 10.23	5B、6A、7A、8A病棟
		12	R1. 11.6 ~ 11.20	5B、8A病棟
		11	R1. 12.3 ~ 12.18	5B、7A病棟
		6	R2. 1.28 ~ 2.13	8A病棟
小児看護学実習	3	6	R1. 10.16 ~ 10.24	4B病棟
		6	R1. 11.14 ~ 11.21	4B病棟
		6	R1. 11.28 ~ 12.5	4B病棟
		6	R1. 12.12 ~ 12.19	4B病棟
地域統合実習	4	2	R1. 7.8 ~ 7.11	2A病棟
		6	R1. 7.22 ~ 7.25	8B、2A病棟

滋賀県立看護専門学校

実習科目	学年	学生数	実習期間	実習病棟
小児看護学実習	3	5	R1. 5.13 ~ 5.23	4B病棟
		5	R1. 5.31 ~ 6.12	4B病棟
		6	R1. 6.20 ~ 7.2	4B病棟
		5	R1. 7.10 ~ 7.23	4B病棟
		6	R1. 9.27 ~ 10.9	4B病棟
		5	R1. 10.29 ~ 11.11	4B病棟

中学校・高校生職場体験学習

学 校	学年	学生数	実習期間	実習病棟
滋賀県内高校生	2~3	19	R1. 7.25	4B、5A、5B、6B、7A、7B、8A病棟
彦根市立中央中学校	2	4	R1. 7.4・5	4B、7A病棟
彦根市立彦根中学校	2	2	R1. 7.4・5	4B、7A病棟
彦根市立南中学校	2	2	R1. 11.14・15	7A、7B、4B病棟
彦根市立西中学校	2	3	R1. 11.14・15	7A、7B、4B病棟

リスタートナースサポート研修

	学年	人数	実習期間	実習病棟
滋賀県ナースセンター		2	R1. 10.17 ~ 10.18	5A、6B病棟、救急センター

17-6. 認定看護師活動報告

● がん化学療法看護認定看護師 木下千恵美・梶田恵子

1. 院内活動

内容	対象者	日時	担当
治療中の外見の変化が心配なとき	一般市民（病院祭り）	5. 25	木下
外来がん看護継続	外来看護師	9. 26	梶田
化学療法を受ける利用者さんへの 在宅看護のコツ	訪問看護師	11. 15	梶田
中心静脈ポート研修	クリニカルラダーレベルⅡ以上	11. 11	木下
中心静脈ポート研修	クリニカルラダーレベルⅡ以上	12. 12	梶田

2. 院外 講演・学会発表・ファシリテーター等

演題・テーマ	学会名・研究会名	会場	日時	担当
AYA 世代の抗がん薬治療	第 20 回 びわこオンコロジー ナースカンファレンス	ライズヴィル 都賀山荘	4. 21	(ファシリテータ) 木下
がん薬物療法看護	滋賀県がん看護研修 【基礎編】	彦根市立病院 講堂	7. 27	(講演) 木下
がんゲノム医療 遺伝性がん看護	第 21 回 びわこオンコロジー ナースカンファレンス	ライズヴィル 都賀山荘	11. 30	(司会) 木下
当院のがん薬物療法に関する チーム医療 ～免疫チェックポイント阻害薬に 焦点をあてて～	令和元年度 第 1 回彦根市立病院 がん医療者研修会	彦根市立病院 講堂	1. 16	(講演) 梶田

3. 院外 学会・研究会・研修参加

学会名・研究会名・研修名	会場	日時	参加者
第 17 回日本臨床腫瘍学会	京都国際会議場	7. 19 ～20	木下 梶田
滋賀県がん看護研修～応用編～	滋賀医科大学医学部附属病院	10. 20	木下
第 57 回日本癌治療学会	福岡国際会議場	10. 24 ～26	木下 梶田
アピアランスケア研修会～応用編～	国立がん研究センター中央病院	10. 27	木下
アピアランスケア研修会～基礎編～	国立がん研究センター中央病院	11. 3	梶田
第 4 回がん看護エクセレントプログラム	静岡県立静岡がんセンター	11. 4	梶田
がん免疫薬物療法マネジメントセミナー	名古屋大学医学部附属病院	1. 26	木下 梶田

第30回滋賀県がん化学療法研究会	ロイヤルオークホテル	2.1	木下 梶田
第11回滋賀県がん医療フォーラム	滋賀県立男女共同参画センター	2.8	木下 梶田

4. その他

滋賀県がん診療連携拠点協議会 研修推進部会所属：年3回の部会開催（木下）

※看護ワーキングにおいて、湖東・湖北医療圏のがん看護研修～基礎編～を
下記の通り企画・運営

	開催日時	時間	研修テーマ	担当施設
第1回	6.15（土）	10:00 ～ 12:00	がん患者の全人的理解とケア （①がん看護概論 ②がん患者の家族ケア）	市立長浜病院
第2回	6.29（土）		症状マネジメント （④がん患者の症状マネジメント）	彦根市立病院
第3回	7.13（土）		がん放射線療法 （③がん放射線療法）	市立長浜病院
第4回	7.27（土）		がん薬物療法 （②がん化学療法 ⑤がん医療と薬理）	彦根市立病院
第5回	8.24（土）		がん性疼痛マネジメント （⑥がん患者と疼痛緩和ケア）	市立長浜病院
第6回	9.7（土）		がん患者の意思決定支援 （⑧がん患者とコミュニケーション ⑨がん医療と倫理 ⑩がん患者の喪失と危機）	彦根市立病院

5. 所感

令和元年度にがん化学療法看護認定看護師は1名から2名に増加し、現在は外来の通院治療センターの専従として勤務している。当院は湖東医療圏のがん診療連携拠点病院であり、地域の中で果たす『がん診療』の役割は大きく、地域医療の発展に向けて尽力を尽くすべき立場となっている。

近年、がん薬物療法の開発は進み治療にはめざましい進歩がある。殺細胞性抗がん薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬など治療内容は多岐に渡っている。新規薬剤の作用機序・投与方法・有害事象及び症状に対する支持療法など、日々新しい情報を得ながら最先端の治療が提供できるように取り組んでいる。がん薬物療法は医師・看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー等、多職種での連携は必須である。当院で治療を受ける患者は年々増加の傾向があるため、患者主体の治療が行えるようチームとして取り組み、研鑽している毎日である。

一人一人の患者の意思を大切に、真心のこもったがん薬物療法看護が提供できるよう、今後も誠心誠意、取り組んでいく所存である。

【学術活動】

誌上発表

1. 著書

①多湖ゆかり：丸石 感染対策 NEWS

「AMR 対策アクションプラン各施設の取り組み⑦彦根市立病院での AST 活動一年目の軌跡」
2019年4月 No.2 5-8 丸石製薬株式会社

②多湖ゆかり：INFECTION CONTROL 10

「特集③ 臨床工学士の業務にあつたうまい教え方」

2019. Vol128 No.10 28-34 2019年10月発行 (株)メディカ出版

③多湖ゆかり：INFECTION CONTROL 1

「特集④ 〈透析室の看護師〉こんなに忙しいのに感染対策って本当に必要？」

2020. Vol129 No.1 31-34 2020年1月発行 (株)メディカ出版

④多湖ゆかり：感染対策 ICT ジャーナル

「Practice 場所別 画像と実践チェックリストで学ぶ『拭き掃除』ガイド ③透析室」

2020 Winter Vol.15 No.1 57-61 2020年1月発行 (株)ヴァンメディカル

2. 学会・演題発表

該当なし

3. 講演

日付	講演会名	講演内容	場所	講演者
9.9	2019年度 リスタートナースサポート研修会	「感染管理」	彦根くすのきセンター (滋賀)	谷
10.8	2019年度 介護サービス事業者等感染対策推進事業 (出前講座)	「インフルエンザ感染症の予防と対策」 「ノロウイルス感染症の要望と対策」	社会福祉法人 真寿会 特別養護老人ホーム 能登川園 (滋賀)	谷
11.22	彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 合同研修会	「感染症について」	くすのきセンター 3階会議室 (滋賀)	谷
11.29	第32回日本外科感染症学会 総会学術集会	会長企画:教育講演2 「透析医療における感染制御」	長良川国際会議場・ 都ホテル岐阜長良川 (岐阜)	多湖

4. 学会活動

日本環境感染学会 評議員 多湖ゆかり

日本環境感染学会 災害時感染制御支援チーム DICT-RM 登録

日本環境感染学会 論文査読

5. 学会座長・司会等

日付	学会・研修名	セッション名	場所	座長
2.15	第35回日本環境感染学会・学術集会	Meet the Expert25 「透析室の感染対策のポイント」透析クリニックラウンドの報告	パシフィコ横浜会議センター (神奈川)	司会 多湖

【院外諸活動】

1. 院外研修および学会参加

日付	学会・研修名	内容	場所	参加者
5. 24～ 25	日本感染管理ネットワーク 学会学術集会	感染管理は基本から ～立ち返ろう Basis、踏み出そう新たな Step～	あわぎんホール (徳島)	多湖
5. 11	滋賀県感染対策情報交換会	情報交換会	滋賀医科大学医学部 附属病院 第3会議 室 (滋賀)	谷
6. 20	近江八幡地区感染対策セミ ナー	感染症診療の原則 ～耐性菌を出さないために～ 感染症コンサルタント/米国感染症專 門医 青木 眞先生	近江八幡市立総合医 療センターよしぶえ ホール (滋賀)	堤 神田 馬場 谷
6. 22	第16回医療関連感染と消毒 のセミナー	・消毒のチェックポイント ・製品検討を含めた手指衛生遵守向上へ の取り組み ・感染対策の第三者評価 調査で透ける ICT の実力 ・医療関連感染対策 —保健所との連携はどうする?—	梅田クリスタルホー ル (大阪)	谷
6. 22	日本感染管理ベストプラク ティス “Saizen”研究会 京都ワーキンググループ 第1回	基礎講座 「感染管理ベストプラクティスの考え 方」 「感染管理の基本」 第1回 現状手順のリスク分析・解決策の検討	京都リサーチパーク 4号館 2F ルーム1 (京都)	多湖
6. 28～ 30	第64回日本透析医学会 学術集会・総会	From Japan to World, From World to Japan 腎代替療法 (Renal Replacement Therapy) は未来をめざす	パシフィコ横浜 (神奈川)	多湖
7. 12	CDI WEB シンポジウム	・「当院における CD 感染対策」 東京慈恵 会医科大学附属病院 美島 路恵先生 ・「院内感染として問題となる CDI」 東邦大学医学部微生物・感染症学講座教 授 館田 一博先生	情報センター2階 会議室2 (滋賀)	多湖 谷 馬場
9. 7	手指健康セミナー	・「手指衛生は今なお感染対策の基本な のか? 最近の様々な話題から」 森兼啓太先生 ・「バイオフィルム除去 技術」 丹生聡 ・「当院における手荒れ対策の報告～ EX-CARE を使用して」 大西尚子先生	大阪府立国際会議場 (グランキューブ) 12階 1202室 (大阪)	多湖
9. 27～ 28	第41回日本手術医学会総会	「安全と高質な医療を提供するために」 会長 坂本 篤裕	東京ドームホテル (東京)	多湖
10. 29	感染症インターネット 講演会	講演①これから微生物検査はどう変わ る? 大塚 喜人 先生 講演②抗菌薬適正使用における微生物検 査の位置づけ 長尾 美紀 先生	医療情報センター2階 研修室 (滋賀)	月野 米谷 中谷 馬場 福田 谷
11. 29 ～30	第32回日本外科感染症学会 総会学術集会	紫電一閃 ～コラボレーションで創成す る日本のエビデンス～ 会長: 三嶋 廣繁 先生	長良川国際会議場・ 都ホテル岐阜長良川 (岐阜)	多湖

日付	学会・研修名	内容	場所	参加者
12. 3	令和元年度 院内感染防止対策研修会	・「手指衛生のナッジ～「知識」と「行動」の間を埋める～」 森井 大一 先生 ・「感染対策の重要ポイント～CDC ガイドライン～」 矢野 邦男 先生	コラボしが21 3階 大会議室 (滋賀)	多湖 谷 金子
1. 15 ~ 16	令和元年 院内感染対策 ②地域の指導的立場の病院 向け講習会	・感染対策の基本 ・院内感染の経路とその対策 (1) ~ (3) ・院内感染における行政との連携 ・院内感染対策の地域連携 ・抗菌薬適正使用 ・院内感染関連微生物とその検査法 (1) ~ (2) ・院内感染法令 ・アウトブレイクとその対策	TKP ガーデンシティ 大阪リバーサイド ホテル(大阪)	谷 中谷 Ph.
2. 14 ~ 15	第 35 回日本環境感染学会総 会・学術集会	テーマ「わ」 緊急セミナー、招請講演、シンポジウム パネルディスカッション等	パシフィコ横浜 (神奈川)	多湖 谷

2. 研究会会議・研修支援・アドバイザー等

日付	研究会・研修会名	場所	参加者	参加形態
4. 27	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 第 14 回セミナー	大阪国際会議室 10 階会議室 (大阪)	多湖	ポスター発表 支援 アドバイザー
6. 22	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 京都ワーキンググループ 第 1 回ワーキンググループ 現状手順のリスク分析・解決策の検討	京都リサーチパーク 4 号館 2F ルーム 21 (京都)	多湖	アドバイザー
2. 9	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 京都ワーキンググループ 第 3 回ワーキンググループ チェックリストによる調査結果の報告と課題の検討	メルパルク京都 (京都)	多湖	アドバイザー
2. 13	第 35 回日本環境感染学会 評議員会	パシフィコ横浜会議 センター (神奈川)	多湖	会議
2. 15	透析関連感染サーベイランス研究会会議	パシフィコ横浜会議 センター (神奈川)	多湖	会議

【院内諸活動】

1. 研修講師

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
4. 1	平成 31 年度新規採用職員研修	感染対策室の紹介	平成 31 年度新規採用職員	谷
4. 3	平成 31 年度クリニカルラダー I 新人看護師技術研修 「感染管理」	院内感染防止技術	クリニカルラダーレベル I 新人 13 名、経験者 7 名、 研修医 6 名	多湖 谷 堤
4. 5	平成 31 年度クリニカルラダー I 新人看護師技術研修 「感染管理」	針の取り扱い	クリニカルラダーレベル I 新人 14 名、研修医 6 名	堤
4. 17	新入局員オリエンテーション	感染対策室の紹介	平成 31 年度新入局員	谷
4. 19	平成 31 年度クリニカルラダー II 「感染管理」	針刺し、切創、 血液体液曝露予防	クリニカルラダーレベル II 15 名	堤
5. 8	院内感染対策リンクナース会 学習会	院内感染対策の組織 標準予防策・感染経路別 予防策	リンクナース 14 名	谷 堤

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
6. 4	2019年度第1回院内感染対策セミナー「知ってほしい感染症～再確認！麻しん・風しん～」 15:00～	手指衛生を中心とした院内感染対策	全職員	堤
6. 4 6. 10 6. 11	2019年度第1回院内感染対策セミナー「知ってほしい感染症～再確認！麻しん・風しん～」 17:30～1回と15:00～2回の計3回	動画上映「子育て応援団すこやか2018知ってアクション！感染症の予防」	全職員	司会:谷
6. 10	2019年度第1回院内感染対策セミナー「知ってほしい感染症～再確認！麻しん・風しん～」 17:30～	「抗菌薬を正しく使おう」～未来の子どもたちへ我々ができるささやかなこと～	全職員	神田
6. 11	2019年度第1回院内感染対策セミナー「知ってほしい感染症～再確認！麻しん・風しん～」 17:30～	「AMR対策について」	全職員	米谷
6. 12	院内感染対策リンクナース会	針刺し、切創、血液体液曝露予防／カテーテル関連感染予防策	リンクナース 14名	堤
6. 28	令和元年度JICA保健衛生管理研修	感染対策	JICA研修参加者および同行者	谷
7. 2	令和元年度クリニカルラダーⅡ「感染管理」	感染経路別予防策(飛沫・空気・接触)講義と演習	クリニカルラダーレベルⅡ 15名	多湖 谷 堤
7. 4	令和元年度 前期彦根市中学生チャレンジウィーク職場体験学習プログラム	感染対策室の紹介、演習	彦根市内の中学生 6名	谷
7. 10	院内感染対策リンクナース会	医療従事者のワクチン接種(B肝・麻疹・風疹・水痘・ムンプス)	リンクナース 14名、 県立大学看護学生 4名	堤
10. 1	2019年度「感染対策のいろは」看護補助者・MH・クラーク研修	院内感染対策の基礎の復習	看護補助者 5名 MH 2名 クラーク 2名	多湖 谷
9. 11	院内感染対策リンクナース会	インフルエンザについて	リンクナース	谷
10. 17	彦根市立病院リスタートナース研修	感染管理(手洗い・PPE・消毒)	リスタートナース 研修受講者 2名	谷
11. 13	院内感染対策リンクナース会	ノロウイルス対策について	リンクナース	谷
11. 15	令和元年度 後期チャレンジウィーク職場体験学習プログラム	感染対策実践	彦根市立西中学校と南中学校の中学生 計5名	谷
11. 29	2019年度第2回院内感染対策セミナー「見直そう！きれいな手と療養環境」 15:00～	やっぱり基本が大事！手洗い&クイズにチャレンジ！	全職員	谷 リンク ナース
12. 2	2019年度第2回院内感染対策セミナー「見直そう！きれいな手と療養環境」 17:30～	特別講演「安全で衛生的な環境を保つために」 山陽小野田市立山口東京理科大学 尾家 重治 先生	全職員	司会:谷

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
12.4 12.5 12.9	2019年度第2回院内感染対策 セミナー「見直そう！きれいな手 と療養環境」 12.4 11:30～ 12.5 15:00～・17:30～ 12.9 15:00～の計4回	特別講演 DVD 上映会	全職員	司会:谷
12.9	2019年度第2回院内感染対策 セミナー「見直そう！きれいな手 と療養環境」 17:30～	「知ってほしい血液培養 検査とその取り方」	全職員	谷 福田 (臨床 検査科)
1.8	院内感染対策リンクナース会	医療関連感染対策について	リンクナース	谷
3.6	消防職員専科教育科に係る 病院実習	感染防止について	消防職員 8名	多湖 谷
3.11	院内感染対策リンクナース会	活動報告会	リンクナース	多湖 谷

2. 研修 (院外講師)

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
12.2	2019年度第2回院内感染 対策セミナー(尾家先生) 院外講師招聘講演会 17:30 開催	特別講演 「安全で衛生的な環境を保つ ために」	全職員	山陽小野田市立山口東京 理科大学 薬剤部 薬学科 客員教授 尾家重治 先生
12.4 12.5 12.9	2019年度第2回院内感染 対策セミナー 院外講師招聘講演会 12.4 11:30～ 12.5 15:00～・17:30～12.9 15:00～の計4回	特別講演 「安全で衛生的な環境を保つ ために」	全職員	

(3) 感染管理に関するコンサルテーション集計

■多湖ゆかり

	院内			院外	合計
	看護師	医師	その他		
4月	2	0	1	0	3
5月	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0
8月	2	0	0	1	3
9月	1	0	1	0	2
10月	0	0	0	0	0
11月	3	0	0	1	4
12月	2	0	0	0	2
1月	4	2	4	0	10
2月	1	0	0	1	2
3月	0	0	0	0	0

■谷久弥

	院内			院外	合計
	看護師	医師	その他		
4月	19	5	2	3	29
5月	20	4	8	2	34
6月	15	2	4	3	24
7月	11	1	6	1	19
8月	11	1	3	2	17
9月	8	0	3	1	12
10月	13	1	6	0	20
11月	16	1	5	0	22
12月	22	1	3	1	27
1月	8	3	2	0	13
2月	6	3	6	2	17
3月	13	5	5	1	24

● 緩和ケア認定看護師活動報告書 秋宗 美紀

1. がん看護委員会活動

令和元年5月～令和2年3月まで 第4月曜日 15時～16時開催

- 1) STAS-J 評価率および介入率は、各部署平均 95%以上を達成できた
- 2) 緩和ケア症状コントロールマニュアルのブラッシュアップを実施

2. 院外研修、学会、講義、会議

研修・学会・講義・会議	会場	参加形態	活動年月日
緩和ケア特別講義	滋賀県立大学	講師	5.13
リスタートナースサポート研修	滋賀県看護協会	講師	5.31
日本緩和医療学会学術大会	パシフィコ横浜	一般参加	6.2～6.23
滋賀県がん診療連携協議会 がん看護研修<基礎編>	当院講堂	講師	6.29
日本ホスピス緩和ケア協会 年次大会	東京ビックサイト	一般参加	7.1～7.14
滋賀県がん診療連携協議会 緩和ケア推進部会	滋賀県立総合病院	部会員	7.18
滋賀県立大学人間看護学部 2019年度専門講座	滋賀県立大学	一般参加	8.22
滋賀県緩和ケアチーム研修会	市立長浜病院	一般参加	9.7
リスタートナースサポート研修	くすのきセンター	講師	9.13
世界ホスピスデー記念県民公開講座	彦根市文化プラザ	司会	9.22
2019年度アピランスケア応用編	国立がんセンター	一般参加	10.27
日本死の臨床研究会年次大会	神戸国際展示場	座長	11.3、4
日本ホスピス緩和ケア協会近畿支部大会	新大阪丸ビル	副会長 座長	11.17
基礎看護論Ⅱ授業	聖泉大学	講師	11.25
令和元年度緩和ケア病棟意見交換会、 滋賀県がん診療連携協議会 緩和ケア推進部会	滋賀県立総合病院	一般参加 部会員	11.28
緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020		査読委員	12.1～
滋賀県看護学会	ピアザ淡海	一般参加	12.5
リスタートナースサポート研修	滋賀県看護協会	講師	1.17

3. その他

内容	相談者	件数
患者・家族に関する指導、相談 (病棟内)	看護師	172件
〃 (病棟外)	看護師	40件
症状コントロールに関する相談 (院内全体)	医師	24件
緩和ケア病棟転棟に関する相談 (院内全体)	医師	156件
	看護師	31件
	MSW	42件

<所感>

緩和ケア病棟での勤務が2年となり、カンファレンス時の助言や、ケアの根拠を明確にした指導を心がけることで、前年度と比較するとスタッフの学習意欲が向上し、緩和ケアへの関心を高めることができた。しかし一方で、薬物療法に偏ったアプローチが目立ち、緩和ケアに本来必要なケアリングの姿勢が、病棟に不足していたことを反省する。看護の基本やエビデンスをしっかりと捉えたうえで、個々の患者・家族のニーズに応じた創意工夫のある、柔軟なケアの実践に結びつけられるよう、役割モデルとして示していきたいと思う。

今年度は滋賀県の緩和ケア推進部会員として、緩和ケアを専門とする他施設の方々と、より一層情報交換や研修企画をする機会があり、新たな視点や斬新な発想など多くの刺激を受けた。今後も施設内に留まらず、人間力豊かな方々と繋がり、そこでの学びを自施設に反映できるよう意識を高く持っていたい。

● 緩和ケア認定看護師活動報告 森口 朋子

1. 院内活動

日付	内容	対象者
4. 22	ACP 説明会	医師
5. 23	看護部倫理委員会 ACP 学習会講師	看護部倫理委員会役員
5. 25	ふれあいまつり がん相談・アピアランスケア	彦根市民
6. 4	6B 病棟 ACP 学習会 講師	6B 看護師
6. 14	7A 病棟 ACP 学習会 講師	7A 看護師
7. 13	管理者研修 ACP 研修 講師	看護部管理者
7. 18	滋賀県立大学統合実習 同行見学	滋賀県立大学看護学生
8. 9	彦根市立病院 倫理研修会 ACP	彦根市立病院職員
9. 14	がん看護研修(基礎編) 「がん患者の意思決定支援」	院内看護師、滋賀県内の医療機関に従事する、 がん看護に携わる看護職
11. 27	新人看護師研修「終末期看護」講師	新人看護師

2. 院外活動

日付	内容	参加形態	会場
6. 8、9	日本看護倫理学会	一般参加	大阪市中央公会堂
6. 20	第 27 回緩和医療学会教育セミナー	一般参加	パシフィコ横浜
6. 21、22	第 24 回日本緩和医療学会	一般参加	パシフィコ横浜
6. 24	聖泉大学講義 「緩和ケア」～あなたに会えて良かったと言っただけのように～	講師	聖泉大学
6. 24	聖泉大学講義 「癒しにつながる代替療法」	講師	聖泉大学
6. 27、28	がん相談支援センター指導者研修	がん専門 相談員参加	国立がん研究 センター
6. 29	看護協会第 5 地区集会	役員 副支部長	くすのきセンター
7. 27	滋賀県がん診療連携協議会 がん看護研修	司会・ファシ リテーター	彦根市立病院
9. 7	第 3 回滋賀県緩和ケアチーム研修会	一般参加	市立長浜病院
9. 14	滋賀県がん診療連携協議会 がん看護研修 「がん患者の意思決定支援」	講師	彦根市立病院
9. 22	世界ホスピス緩和ケアデー記念 県民公開講座 「緩和ケアと尊厳死を考える～人間らしく、自分らしく最期を迎えるために～」	運営スタッフ	ひこね市文化 プラザ エコーホール
10. 17	学校保健安全研究会 「家族ががんになったときの子どもの支援」	講師	彦根市教職員
11. 8	第 1 回がん相談支援センター相談員 研修会～QA 研修～	企画・運営・ ファシリ テーター	滋賀県立総合病院
11. 14	看護職のつどい	役員 副支部長	くすのきセンター
11. 14	ことう地域チームケア研究会	一般参加	くすのきセンター

日付	内容	参加形態	会場
11.16	滋賀県看護協会訪問看護師 看護実践力向上研修～ターミナルステージに ある利用者の意思決定支援～	講師	竜王 弓削メディカル クリニック
11.21、 22	がん相談支援センター指導者研修	がん専門 相談員参加	国立がん研究 センター
11.24、 12.1	滋賀県がん診療連携協議会緩和ケア推進部会 主催 ELNEC-J 研修「M10. 質の高いエンド・オブ・ ライフケアの達成」	講師 ファシリ テーター	彦根市立病院
12.13	がん教育 「がんの授業」 「みなさんへお伝えしたいこと」	講師	彦根市立 中央中学校
1.10	がん教育 「がんの授業」 「みなさんへお伝えしたいこと」	講師	愛荘町立 愛知中学校
1.16	がん医療者研修	司会	彦根市立病院
1.24	滋賀県看護協会 「意思決定支援プロセス支援と アドバンスケアプランニングの重要性」	ファシリ テーター	滋賀県看護協会 看護研修センター
1.30	看護管理者として備えておくべき専門職倫理～ 立ち止まり、選択を意識し、物語を共に紡ぐ～	一般参加	ピアザ淡海
2.1	滋賀県看護協会第5地区 全世代型地域包括ケア推進フォーラム 「がん相談支援センターの取り組み」	演者	くすのきセンター
2.8	滋賀県がん医療フォーラム がんと診断されてからの暮らし	一般参加	滋賀県立男女共同 参画センター
2.13	がん医療者研修	司会	彦根市立病院
2.29	第2回がん相談支援センター相談員 研修会～相談支援におけるアドバンスケア プランニング～	企画・運営・ ファシリ テーター	滋賀県立総合病院

3. その他

相談状況（2019.4月～2020.3月） 電話 382件 面談 650件 メール 12件

相談内容（複数選択可）

症状・副作用・後遺症	510	補完代替療法	32
不安・精神的苦痛	606	社会生活（仕事・就労・学業）	49
ホスピス・緩和ケア	444	がんの検査	3
がんの治療	192	臨床試験・先進医療	19
受診方法・入院	267	患者会・家族会（ピア情報）	11
生きがい・価値観	171	友人・知人・職場の人間関係・ コミュニケーション	5
医療者との関係・コミュニケーション	132	医療機関の紹介	7
在宅医療	136	治療実績	10
告知	88	セカンドオピニオン（一般）	29
介護・看護・養育	71	その他（アピアランスケアなど）	7
医療費・生活費・社会保障制度	87	セカンドオピニオン（他へ紹介）	5
患者-家族間の関係・コミュニケーション	106	セカンドオピニオン（受入）	1
転院	67	がん予防・検診	1
食事・服薬・入浴・運動・外出など	48	不明	0

4. 所感

平成 30 年度より、緩和ケアチーム専従、がん相談支援センターのがん専門相談員になり、院内外を問わず、がん患者や家族、スタッフの相談にのり、丁寧な対応を心掛け、がん患者が満足した療養生活を送れることを目標として活動している。また、今年度より 2 年間に渡り、看護協会第 5 地区副支部長となり、フォーラムでがん相談支援センターの取り組みについて話し、彦根市立病院のがん相談支援センターを地域医療者へも広めるように活動した。今年度よりがん教育を始めるにあたり、彦根市教職員へ向けて学校保健安全研究会で「家族ががんになったときの子どもの支援」について話し、その後 2 つの中学校に対してがん教育を行った。

滋賀産業保健センターと協働し「治療と仕事との両立に関する個別相談会」も開催し、がん患者が安心して仕事も両立できるように支援をしているが件数が少ないのが課題である。

大学へも出向き、緩和ケア普及のため未来の看護師に向けての講義を行い、ELNEC - J 指導者として、滋賀県看護師に対し、研修を通して、後進の育成にも力を入れた。院内の臨床倫理委員、看護倫理委員会の担当にもなり、ACP の導入に向けて研修会を行い活動した。次年度は ACP が広まるよう取り組み、患者や家族の意思決定支援ができるよう取り組んでいきたい。

● 救急看護認定看護師活動報告 藤川真人

I. 学術活動

院内研究発表

	演題	発表年月
共同演者	外科手術後急性期における NEWS の断続的評価の有効性 -スタッフの急変早期対応の行動変化につながるか-	2. 28

その他の学術活動

活動内容	活動場所	活動年月日
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 第 209 回 JNTEC プロバイダーコース インストラクター	大阪赤十字 看護専門学校	4. 13、14
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 第 213 回 JNTEC プロバイダーコース インストラクター	吉田学園医療歯科 専門学校	6. 22、23
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 第 225 回 JNTEC プロバイダーコース コースコーディネーター	滋賀ニプロ iMEP	2. 15、16
一般社団法人 日本救急看護学会 主催 JNTEC インストラクターブラッシュアップセミナー インストラクター	幕張メッセ	10. 3
公益社団法人 滋賀県看護協会 2019 年度生涯教育 「明日からもれなくチェックしよう！ すぐに生かせるフィジカルアセスメント～」	公益社団法人 滋賀県看護協会	11. 28、29
第 20 回日本救急看護学会学術集会参加	幕張メッセ	10. 4、5
城西学区 PTA 対象救急蘇生法 講師	城西小学校	7. 6
令和元年度全国救護活動研究会 総会・コアメンバー会議	国立オリンピック記念 青少年総合センター 東京都	9. 12
全国救護活動研究会 第 53 回 CSRМ ベーシックコース スタッフ・小隊付サポート参加	兵庫県広域防災 センター	9. 7、8
全国救護活動研究会 第 59 回 CSRМ スタッフコース スタッフ(ロジスティック)参加	兵庫県広域防災 センター	2. 25
International Trauma Life Support Access course Ibaraki Access Course	ひたちなか・東海広域 事務組合消防本部 東海消防署	10. 26、27

II. 院内諸活動

1. 院内講義・研修担当

院内研修

内容：令和元年度 クリニカルラダーレベルⅠ フィジカルアセスメント

日付	内容
5.13	フィジカルアセスメントⅠ(呼吸) ファシリテーター
6月	フィジカルアセスメントⅡ(循環) ファシリテーター
10.4	フィジカルアセスメントⅢ(中枢神経系) 講義担当
12.7	フィジカルアセスメントⅣ

内容：令和元年度 クリニカルラダーレベルⅡ フィジカルアセスメント

日付	内容
9.14、15	フィジカルアセスメント(呼吸・循環) ファシリテーター・講義担当
11.14、15	フィジカルアセスメント(統合) 講義・シミュレーション進行

その他

- ・救急看護認定看護師 認定更新
- ・日本救急看護学会 外傷看護委員会 JNTEC コース ブースリーダー/ブースサブリーダー
- ・全国救護活動研究会 コアメンバー CSR委員会 委員

所管

今年度も救急看護認定看護師として、一般病棟で活動を行った。以前から取り組んでいるRRSでの活動を、病棟で活かすために、今年度は院内研究及びリスクマネージャーを通してNEWSの活用を病棟で行った。所属病棟におけるNEWSの定着と活用に寄与できたと考える。

一方RSTに関しては、RSTとして実際活動できる認定看護師が私一人となったため、活動を収縮せざるを得ない状況であった。

そのような中でも、一般病棟において人工呼吸器関連の大きなインシデントを起こさず取り組めたと考えられる。ただし、ラウンド回数の減少や質の低下は現実として否めない。しかし今年度は、次年度に向けて、後輩育成を実施しながらラウンドでき、このことは継続性のあるチーム医療の実践に繋げるかかわりができたと考えられる。

またサブスペシャリティとして取り組んでいるプレホスピタル(ITLS Access Course)、CSRを中心とした災害医療に関しては病棟業務、科長補佐業務を優先したため活動が不十分なままとなってしまう。今後、救急看護認定看護師としていかに活動するか、病院として救急看護認定看護師に何を求めているか、明らかにしていく必要があると考えられる。JNTEC(Japan Nursing for Trauma Evaluation and Care)に関しては、コアインストラクターとしての活動の他にブースリーダー/サブリーダーとして再任されたため、コースにおける質の管理への活動を継続することができた。

1. 院外教育活動（学会・研修会参加）

日付	内容	会場
6. 1	周術期管理チームセミナー	神戸ポートピアホテル
6. 29	近畿地区日本手術看護学会	奈良春日野国際フォーラム
9. 27、28	日本手術医学会	東京ドームホテル
10. 11、12	日本手術看護学会	岡山コンベンションセンター
1. 25	周術期セミナー	京都メルパルク
2. 14、15	日本環境感染学会	神戸ポートピアホテル

2. 院外教育活動（学会発表）

日付	内容	場所
12. 7	京滋ブロック 術前・術中・術後 教育セミナー	京都府立大学病院

3. 所感

2019年3月より病棟勤務となり1年が経過した。術前からの患者との関わりや、安全に手術を進行出来るような計画、また手術中の状態を踏まえた上での術後看護など、患者を中心とした周術期看護が実施出来るよう、病棟看護師などと連携を図ることが求められている。

自己の看護力を伸ばす以外にも手術看護の専門性を追求し、熟達した実践・指導・相談の役割を遂行し、手術看護の発展に寄与するために日々活動が必要である。

手術看護の専門性を発揮し、病棟看護師と手術看護師との連携による手術看護への心理的支援、救急事態への対応と患者の生命維持、手術看護の質の向上のために自己研鑽に努めたり、チーム医療の一員としてチームワークの促進に努めることと考えている。術前からの患者との関わりや、安全に手術を進行できるような綿密な計画、また、手術中の状態を踏まえた上での術後看護など患者を中心とした周術期看護が実施できるよう、病棟看護師との連携を図れる活動も大切になってくる。他職種の方々と協力をしながら、よりよい手術医療が実践できるようにしていくことが必要である。継続した看護のためにも病棟看護師との情報共有は重要であり、どのような情報がほしいのか、なぜこの情報を伝えたいのかを検討し、得られた情報に対して効果的に看護が実践できるような共通認識をもつことが必要である。

手術は医師、看護師、臨床工学技士を含めた様々な分野の専門職によるチーム医療によって成り立っている。手術室看護師、病棟看護師、医師、コメディカルとの懸け橋となり、よりよい周術期看護を提供することや、手術看護の発展に携わっていく。

● 乳がん看護認定看護師活動報告 永山 タ水

1. 院内

日時	内容	対象者
6.27	乳がん術後下着相談会 *3月予定は COVID-19 感染拡大で中止連絡	当院通院中の乳がん患者さん

2. がん看護研修（滋賀県がん診療連携協議会主催）湖東地域

日時	内容	対象者
9.14	がん患者の意思決定支援	滋賀県内の医療機関に従事する、がん看護に携わる看護職

3. 院外研修・学会参加

日時	研修会	会場
6.21 6.28	滋賀県立総合保健専門学校 講義	滋賀県立総合保健専門学校
7.11 7.12 7.13	第27回日本乳がん学術総会	京王プラザホテル
9.21	がん患者のアピアランスケア 講義	滋賀県看護協会
9.21	乳がん検診（ピンクリボン京都） 乳がん検診補助	京都先端科学大学 京都太秦キャンパス
11.8	Meet the Expertin 北びわこ 「がん患者さんの地域連携」講演	北ビワコホテルグライツィエ
11.30	第1回近畿BCN研究会 事例検討会(BRCA1陽性乳がん患者への関わり方)	神戸市立勤労会館

4. 所感

乳がん治療において、手術・放射線治療・薬物治療（化学療法薬、内分泌療法薬、分子標的治療薬）などがある。薬物治療においては、進行・再発乳がんの場合、BRCA 遺伝子変異陽性患者さんに使用できる PARP 阻害剤が保険適応になり、遺伝カウンセリングの必要性や治療選択の機会が増え、意思決定に困難を抱える場合もある。遺伝子検査では家族へ及ぼす影響もあり、本人だけでなく家族へのサポートも正しい知識で関わる必要がある。乳がん罹患者は、女性が多く若年で発症することもあり、病気や治療の副作用に加え、就労、経済的な問題、家庭や育児、介護、妊娠、出産、手術後の乳房再建など、身体に関するだけでなく精神的な不安も抱える。治療選択に関わる意思決定支援や、治療と生活の両立ができるよう問題ごとに多職種と連携し、安心して当院で治療ができるようチーム医療に努める。

● 皮膚・排泄ケア認定看護師活動報告：北川智美・西村紀子・馬場由香子・木俣美津子

I. 学術活動

1. 学会発表

発表者名	演題	学会名	会場	日付
木俣美津子	排尿ケアチームの皮膚・排泄ケア認定看護師と多職種との連携夜間頻尿で睡眠障害のある患者へのケア	第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会	なら100年会館	5.25
北川智美	シンポジウム WOC 外来の展望 病院と地域を結ぶ 外来の機能を考える ～地域から必要とされる外来に 褥瘡専門外来の10年の振り返りとこれから～	第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会	なら100年会館	5.25
木俣美津子	地域包括ケア病棟における褥瘡対策に関連した在宅療養支援	第21回日本褥瘡学会学術集会	京都国際会館	8.24
馬場由香子	ICUにおける各種プロトコール導入と褥瘡発生件数の推移	第21回日本褥瘡学会学術集会	京都国際会館	8.24
北川智美	シンポジウム 在宅における褥瘡栄養管理の実際と課題～他職種とどう連携するか？～褥瘡外来からみた在宅栄養の実態 出来てしまったものは仕方ない！ どう治すか～	第21回日本褥瘡学会学術集会	京都国際会館	8.24
北川智美	シンポジウム 特定行為研修を活用した看護師の褥瘡管理の役割拡大 在宅褥瘡における特定行為研修の活用の実際	第21回日本褥瘡学会学術集会	京都国際会館	8.24
西村紀子	認定看護師が描く 自己のキャリア発達	第23回日本看護管理学会学術集会	朱鷺メッセ	8.2

2. 講演

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
木俣美津子	褥瘡ケアについて	滋賀県看護協会 リスタートナース 研修	滋賀県看護協会	5. 21
北川智美 木俣美津子	なぜ？が説明できる スキンケア	福祉施設研修	高齢者福祉施設 水茎の里	9. 25
西村紀子 木俣美津子	床ずれ防止関連用具	滋賀県福祉用具 プランナー研修	滋賀県立長寿社会 福祉センター	11. 27
西村紀子	フットケアをはじめよう 褥瘡ケアを見直そう ストーマケアを知ろう	3 病院合同 医療者研修会	彦根市立病院 長浜赤十字病院 市立長浜病院	11. 3 12. 8 1. 26
西村紀子	ストーマケアの実際	オストメイト 体験交流会	彦根勤労福祉会館	12. 7
西村紀子	褥瘡予防・治療のための 福祉用具の活用と スキンケアの基礎知識	湖東地域 多職種情報交換会	くすのきセンター	2. 14

II. 院内諸活動

1. 褥瘡管理

- 専従の褥瘡管理者による褥瘡発生のリスクが高い患者に対する予防ケアを推進するための回診を実施。
- 既に褥瘡を有する患者に対しては、褥瘡対策チーム（専任医師・専任看護師・専従の褥瘡管理者）と褥瘡・創傷対策部会のメンバー（管理栄養士・理学療法士・薬剤師）による褥瘡回診を毎週 1 回実施し、局所管理方法だけでなく、排泄ケアも含めたケア方法の検討、栄養状態を始めとした全身状態の把握と調整を行っている。

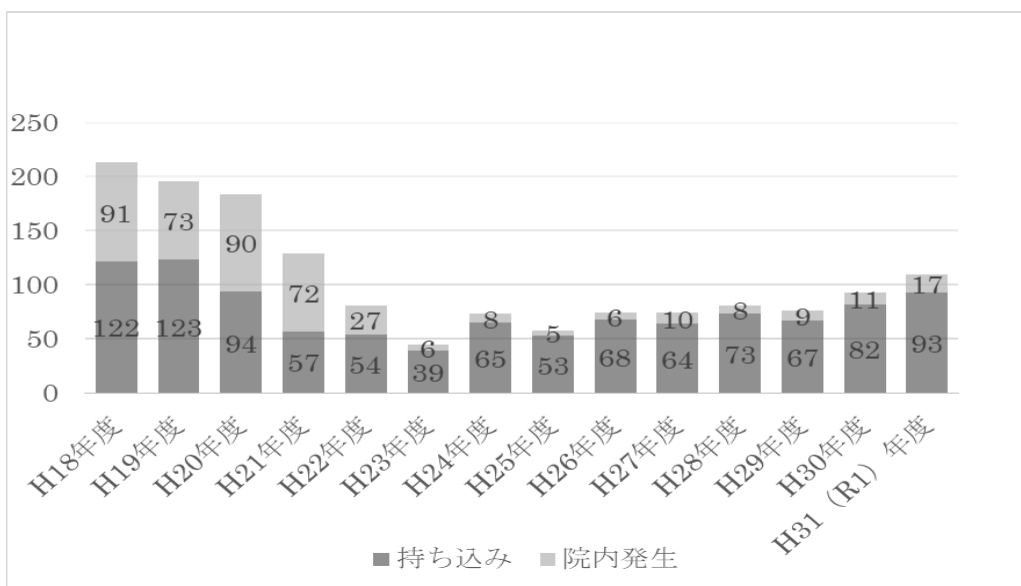


図 1：持ち込み褥瘡と院内発生の推移

表1：褥瘡ハイリスクケア加算算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
算定件数	86	81	77	90	80	83	83	78	75	82	78	86	979

2. 排尿ケアチームの活動

- 毎月1回排尿ケアチームのメンバー（専任の泌尿器科医1名・専任の看護師4名・専任の作業療法士2名）によるカンファレンスを実施し、排尿自立に向けた包括的ケアプランの検討や評価を実施。

表2：排尿自立指導料算定患者数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者数	24	18	22	21	17	19	19	20	21	28	14	22	245
算定件数	40	24	30	28	23	30	30	24	24	38	14	23	328

3. スキンケアリンクナース会の運営

	主な活動内容	スキンケア通信
4月	院内の褥瘡発生状況の動向と対策について 褥瘡関連評価の目的と運用の再周知	院内の褥瘡発生の要因と対策について
5月	グループ活動（褥瘡予防・排泄ケア・ フットケア）の開始 体圧分散マットレス調査の実施	下肢の褥瘡予防について 褥瘡予防のためのスキンケアについて
6月	医療関連機器圧迫創傷の発生状況と対策に ついて 簡潔式自己導尿用のカテーテルの種類と 特徴について	ポジショニングの基礎知識について 高機能エアマットの特徴と適応
7月	院内褥瘡発生の要因の検討（6件） 創傷被覆材の特徴と適応について	弾性ストッキングの製品変更と履かせ方 のポイントについて
8月	医療関連機器圧迫創傷の発生概念図の共有 適切な排便管理について	褥瘡発生要因について 除圧グローブを用いた体位変換について
9月	ポリウレタンフォーム材を用いた褥瘡予防 について 除圧グローブを用いた体位変換の実施状況 の共有と実施時のポイント	NPPV マスク装着中とギプス・シャーレを 使用中の医療関連機器圧迫創傷の予防ケ アについて
10月	褥瘡発生状況と予防ケアについて 除圧グローブを用いた体位変換の演習	I度褥瘡発生時の対処方法について ポリウレタンフォーム材を用いた褥瘡予 防について

11月	体圧分散マットレスの種類と適応について 下部尿路機能障害治療薬と下部尿路機能障害を起こしやすい薬剤について	除圧グローブの使用状況 スライディングシートの活用について
12月	スキントラブル発生状況の共有 体圧分散マットレス調査の実施 中等度リスク対応の体圧分散マットレスの入れ替え	外用薬の基材の違いについて 外用剤による皮膚障害の発生とケアについて
1月	フットケアに関するスキンケアマニュアルの作成と周知 スライディングシートを用いた体位変換の演習（OT 小谷氏に講師依頼）	スライディングシートの活用とポイント
2月	下肢の褥瘡予防ケア実施状況調査	弾性ストッキング装着中に発生する医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）の予防について
3月	活動の振り返りと次年度の課題の抽出 標準マットレスの入れ替え（75枚）	除圧グローブの活用状況について 除圧グローブ活用による褥瘡予防・費用対効果について

4. 院内の看護職を対象とした教育活動

開催年月	研修内容	対象者
4.8	スキンケアの基礎知識	レベル I
6.3	ポジショニングと排泄ケアの基礎知識と技術演習	レベル I

1. 7B病棟教育活動（7B病棟スタッフ対象）

日付	内容	講師
6. 19	心臓リハビリテーション	藤井淑子（理学療法士）
7. 30	THA と脱臼について	角田恒（医師）
8. 28	事例検討会	地域多職種、病院スタッフ
10. 2、3、4	在宅・施設サービス	伊部恵美子
10. 21	せん妄時に使用する薬剤	中谷茉佑香（薬剤師）
10. 30	ストマ講習会の伝達講習	菅原さとみ
11. 15	排泄のあれこれ	木俣美津子
1. 16	糖尿病 伝達講習	阪江舞
1. 31	心不全について	宮澤豪（医師）
2. 12	退院支援・退院調整	田中久美子（MSW）
2. 27	心不全の退院指導	高橋鮎子、阪江舞

院内研修

日付	内容	講師
9. 10	地域包括ケア病棟からみた訪問看護 （訪問看護ステーション）	伊部恵美子

2. 院外講演・研修

日付	内容	場所（対象者）
7. 31	「在宅の看護過程」研修 ファシリテーター	滋賀県看護協会
9. 7 11. 16	訪問看護師実践力向上研修会 ～圏域毎事例検討会～ ターミナルステージにある利用者の意思決定支援	甲賀病院 弓削メディカルクリニック 訪問看護に関わる看護師
12. 7、8	日本在宅看護学会学術集会 訪問看護師の看護実践力向上を目的とした研修会 の成果 共同研究者	東京都看護協会

3. 院外研修・学会参加

日付	内容	場所
5. 25	臨床推論に基づくフィジカルアセスメント	大阪コロナホテル別館 1階
5. 26	認知症ケア学会	国立京都国際会館
11. 9	金沢家族研究会	金沢大学保健学系キャンパス
1. 11	認知症・せん妄の看護	愛知県 吹上ホール
1. 12	認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会	ピアザ淡海
1. 25	在宅でのリスクマネジメント “災害といのち” について	すみよし隣保館 寿
2. 17	「不安・不穏」に対する看護の力	大阪産業創造館

4. 所感

2015年7月に訪問看護認定看護師資格を取得し、訪問看護ステーションに勤務。2019年2月に地域包括ケア病棟に勤務異動となった。地域包括ケア病棟では、入院治療を終え、自宅退院に向けた支援を患者、家族と共に行う。在宅サービスの調整を医療ソーシャルワーカーと共に地域ケアマネジャーと連携・相談し、安心して退院し自宅療養ができるように支援している。患者の疾患はさまざまであり、広い医療的知識が求められる。地域包括ケア病棟での看護の質向上を図るため、学習会を計画・実施した。地域包括ケア病棟看護師も退院支援を行うための知識を持ち、退院支援に向けての疑問等があれば活発にカンファレンスが行えるように変化している。今後はカンファレンスがさらに深められるように関わっていきたいと考える。

I. 学術活動

1. 学会発表

日付	内容	会場名
5. 25、26	第 20 回日本認知症ケア学会大会 口頭発表 「急性期病院における認知症高齢者の薬剤調整の実際」 ～認知症ケアチームでの取り組み～	国立京都国際会館(京都市)
1. 12	第 5 回認知症にかかる医療と介護の滋賀大会 ポスター発表 「急性期病院における認知症高齢者の薬剤調整の実際」 ～認知症ケアチームでの取り組み～	ピアザ淡海(大津市)

2. 学会・研究会参加

日付	学会・研究会・研修名	会場名
5. 25、26	第 20 回日本認知症ケア学会大会	国立京都国際会館(京都市)
6. 1	第 6 回日本 CNS 看護学会	ウイंक愛知(名古屋市)
6. 6～6. 8	日本老年看護学会 第 24 回学術集会	仙台国際センター(仙台市)
5. 23	医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 第 74 回ワーキンググループ会議 「認知症高齢者の排泄行動とそのケア」	ひこね燦パレス(彦根市)
6. 20	第 15 回彦根認知症ケア・ネットワークを考える会 「認知症ケアにおけるこれからの急性期病院の役割」	くすのきセンター(彦根市)
7. 19	POS 研究会 「急性期病院における認知症ケアチームの活動の実際」	くすのきセンター(彦根市)
9. 8	第 12 回関西 GCNS 事例検討会	神戸市立医療センター 西市民病院(神戸市)
10. 24	第 38 回東近江認知症ケア・ネットワークを考える会 「認知症合併てんかんの診療について」	東近江総合医療センター (東近江市)
11. 28	Sleep Management Seminar 「入院患者における睡眠トータルケア」	クサツエストピアホテル (草津市)
2. 1	第 13 回関西 GCNS 事例検討会	JCHO 大阪病院(大阪市)

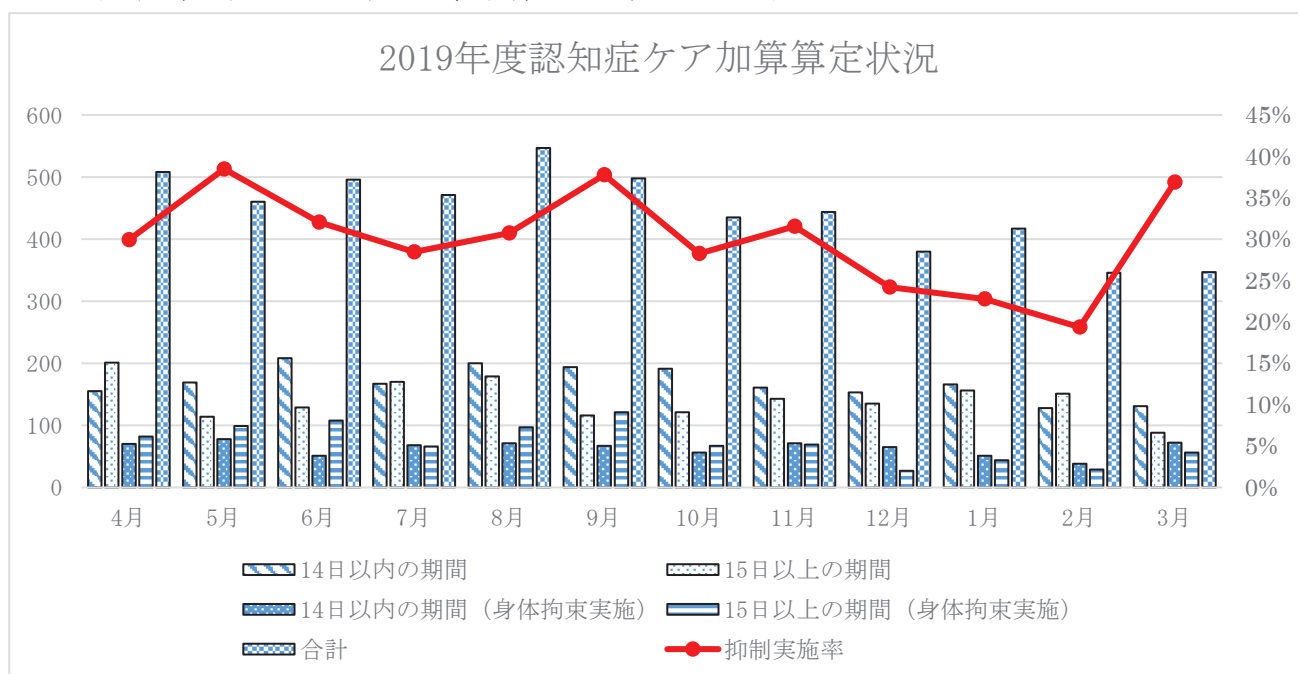
3. 院外研修講師・ファシリテータ

日付	内容・テーマ	会場名
5.23	医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 第74回ワーキンググループ会議 「認知症高齢者の排泄行動とそのケア」	ひこね燦パレス(彦根市)
6.20	第15回彦根認知症ケア・ネットワークを考える会 「認知症ケアにおけるこれからの急性期病院の役割」	くすのきセンター(彦根市)
7.19	POS 研究会 「急性期病院における認知症ケアチームの活動の実際」	くすのきセンター(彦根市)

II. 院内諸活動

1. 認知症ケアチーム活動

- ・週1回(火曜日)チームラウンド、病棟カンファレンスの実施



- ・認知症ケアチーム運営委員会開催

2019. 11. 14 図書室

- ・認知症ケアチーム定期会議開催

日付 / 開催場所	日付 / 開催場所
第1回 6.20 図書室	第3回 12.19 3-1 会議室
第2回 9.19 3-1 会議室	第4回 3.5 3-1 会議室

- ・院内デイケアの開催

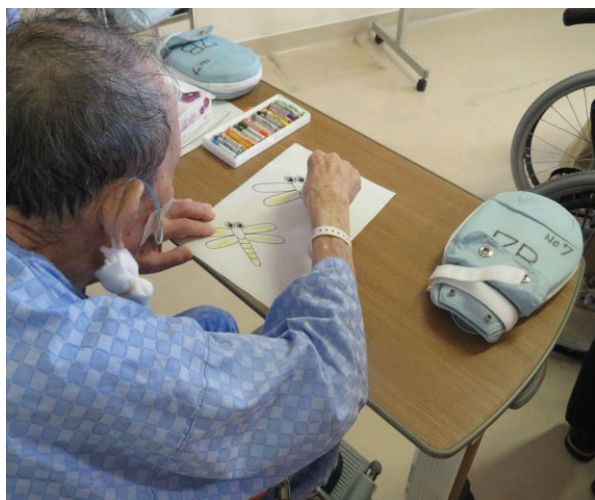
週1回(水曜日) 15時~16時30分

1回につき約10名前後の患者が参加

参加中、つなぎ服以外の抑制ははずし、急性期病院であっても患者が自分らしく穏やかに過ごせることを重視し、その環境を提供

看護師、作業療法士、約3~4名のボランティアで実施

開催期間	参加者	内容
4.3～2.19 (37回)	男性：147名 女性：318名 合計：465名	<ul style="list-style-type: none"> ・リアリティオリエンテーション ・歌(季節の歌) ・体操(OTにより実施) ・ゲーム(宝釣り、的狙い、ジェンガ等) ・創作(カレンダー作り、壁画作り、はがき作り、ぬりえ など) ・落語 ・演奏会(ハーモニカ、オカリナ) ・ボランティアさんからの出し物 ・季節の行事(七夕会、夏祭り、クリスマス会、新年会)



2. 認知症ケアリンクナース会の運営

2019年度より発足し、14部署よりリンクナースを選出。5月より毎月1回リンクナース会を開催し、学習会、事例検討、各活動の実施、成果発表会等を行った。

日付	内容	開催場所
第1回 5.9	目標、年間目標、活動内容、認知症ケア加算の説明	3-1 会議室
第2回 6.5	学習会「認知症の基礎知識」	3-1 会議室
第3回 7.4	学習会「認知症の薬物療法」	講堂
第4回 8.1	学習会「認知症のアセスメント」	3-1 会議室
第5回 9.5	GW「認知症ケアにおける部署での困りごと」	3-2 会議室
第6回 10.3	学習会「認知症の基礎知識・追加」 事例検討 GW	3-2 会議室
第7回 11.7	DVD鑑賞	3-2 会議室
第8回 12.5	事例検討 GW	情報センター2階
第9回 1.9	事例検討 GW ロールプレイ	3-1 会議室
第10回 2.6	成果発表会	3-2 会議室
第11回 3.5	成果発表会	3-1 会議室

3. 院内研修 講師担当

日付	内容・テーマ	開催場所
4. 2	新人オリエンテーション「専門看護師について」	講堂
6. 3	ラダーⅠ研修「認知症看護」	講堂
6. 26、7. 19 9. 25、10. 25	ラダーⅢ選択領域研修 「そうだったのか！実践に活かせる認知症の基礎知識」	3-2 会議室
7. 25	第17回医療安全週間セミナー 演劇「あなたの知らない世界」	講堂
8. 29	ラダーⅢ研修「看護倫理・認知症ケア」	3-1, 2 会議室
10. 3	第4回認知症ケアチーム研修 「そうだったのか、認知症ケア」	講堂
11. 6	4B病棟学習会「認知症のキホンのキ」	4階 CF ルーム
11. 28	ラダーⅡ研修「看護倫理」	講堂
1. 15、1. 16 1. 22、1. 23	看護補助者・MH・クラーク合同研修 「認知症患者へのケア」	講堂
1. 27	7A病棟学習会「せん妄のキホンのキ」	7階 CF ルーム

4. その他

- ・2019年8月26日 くすのきセンター 湖東圏域認知症疾患医療連携協議会 参加
- ・2019年5月25日 ふれあいまつり ポスター掲示
- ・彦根市立病院広報誌「かがやき通信第25号」 投稿
「院内デイケア 夏まつりについて」
- ・2020年2月28日 くすのきセンター くすのきホームドクター交流会 参加

5. 所感

認知症ケアチームでの活動を中心に院内における認知症ケアの質の向上を目指し活動を行った。今年度終盤には、コロナウイルス感染予防において計画内容の変更・中止を余儀なくされたが、大部分は計画に即して行うことができた。特に院内デイケアでは、新たなボランティアの参加・協力もあり、アクティビティの開発、行事の開催など内容を充実することができ、より多くの患者の参加を得た。

チームの運用については、ようやく枠組みやシステムが浸透し、チーム目標の1つである薬剤調整における療養生活への影響の最小化に向けて取り組むことができた。それらについては、学会発表等を通して、現状を明らかにし今後の活動への示唆を得ることができた。さらには、認知症高齢者の体験している世界を想像することの必要性を伝え、アセスメント、ケアの変革を目標としていた中で、チーム研修において演劇を通して表現し、参加者からの反響の大きさから手ごたえを感じることができた。認知症という疾患だけでなく認知症の人や抑制に対する関心の高まりが感じられ、抑制実施率も年々減少傾向にはある。

しかしながら、実際の認知症ケアにおいてはチーム介入による評価可能な成果は得られておらず、介入のメリットは実感されていないのが現状である。これらのことは、チーム医の退職、活動時間の不足等もあり、チームとしての多角的なアセスメントが不足し、課題やニーズに即したタイムリ

一な助言や病棟看護師の気付きを促す効果的な伝達が行えなかったこと等が要因といえる。また、リンクナース会が発足され啓発活動により、認知症ケア加算算定漏れの大幅な減少に至ったが、部署に応じた課題の抽出や活動に対して十分な支援が行えなかったことにより、認知症ケアの質の向上へ機能することはできなかった。

来年度は、必要とされるチームを目指し、課題やスタッフのニーズに対してタイムリーに科学的な対応を行っていきたいと考える。そのためには、急性期病院の特性を意識しながら、ニーズを明確化・焦点化して、働き方改革との共存をはかりながらチーム力を強化していくことが必要であり、具体的な方策についてチームで検討を重ねていきたいと思う。またリンクナースの教育を強化し、活動の充実や連携によって目標に近づいていきたい。

18. ボランティアの方によるリラクゼーション座

毎月金曜日（隔週） 7階デイホール 13時30分～

毎月2回、ボランティアの方による患者向けのイベント「リラクゼーション座」を開催している。現在はギター演奏、よし笛演奏、ハーモニカ演奏、折り紙教室、クラフト教室、ピアノ演奏の六種類があり、患者と一緒に歌をうたい、手を動かして作品をつくるなどして楽しんでいる。

また、滋賀県立大学人間看護学部未来看護塾の学生も参加していただいております、患者とコミュニケーションを取りながら、いっしょに楽しい時間を過ごしている。



19. 第 10 回 彦根市立病院ふれあいまつり

5月25日、今年も五月晴れのもと、YOSAKOI ソーランの迫力ある演舞で、第10回彦根市立病院ふれあいまつりの幕があいた。

今回のメインテーマは、「おかげさまで10周年！！健康つなぐふれあいまつり」で、例年通り看護の日イベントを兼ねて開催した。”予防に勝る医療はない”と言われるが、日々の生活を見直し健康であり続けることをテーマとし、たとえ病気になったとしても救急や専門的な医療が受けられる彦根市立病院が身近にあることを知っていただきたいとの思いで企画した。

今年は、外科縫合体験、注射薬調製体験など、専門職である医師や薬剤師が直接アドバイスしながら、学び、楽しんでいただくという体験コーナーをより充実させた。子どもを中心に多くの参加者の方々が、日常では味わえない体験に大変満足された様子であり、病院まつりならではの企画を提供できたのではないかと思う。

この「彦根市立病院ふれあいまつり」は、地域住民に開かれた病院を目指し、病院の実情を知ってもらうと同時に我々の思いを地域住民の皆様へ届けることを目的に始まった。

今年でついに10年連続のイベント開催となり、いまや日本有数の病院イベントに発展した。これも、忙しい日常業務を終えた後に、準備をしていただいた関係者の努力と、この病院のよいところを知ってもらいたいとの熱い思いの結果である。また彦根市民健康サポーターズ倶楽部、滋賀県立大学、彦根ライオンズクラブ、福祉団体、協賛企業など様々な団体と一緒に作り上げた催しでもあり、ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。

これからも、地域住民の皆様へ親しまれ、安心とぬくもりのある、地域に貢献できる自慢の病院を目指していろいろな取り組みを行っていくが、この「ふれあいまつり」がその一助となることを願っている。

20. 出前講座出務状況

	日 時		場 所	講 師	テ ー マ	受講者数
1	5.10 (金)	10:30~11:30	八坂町公民館	北川智美	健康長寿をめざして	50人
2	7.9 (火)	10:00~11:30	平田町大沢会館	北川智美	元気に暮らすための毎日の習慣 10か条	50人
3	8.9 (金)	9:30~11:00	稲枝地区公民館	北川智美	健康でイキイキ長生きのコツ	70人
4	11.19 (火)	9:30~11:00	高宮地域文化 センター	黒丸尊治	健康ユーモアのすすめ	40人
5	11.20 (水)	10:30~11:30	中老人福祉 センター	北川智美	元気に暮らすための毎日の習慣 10か条	40人
6	12.26 (木)	9:30~11:00	河瀬地区公民館	北川智美	健康でイキイキ長生きのコツ	10人
7	2.18 (火)	10:00~11:00	田原町自治会館	北川智美	健康でイキイキ長生きのコツ	30人
					合計	290人

21. 訪問看護ステーション事業

ア 利用状況

区 分	利用者数 (人)	訪問延回数 (回)
医療保険	57	1,626
介護保険	220	6,898
合計	277	8,524

(グループホームへの施設訪問2件あり 対象は入所者)

イ 疾患別分類

区 分	人数
がん	73
循環器系疾患	53
内分泌系疾患	30
難病	23
呼吸器系疾患	17
認知症	16
腎泌尿器系疾患	14
整形系疾患	13
消化器系疾患	12
脳血管系疾患	11
皮膚・皮下組織系疾患	6
血液・免疫機能系疾患	5
先天性奇形	3
精神疾患	1
合計	277

(訪問主疾患名)

ウ 訪問看護内容 (重複看護内容あり)

区 分	人数
病状観察・介護相談・指導	277
家族ケア	229
内服薬管理	173
保清 (清拭・入浴介助等)	114
創処置	63
排便コントロール (GE・摘便)	60
膀胱留置カテーテル管理	30
リハビリ	22
褥瘡管理	21
血糖測定	21
インスリン管理	20
吸引、吸入、排痰ケア	20
ストマ、腎ろうケア	18
在宅酸素療法	18
注射 (皮下・点滴・CV など)	14
経管栄養 (胃ろう・腸ろう等)	7
膀胱洗浄	6
気管切開管理	5
人工呼吸器管理	3

エ 看取り場所

病 院	自 宅
54名 (内 入院期間 10 日以内 16名)	19名 (内 がん 10名)

オ 年齢男女別利用者数 (グループホーム利用者は除く)

	0～ 6 歳	7～ 19 歳	20～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80～ 89 歳	90～ 99 歳	100 歳～	合計
男	1	1	2	2	6	32	59	21	2	126
女	0	0	5	4	9	27	71	33	2	151
合計	1	1	7	6	15	59	130	54	4	277

22. 通院治療センター

“通院治療センター”の対象患者は外来で化学療法を受ける患者であり、ベッド数は12床で運用している。主な利用者は悪性腫瘍で薬物療法を受ける患者、関節リウマチや炎症性腸疾患等で生物学的製剤を使用する患者である。

年々対象となる薬剤が増え、利用患者数は増加傾向である。治療内容に関しては、悪性腫瘍に対する従来の殺細胞性抗がん薬や分子標的治療薬に加え、新規の作用機序を有する免疫チェックポイント阻害薬が保険承認され適応疾患も拡大傾向であり、治療の高度化・専門化が進んでいる現状である。

1. 述べ件数

総件数 2,925 件

①がん薬物療法 2,789 件

②生物学的製剤 136 件

【科別件数】

①がん薬物療法

血液 内科	消化器 外科	消化器 内科	乳腺 外科	泌尿 器科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	口腔 外科	婦人科	脳外科	計
692 (皮下 注 423)	627	424 (皮下 注 6)	375 (皮下 注 22)	242	172	129	85	24	19	2,789

②生物学的製剤

整形外科	消化器 内科	膠原病 内科	計
50	49	37	136

2. 実質患者数

実質患者数 323 名(前年度 288 名)

①がん薬物療法 303 名(前年度 271 名)

②生物学的製剤 20 名(前年度 17 名)

【科別患者数】

①がん薬物療法

消化器 外科	血液 内科	消化器 内科	乳腺 外科	泌尿 器科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	脳外科	口腔 外科	婦人科	計
79	62	39	34	30	24	22	6	4	3	303

②生物学的製剤

消化器 内科	整形 外科	膠原病 内科	計
8	7	5	20

3. 疾患(部位)別 実質患者数

①がん薬物療法

疾患 (部位)	大腸	肺	悪性 リンパ腫	乳腺	胆膵	胃・十二 指腸	多発性 骨髄腫	尿路 上皮	骨髄 異形成 症候群
患者数	68	46	34	36	24	19	18	13	10
疾患 (部位)	前立腺	腎臓	脳腫瘍	頭頸部	子宮卵 巣腹膜	原発 不明	神経内 分泌腫瘍	その他	計
患者数	9	8	6	4	3	2	1	2	303

②生物学的製剤

疾患	関節リウマチ	潰瘍性大腸炎	クローン	計
患者数	12	7	1	20

4. 今年度の振り返り

当院は湖東医療圏のがん診療連携拠点病院であり、この地域のがん診療において果たすべき役割は大きい。エビデンスに基づいたがん診療を提供する役割を担っており、新規殺細胞性抗がん薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬など最先端の治療を当センターでは行っている。

治療が高度化・専門化している中で患者数は増加の傾向にあり、安全で最適な治療を提供するためにチーム医療は欠かせないものとなっている。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・検査技師・ソーシャルワーカー等の多職種が連携して取り組み、全患者が専門的な治療を安心して外来で継続できることを目標に、患者の立場に立った真心のこもった治療を提供していきたいと考える。

23. 彦根市立病院新改革プランの推進について

「彦根市立病院新改革プラン」（以下「新改革プラン」という。）は、湖東医療圏で必要とされる医療の提供体制を確保するため、平成 28 年度～令和 2 年度を計画期間として策定された。その中で当院は、不採算医療および高度・先進医療を提供する役割を担うため、経営の安定化を望まれている。

この役割を果たしていくためには、持続可能な経営が重要となる。新改革プランの初年度である平成 28 年度の経常損失は▲943 百万円、平成 29 年度では▲413 百万円と続き、平成 30 年度こそ▲53 百万円まで損失を縮小したものの、いずれの年度も新改革プランの収支計画から乖離している。そのため、経営の建て直しは喫緊の課題である。

令和元年度は、新改革プランの目標達成のため、経営の効率化を重点的に取り組んだ。

1 各部門目標設定

令和元年度は、全体目標を（表 1）のとおり設定し、各部署でこの目標を達成できるよう単価および患者数増加の方針を立てた。併せて、新たな診療報酬の算定を積極的に進めることとし、60 項目の診療報酬項目をリストアップし、関係診療科および部門の目標に反映するようにした。

目標設定後、各診療科および部門に対して院長ヒアリングを実施した（表 2）。第 1 回目のヒアリングで、各診療科および部門が設定した年間目標についてディスカッションし、その内容を踏まえて目標を確定した。また、平成 31 年度に経営改善以外に取り組む内容を業務改善として目標に加えた。第 2 回目のヒアリングでは、目標の中間報告と、期中の状況を踏まえた目標の修正を行い、第 3 回目のヒアリングで年間実績の評価および次年度の目標設定を行った。

（表 1）令和元年度の病院全体目標

入院単価	62,000 円
1 日平均入院患者数	342 人
外来単価	15,000 円
1 日平均外来患者数	940 人

（表 2）院長ヒアリング日程

第 1 回目	2019 4/23, 25, 5/9, 13, 15, 23, 28, 30, 6/6, 13	年間目標の設定
第 2 回目	2019 11/5, 8, 11, 19, 26, 28, 12/2, 12	中間報告および目標の修正
第 3 回目	2020 2/18, 20, 28, 3/6, 10, 12, 24, 31	年間実績の評価および次年度の目標設定

2 クリティカルパス部会

令和元年度は、診療プロセスの評価のため、疾患ごとに設定されている診療の標準計画（クリティカルパス）の見直しを行った。

対象となる診療科を見直しの効果が大きい（表 3）の診療科として部会を開催した。

（表 3）診療科パスアセスメント対象診療科および実施日

診療科名	実施日
循環器内科	5. 23
呼吸器内科・呼吸器外科	6. 20
泌尿器科	7. 18
外科・消化器外科	9. 12
脳神経外科	12. 9

クリティカルパス部会には、医師、看護師、医療技術職員および事務職員も参加し、クリティカルパスの適正運用、在院日数の最適化、包括される医療資源の最適化、加算等算定プロセスの見直し、DPC コーディングの最適化等についてディスカッションを行った。

3 経営推進会議

平成 30 年度に続き、当院の健全な経営推進とともに、職員の経営意識の高揚を図ることを目的として年 3 回、経営推進会議を開催した。

経営推進会議では、診療部長および各所属長向けに新改革プランの進捗報告、予算・決算に関する報告等を行った（表 4）。

（表 4）経営推進会議開催日程および議題

	開催日	議 題 等
第 1 回	6. 17	<ul style="list-style-type: none">・平成 30 年度の経営状況について・新改革プランの進捗状況について・地域連携の状況について・診療科パスアセスメントの結果について・令和元年度予算について
第 2 回	10. 21	<ul style="list-style-type: none">・新改革プランの進捗状況について・情報システムの更新について・地域連携の状況について・診療報酬重点 7 項目の状況について
第 3 回	2. 17	<ul style="list-style-type: none">・新改革プランの進捗状況について・地域連携の状況について

4 新改革プラン評価委員会

前年度に引き続き、令和元年度も新改革プランの進捗評価のため、院内外の委員からなる新改革プラン評価委員会を開催した。

第1回目の委員会（令和元年（2019年）7月18日開催）では、経営戦略室から平成31年度の新改革プランの取組結果、病院事業会計決算報告および平成31年度の新改革プランの取組について説明を行った。

外部委員からは、入院単価向上のための具体的な取組、医師確保の状況、長時間労働についての質問の他、他会計負担金（市からの補助金）についても質問があった。また、平成28年度、平成29年度と比べて、赤字幅が縮小していることを評価する意見もいただいた。

第2回目の委員会（令和2年（2020年）2月5日開催）では、経営戦略室から令和元年度決算見込、令和2年度病院事業会計予算等について説明を行った。

外部委員からは、健診センターの状況、働き方改革、メディカルスタッフの確保等について質問があった。また、地域包括ケア病棟の稼働状況は好調であると評価されたものの、令和2年度の診療報酬改定により、患者層の見直しが必要となることなどを指摘された。

24. 彦根みずうみの会活動報告

彦根みずうみの会は平成 26 年 3 月に発足した糖尿病患者の患者会です。

【春の小旅行】

開催日：令和元年 6 月 8 日（土）

場所：京都

参加人数：15 名（患者・家族 10 名、スタッフ 5 名）

よしもと祇園花月で「あさあさ新喜劇」を鑑賞した後、昼食は「京都綾小路 満月の花」でいただきました。個室でそれぞれの療養生活について、ゆっくりと語り合うことができ、食後は京都を自由に散策しました。



【第 5 回滋賀県糖尿病ウォークラリー】

開催日：令和元年 11 月 4 日（月・祝）

開催場所：長浜市の豊公園

参加人数：14 名

琵琶湖や長浜城の景観を楽しみながら、予定通り 2km のウォーキングコースを歩きました。風が強かったのですが、秋晴れのもと爽やかなイベントとなりました。

